

604
184

604-184



1200501531455

貿易經濟叢書
第五十二輯

支那貿易年報

民國三十三年
(一九三四年)

大阪市役所產業部貿易課編

604-
604
184

貿易經濟叢書第五十二輯

民國二十三年
(一九三四年)

支那貿易年報

大阪市役所產業部貿易課

民國二十三年
(一九三四年)

支那貿易年報目次

大阪市役所
寄贈本

第一章 總說

第一節 國際情勢

第二節 國內情勢

第三節 銀問題の推移

第四節 關稅問題

第二章 各地貿易概況

第一節 北部地方

第二節 長江上流地方

第三節 長江下流地方

第四節 中部沿岸地方

第五節 南部沿岸及西江地方

第六節 南部邊境地方

第三章 關稅收入

第四章 對外貿易

第一節 貿易額

第二節 國別貿易

一 一 三 四 六 九 九 一 三 三 三 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九



104-184

民國二十三年
(一九三四年)

支那貿易年報

第一章 總說

第一節 國際情勢

一九三四年の世界各國の政情は實に多事多難を極め、且つ事件の性質も複雑し、世界重要都市に於ける暴動、黨争内亂の發生、政黨首領の暗殺事件等枚擧に遑なく、實に文明國として誠に寒心すべき出來事の連続であつた。然し乍ら一方國際聯盟に依つて解決せる國際紛争も少くなく、殊に聯盟の偉力を發揮したのはユーゴ・スラビヤ對ハンガリーの紛争解決であつた。更に聯盟はザール公民投票問題に成功し又蘇聯邦の聯盟加入に依つてその内容を充實し、軍縮會議の召集、海軍豫備會議等の諸問題に活躍した功績も認めざるを得ない。

一方國際經濟の動靜を見るに、各國の貿易制限策は何等緩和されず寧ろ深刻化の状態にある。支那と密接なる通商關係にある英國及び佛國に就て見るも、一は大英帝國貿易ブロックを形成し、一は植民地貿易ブロックを以て當り、

第三節 輸入貿易 七
 第四節 輸出貿易 九

第五章 交通運輸 一三
 第一節 航運業 一三
 第二節 鐵道・道路及航空 一六

第六章 金融 一四
 第一節 金及銀 一四
 第二節 爲替 一六

第七章 移民 一七

第八章 結論 一八

【圖表】
 一、對外貿易累年比較圖 六
 二、對外貿易國別比較圖 六
 三、重要品輸入額比較圖 七
 四、重要品輸入高累年比較圖 七
 五、重要品輸出額比較圖 一〇
 六、重要品輸出高累年比較圖 一〇
 七、各國出入船舶噸數比較圖 一四



之が爲め支那の輸出貿易は實に難澁を極めた。又獨逸との貿易關係に就ても或は貿易統制或は爲替管理等に依つて兩國の貿易關係は孤立状態に陥り、宛然物々交換式の原始貿易型態に逆轉せるかの奇觀を呈した。尤も諸國との間に貿易協定の成立を見たるものも少くなく、該協定によつて關稅障壁を幾分緩和した事は事實である。然し右の協定は單に相互的のもので多邊的性質を有せざる爲め、國際的効果を齎すに微力であつた。多邊的貿易協定の實例としては、所謂白耳義、佛蘭西、和蘭、伊太利、ルクセンブルグ、波蘭、瑞西諸國によつて形成される所謂金ブロック集團を擧ぐべく、これは一九三三年倫敦世界經濟會議直後成立せるものである。尙これに類似すべきものにスターリング・ブロックがあり、前記金ブロックの如き完全なるブロックではないが、相互貿易の増進に相當の効果を收めてゐる。

要するにこれ等二大ブロックの存在は現下の國際貿易不振打開と爲替の安定上大なる貢獻を示してゐる。金ブロック諸國がブロック内に於て貿易の増進を求めるとは非常な困難を伴ひ、從て必需品の供給はブロック外の諸國より求めねばならぬ。蓋し金本位國の物價と金本位停止國との物價の間には著しき開きを有するが爲めである。茲に於て金ブロック諸國は金本位を堅持するが爲めに、對内的には貿易の衰微國內産業の不振を受け、對外的には磅と弗との壓迫を受けて窮地の立場に置かれてゐるのである。然しこれ等金本位ブロックが一度崩潰せんか、忽ち世界幣制は現在以上の紊亂を來すべく、金ブロックの存亡に關しては世界的關心を集めつゝある所以である。ブロックの問題と共に重要視すべきものは、金及び銀の動靜であり最近特に複雑を極めてゐる。金價の暴騰はフランの奔騰となり、

更に米國が金保有令を出してより金價は未曾有の高値に達した。米國は曩に私人の金貨私有を禁止しこれを國有としたが、更に一九三四年末に至り金保有令實施によつてこれを強化するに至つた。同令發布の主旨は要するに「現下國家の情勢より見て金貨は既に流通貨幣たるの地位を失ひ、只國際貸借の決済用としてのみ價値を有するものなれば宜しくこれを回收し改鑄して金塊として保存すべきが得策である」と云ふにある。この法令と共に聯邦準備銀行の保有せる金貨及び金塊は總て國有となり、更に政府は法定平價を五九・〇六%に引下ぐると共に銀買上令を發布し銀準備量を増加した。米國の通貨政策は益々金本位ブロックの脅威を増大せしめ、殊に銀買上法案の實施は支那に影響する所至大であつた。

第二節 國內情勢

一九三四年の支那國內情勢は各地方とも前年に比し平穩であり、一方國際關係も中日關係はもとより非常時の感を免れないが、幸ひ北平政治分會の措置宜しきを以て舊北寧線的全通を見るに至つた。國內の兵亂に就ても福建省に於て年初動亂の發生を見たるも間もなく平定し、廣西の共產軍も年内には終熄し、匪區の商業も平常に復歸し得たのである。只江蘇、安徽、浙江、江西方面に於て旱害の天災があり、その他各省にも程度の差こそあれ天災の被害を受けてゐる。政府及び經濟委員會に於て農村の救濟、商工業の振興、或は幣制の改革等に就き懸命の努力を拂ひつゝある

が、何等具體的の解決を見てゐない。

凡そ國內經濟の積極的進展を計らんとするには貿易の振興によるの外なく、各國共この點を急務と考へつゝある所以である。殊に支那に於てはその購買力にありて尙他國に一步を譲る上、世界貿易不振の餘波を受けて貿易額の衰退著しく一九三四年の貿易額は前年に比し二割減であつた。

第三節 銀問題の推移

一九三三年倫敦の世界經濟會議に於て通過せる議案數項中最も重要問題は銀協定であつた。該協定の主旨は銀價の變動を防ぎこれを安定せしめんとするにあつて、その主旨は極めて結構であるが、協定實施後の情勢は果して支那に有利なりしや疑問と云はざるを得ない。即ち支那土産品の海外市價を考慮せずして徒らに銀價の人為的引上をなすことは支那の貿易逆調を累加せしむるに過ぎない。現に國內の銀は益々海外に流出しつゝあるのであつて、一九三三年の數字に就て見るも從來の金銀入超は一躍出超に轉じてゐるのを知ることが出来る。一九三四年に入るや米國の大量銀買上が實行され世界市場に波瀾を捲起したが、銀本位國たる支那への影響は特に大きかつた。

銀協定に對し最初に批准を了せるは米國にして、十二月二十一日批准せられ、同時に國內銀買上法案を發布して一九三四年一月より向ふ四ヶ年に亘り少くとも二千四百四十二萬一千四百十オンスの國內新産銀を買上ぐる旨發表した

米國の批准完了とともに各國相次いで批准せられ、支那亦自國貨幣保護を目的とする附帶聲明をなしてこれに批准した。

各國の銀協定批准を了するや米國は一九三四年更に一步を進めて金準備法令を公布し、更に六月銀買上法の公布により金準備量に對する銀準備量の比率を四對一迄引上げ、此限度に達する迄國內及び國外に於て銀の買上を行ふこととなつた。尙該法令を補足する爲め八月九日大統領宣言を以て銀國有令が實施せられ、之が爲め益々支那の通貨制度を脅かす結果となり、支那の銀は續々紐育及び倫敦の兩市場に集中するに至つた。茲に於て支那は再三米國に對して抗議をなし、銀政策の緩和方勸告せるも何等解決を見る事なく、米國の銀政策は益々強化せられたるを以て、支那は獨自の見地より保護策を講ずるの止むなきに至つた。即ち一九三三年四月以來實施せる從價二・二五%の輸出税を改めて(一)銀貨及び鑄造用銀塊の輸出税を一〇%とし、右より二・二五%の鑄造費を差引たる七・七五%を以て正味輸出税とする事、(二)倫敦の銀塊相場と上海に於ける中央銀行の爲替相場との間に輸出税を控除して尙且つ差額を存する時は差額に應じて平衡税を課する事とし、何れも十月十五日より實施せられたのである。十月十三日迄の銀出超額(補助貨幣)は二億三千六百六十萬元に達し、前年の出超額が一ヶ年を通じて僅かに一千四百四十萬元なるを知る時輸出制限の必要が痛感される譯である。銀輸出制限策は直ちに効果を現はし、十月十三日以降十月中の輸出は皆無となり、十一月中は一千四百四十萬元、十二月中は一千二百萬元の少數に止まつた。これを八月の七千九百四十萬元、九月の四千九百

萬元、十月上旬の五千六百九十萬元に比すれば雲泥の相違である。若し八、九月の頃に輸出制限の必要を痛感し、平衡税の實施を見たならば年末數ヶ月の間に銀の流出は完全に喰止め得たであらう。國內金融市場は該制限實施當時は多少不安を感じたが、政府の處置宜しきを得、爲替平衡委員會の設立を見て平衡資金を準備せる爲め銀元相場は大して變動を齎らさなかつた。

斯の如く銀の世界的強調は支那の金融並に經濟組織に危機を齎らし、上述の辦法實施によつて辛うじて切抜け得たものゝ、これは固より一時的効果に止まり、將來情勢の變化に伴ひ適宜對策を改變するに非ずんば支那貨幣問題の完全なる解決を計り得ないであらう。然し銀價の前途は畢竟米國銀買上法の進展如何に依つて決定するを以て、今日これを豫想し難いが、尙銀問題に關しては章を改めて詳述することとする。

第四節 關 稅 問 題

密輸の取締 支那の關稅自主權確立以來輸入税が再三引上げられた結果、沿岸各地及び陸路邊境地方の密輸傾向が漸次顯著となり、殊に南支即ち香港、澳門、廣州灣方面が盛で次第に全支海岸に及ばんとしてゐる。就中臺灣對岸地方に於ては最も大々的に密輸が行はれて居り、臺灣より高稅率商品を積込んで潜かに福建沿岸の島嶼村落に上陸し更に内地方面に賣込んで巨利を収めてゐる。關東州と北支海岸との間にもこの種の不法行爲が屢々行はれてゐるが、

大連及び滿洲各港の出入船舶並に貨物に關しては何等支那の監督權なき爲め如何ともし難く、益々密輸傾向を助成するのみである。

密輸防止對策に就ては既に海關内に密輸取締處を設置して積極的工作を實施しつゝあるが、設置以來四年に過ぎざるにその實績見るべきものである。その二、三の事例を挙げれば、(一)海陸巡察隊を訓練して取締力を充實し、(二)沿海各所を數個の密輸區域に區分し、各區の要衝には海關分所を設けて防止に當り、(三)取締員服務規定、航海民船管理規定、船舶積荷目録提出規則、通關人取締規定、保稅倉庫規定、戻稅規定、船用石炭及船舶用品規定等の諸規定を勵行して積極的取締を實施する等萬全を期してゐるのである。更に本年に入りては特に取締巡邏船を建造し既に年内に完成せる外、六月十九日には海關密輸防止條令を公布し、又小包検査辦法を沿岸又は邊境地方に適用し海關の検査を嚴重に勵行して小包による密輸防止に染手せること等の特記すべきである。尙民船航海規定の改正、沿岸各地に海關分關五及び分所三を増設し、長城各口に分關五、分所一を増加せることも取締策の一に數ふべきである。

本年中に海關が沒收せる密輸品價額並に罰金額の合計は國幣七百九十萬元に達しこれを前三ヶ年の夫々二百七十萬元三百七十萬元、六百四十萬元に比較し非常な激増を示してゐる。密輸品の主なるものは人絹及び砂糖で夫々七十二萬七千二百八十八疋、六萬二千五百十五キントルに達し兩者で全体の六二%を占めてゐる。又密輸に従事せる船舶數も汽船八十七隻、民船七百五十二隻、長船四十三隻の多きに達し、前年の夫々二十七隻、四百八十五隻、百二十二隻に比

し之亦激増である。只長船の密輸が減少したのは澳門一帶の弊が一掃された爲めである。尙密輸取締に従事せる職員の殉職者として支那人官吏六名、外國人官吏一名を出した事も想起せねばならぬ。

新度量衡の採用 從來の支那度量衡制は十進法ではあつたが、その單位が地方により各々異り、紊亂して據る所なき状態であつたのに鑑み、支那政府は科學的標準度量衡制を實施するに至つた。政府は前年廢兩改元を實施して全國の貨幣を統一したが、本年二月一日全國に通令して新度量衡制を布くこととなり、海關貿易月報は二月より全部この新制度に據ることとなつた。

稅則の變更 新度量衡實施と共に海關は二月一日より一九三三年改訂の輸入稅則及び轉口稅則を新度量衡制に改めたが、稅率はその儘據置かれた。然るにその後輸出貿易日に銷沈の情勢に備ふる爲め六月輸出稅の輕減を實施し、次いで七月には輸入稅則に若干の改變が加へられた。その中稅率を引下げたものは捺染及び雜綿布、魚介及び海產物紙類等であり、引上を見たるものは棉花、金屬、機械器具、金屬製品、食料雜貨、雜穀、藥材、香料、蔬菜、化學產品、染料顏料、油脂、植物油、木材、竹籠、麥稈製品等の諸品で一般に引上品目が多かつたが、據置品目も少くなかつた。

稅 收 對外貿易額は前年に比し二割の減少であつたが、海關稅收は前年の三億三千九百五十萬元に對し三億三千四百六十萬元で、減少率は僅に一・五%に止まつた。尙關稅擔保となれる内外公債及び賠償金の返還は滯なく行

はれた模様である。

第二章 各地貿易概況

第一節 北 部 地 方

秦皇島 滿洲事變以來この地は兵禍に見舞はれ、且つ匪賊の跳梁も甚だしかつたが、塘沽協定の成立により遼榆地方は漸く秩序恢復し始め、更に本年二月二十日山海關が支那に回收されて民心安定し失地の恢復によつて貿易は頗みに活氣を呈した。又三ヶ年の久しい間中斷されてゐた北寧鐵道は遂に七月一日通車を見るに至り、旅客數は少いが貨物運輸は好成績を收めてゐる。かくして同鐵道の完全通車は遼東及び北支の政局を安定せしめたと共に、秦皇島の貿易を明朗ならしめたのである。殊に山海關は北寧鐵道の要衝に當り十三ヶ月間に亘り貨物の停滯と海關事務の澁滯に悩まされてゐた丈けに通車による影響見るべきものがあり、試みに山海關分關の本年度收稅額に就て見るも十七割五分の激増を示せることが知られる。

檢關一帯は密輸旺盛を極め、秦皇島海關に於ては春巡察隊を組織し孟家店、石門寨、義院口の各地に派遣し、一方海上方面の探查は巡邏船一隻を以てこれに當らしめ徹底的に之が防止に努めた。之が爲め密輸沒收品に對する課稅額は前年の六倍に上つてゐる。

最近二ヶ年の貿易額を比較するに次の如くである。

▼最近二ヶ年秦皇島貿易額比較 (單位百萬國幣元)

	一九三三年	一九三四年
直接輸入額	二・六	二・八
直接輸出額	五・一	六・一
土貨移入額	七・一	六・二
土貨移出額	一九・六	一七・〇

前表中直接輸入額の増加せるは沒收商品の激増に基因するものであり、約二十七萬五千元(以下貿易額に關する限り總て國幣元を指す)に達し、砂糖及び人絹が主なるものである。輸出品の大宗たる落花生は輸出稅の低減によつて活況を呈し、普通板硝子も十二萬平方呎の輸出を示し一倍半の激増を見、厚硝子板も六萬三千五百元の多額に上り、主として香港、マニラ彼南、新嘉坡の各地に輸出された。石炭の輸出は前年二百三十萬噸に過ぎなかつた後を受けて二百七十萬噸と増加しそ

の中日本向四十九萬五千噸、朝鮮向十三萬六千噸、香港向四萬一千噸であつた。本年度開濶炭の輸出は統計上は樂觀すべきものがあつたが、營業の實情は相當の窮狀を示したものと如くである。而してその原因としては(一)日本金の暴落、(二)礦稅の實施、(三)勞働者の動搖等を擧ぐべきである。尙この外日本内地炭と支那他所炭との競争も重要な素因を作つて居り、之が爲め開濶炭のF・O・B價格は毎噸八元八十五仙より六元八十五仙に低落し、コークスも噸當り二十六元より十八元に轉落を餘儀なくされた。之が爲め礦務局は採炭の制限をなすに至り、柳江炭坑も上海及び長江沿岸一帯の需要不振の爲め生産制限に出づることゝなつた。

天津 日支交渉當時は時局に對する不安から民心落着かず商業方面も爲めに萎縮したが、圓滿交渉成立と共に地方の民心は漸く安定した。農作物は一般に豊收であつたが、河北省の南部は黄河の氾濫によつて災害に見舞はれた又銀の大量流出は本年度二千三百三十萬元の多額に上り、金融市場の混亂によつて貿易に不測の損害を與へた事は事實である。

本年度天津貿易額は直接輸入九千六百七十萬元、前年の一億二千八十萬元に比すれば二〇%の減少で、土產品の移入は一億一千四十萬元より一億二千三百四十萬元と一〇%の増加である。直接輸出は前年の八千八百五十萬元より八千百十萬元と八%の低落であり、土產品の移出も六千七百九十萬元より五千六百七十萬元と一六%の低減を示してゐる。輸入の低減は麥粉及び雜穀の輸入不振に由るもので該品のみで二千萬元の激減となつてゐる。其他の輸入品は

消長不同なるも綿布、石油、砂糖は何れも低減し、毛織物、人絹布、魚介及び海産物、煙草、金屬及び鑛、機械及器具、車輛及び船舶、木材等は増加を示してゐる。殊に金屬及び鑛以下の四品は山西省同蒲鐵道の建設用としてレール、機關車の大量購入を見た結果である。

輸出貿易は前年に比し七百四十萬元の減少となつてゐるが、これは主として棉花の激減に依るものである。本年の棉花輸出高は數量にして十六萬二千キントル、金額にして一千二百萬元に過ぎず、前年の二十七萬六千キントル、一千九百八十萬元に比し著しき減少となつてゐる。其他の重要輸出品も數量は増加せるも金額は低落の傾向を示し、羊毛の如きも數量は十三萬キントルより十三萬八千キントルと増加せるも金額は一千三百四十萬元より一千二百七十萬元に低落してゐる。その他の輸出品も略々同様の傾向を示してゐる。

本年の出入船舶は大體前年と變りなく、出入船舶數は六百萬噸を維持し得た。但し海河の状態は決して良好とは云ひ難く、時々永定河、大清河、白河、西河、御河等の支流より多量の土砂を誘導し、之が爲め船舶の運航に多大の支障を來した。水位は一時十三呎を維持してゐたが、其後十一呎に低下し年末に至り辛うじて吃水十三呎級の船舶を入港せしむる事を得たのである。海河の改修案に就ては民國六年に一大計畫をなし永定河の水を直接海に注入せしめ、以て泥砂による海河の埋没を防がんとしたが、該計畫は種々の理由に依つて今尙實現さるゝに至らない。

尙密輸の取締に關しては年中萬全を期して行はれた結果、罰金及び沒收によりて得たる収入は七十五萬一千七百九

十六元に達し、一方滿洲國境及び熱河方面の陸上の密輸を防ぐ爲め長城各口に五ヶ所の海關分所を設置した。

龍口 支那各地の旱害に反し當地は降雨潤澤にして、農作物も豊收を見たが、煙臺灘縣の自動車路杜絶、西部地方の土匪横行、黄河河口の海賊猖獗等の貿易障碍事項も少くなかつたが、大體に於て平穩であつたと云へる。電燈公司は新たに發電機一基を設置して配電能力を増し、電話施設も完成せる外、碼頭の倉庫新設も數ヶ所に上る等何れも市面の活氣を物語るものである。但し貿易額は前年に比し低減し移入土貨は六百二十萬元より六百萬元に、輸出土貨は三百六十萬元より三百二十萬元に、移出土貨は三百十萬元より二百四十萬元に低落した。唯直接輸入貿易のみが百八十萬元より二百三十萬元に増加した事は注目される。

本年度輸入品中人絹糸は前年の一萬二千六百九十キントルより一躍十四萬八千五百五十四キントルに激増してゐるが、これは販路の擴大を意味するものでなく密輸品が多い爲めとされてゐる。砂糖も四千二百六十キントルより一萬六千五百七十一キントルに激増してゐるが、これも同様の理由によるものである。綿布の輸入減は日本綿布の需要不振を意味するものでなく、圓安以來日本綿布の價格低落し需要増大せることは事實であるから、これも多分密輸關係に由るもので統計上現はれぬ爲めであらう。石炭は圓安と運賃昇騰とによつて省内産石炭は北票炭及び撫順炭に押され、これ等の輸入は前年に比し一萬噸の増加を示してゐる。主要輸出品に就て云へば素麵の輸出が七萬八千四百九十四疋に達し前年より七千五百三疋を増加してゐるが、該品は主として香港向である。取引價格も一疋當り二十六元より三

十一元と騰貴してゐる。牛の輸出は主として大連向であるが、二千二百七十頭の多きに達し、蔬菜、麥稈、毛筆、神香等の諸品も夫々増加してゐる。

龍口と滿洲沿岸とは海を隔て、近接し居る爲め、密輸も旺盛であるが、海關に於てもこの點に注目し廟島上に取締所を設けて防止しつゝあるが、設置後短期間の成績は見るべきものがある。

芝罘 前年來時局平穩の爲め各種の都市計畫が進捗し、先づ一月公園の完成を見たが更に南山の林区を開放して公園とし市民の遊歩地として利用せしむることとなつた。この外岸壁の築造、市内コンクリート道路の鋪裝等の諸工事が完成を見たる外、個人の土木工事も相次いで進展を見たが何れも市街の繁榮を物語るものである。本港の貿易に就ては二、三輸出品が増加した外大して變動を見なかつたが、最近二ヶ年の貿易を比較すれば次の如くである。

▼最近二ヶ年芝罘貿易額比較 (單位百万國幣元)

	一九三三年	一九三四年
直接輸入額	七・六	九・七
土貨移入額	二〇・一	二一・七
直接輸出額	一〇・三	七・九
土貨移出額	一五・八	一三・三

前表に就て見るに本年の貿易額は總体的に低落を免れないが、細別すれば直接輸出額並に土貨移出額は一九%の減少であり、輸移入額は一三%の増加である。この外密輸品が相當多い事は云ふ迄もなく、これ等は正確に知り難いが、前記輸入額九百七十萬元中二百萬元は密輸の沒收品であり、關稅收入の三分ノ一は密輸品より徵收されたる事實を想へば容易にその程度を知る事が出來よう。殊に當地は地理的關係上海岸線が非常に長く自然密輸を助長する傾向がある。これに對する海關の防止策も積極的に行はれ、巡邏船四隻の來援を得て原駐一隻と協力してこれに當つた結果七ヶ月間に百三十件の密輸事件を摘發した。正當の輸入品に就て特筆すべきは日本綿布の市場獨占であるが、これとて七月迄は密輸が多く、漸く七月の稅率引下後に至り正規の輸入を見たものである。刺繡用亞麻布の輸入も倍加し居れるが、これは主として英國及び白耳義より輸入されたものである。人絹の輸入は寧々たるものであるが、統計に計上されてゐる三十六萬八千疋の殆んど大半は密輸沒收品と見て差支ない。砂糖も亦然りで統計中の一萬九千疋は殆んどこの種の不正行爲に基くものである。この外増加せるものとしては液体燃料、ガソリン、石油、機械油、建築材料(セメント)等の諸品である。輸出品の中激増を示したものはヘアネットの六十萬哥を擧ぐべく、仕向國は獨逸、米國、佛國、英國の諸國である。糸拔製品は外國向は減少したが、沿岸移出は倍増を示してゐる。刺繡品は米國の需要もさる事乍ら、濠洲、海峽植民地、緬甸、蘭領東印度等の新市場の輸出が活況を呈し、レースも國內賣行活潑に加へて濠洲及び海峽植民地の新市場進出が目立つてゐる。絹綢の輸移出は一五%の激増であつたが、果實は收穫減の爲め

輸出も低減し、素麺は生産不振、落花生も昨年に比して稍々遜色を免れなかつた。

威海衛 全年を通じ當地方の秩序はよく維持せられ、貿易は頗る活況を呈した。海關統計によれば輸入額は前年の百二十萬元より百八十萬元に増加し、土貨移入額亦二百九十萬元より三百二十萬元に増加を示してゐる。之に反し輸出額は三百十萬元より二百三十萬元に減じ、土貨移出額亦百四十萬元より百三十萬元に減退してゐるが、最近兩年間の貿易總額は殆んど大差を認めない。輸出衰退の原因は重要輸出品たる落花生の相場關係に因るもので、本年度落花生の輸出は數量こそ前年より増加せるも金額は反落し、其減少額は本年の直接輸出總額の減少額以上に達してゐる。本品の輸出狀況を細別するに穀付落花生は前年の四萬一千キントル、四十一萬九千元に對し、一九三四年は三萬五千キントル、二十六萬二千元に減退し、脱穀落花生は前年の十七萬六千キントルより十九萬五千キントルに増加せるに拘らず金額は二百六十萬五千元より百八十八萬八千元に減少してゐる。其移出も同様で數量の増加に拘らず金額の減退となつてゐる。該品の不況對策として政府は遂に轉口税を全免し輸出税の引下げをも實施せる結果、南支各地への移出或は香港、マニラ及び歐米諸國への輸出は漸次活況を呈するに至つた。同時に相場も徐々に恢復し同年中落花生専用運輸船の本埠に出入せる數は四十四隻に上つた。

漁業は年々盛大に向ひ鮮魚、鹽魚の輸出額は前年より著しき進境を示したが、從來漁獲に使用せられた帆船は近年

殆んどトロール船に代り、今や當港に登録せるトロール船の總數は四十四隻に達してゐる。

青島 貿易情況は幾分沈滞氣味で、海關統計によれば一九三四年の輸入額は三三年の七千八萬元より四千八百五十萬元に減少、土貨移入額は三千百十萬元より三千四百六十萬元に増加し、輸出額は四千百六十萬元より三千五百三十萬元に減少、土貨移出額六千九百十萬元より五千八百八十萬元に減少してゐる。然し注意すべきは南京、青島間に陸上の通運開け京滬、津浦、膠濟三鐵道の連絡頗る容易となり、上海青島間の貨物は海關を経由せず汽車便に依るもの漸次増加するに至つた事で、前述の貿易額は青島貿易の全貌を示すものではない。然し輸入減退の事實は争ふべくもなく、輸入のその三割に餘る激減は主として綿布、棉花、木材、砂糖、人絹、石油及び石炭等の減少に基因するものである。綿布(大部分は日本品)の輸入額は前年の一千二百八十萬元より四百四十萬元に慘落してゐるが、其輸入状態は稅率の變更と密接の關係を有してゐる。即ち一九三三年輸入税の引上後は急に輸入額を減少したが、一九三四年下半期には稅率の引下により其輸入は躍進するに至つた。外棉は山東省産出棉の進出により前年の六萬九千キントルより三萬四千キントルに減じ、金額亦六百五十萬元より二百七十萬元に低落してゐる。木材の輸入額は四百四十萬元より三百七十萬元に減じ、砂糖も嚴重な密輸防壓策が實施せられたが、二十一萬七千キントルより十九萬四千キントルに減じ金額は三百八十萬元に對する二百萬元の激落となつてゐる。人造絹糸の輸入量は一九三二年の八十四萬九千疋、三三年の七萬疋に對し本年は僅に三萬三千疋となり、之が爲に周村に於ける人絹紡織工業は極度の慘狀を呈した。石油は

四千六百萬立より三千八百萬立に、石炭亦四萬七千疋より一萬四千疋に各々其輸入量を減じてゐる。

輸出品は落花生の七百十萬元を筆頭に、煙草五百十萬元、卵及び其製品三百二十萬元、牛肉三百十萬元、落花生油三百萬元、食鹽一百七十萬元、麩一百七十萬元、豚毛百十萬元等にして、次いで豚、綿糸、落花生粕、牛皮、石油、生糸及び屑糸、卷煙草、落棉及び屑棉、骨粉、麥稈真田、果實、藥味胡椒、豚腸、鱗寸等が重要視されてゐる。以上の如く落花生は當港第一の輸出品であるが其貿易狀況は前項の威海衛に於ける同品と大差を認めず、一九二四年乃至一九三一年の落花生は一擔十元であつたが一九三三年末より相場の下落激甚となり、翌三四年始には最低一擔三元九角となつた爲めに滞貨巨額に上り商家の破産に瀕せるもの枚擧に遑なく、憂ふべき情勢に立至つたので、中央政府並に本市當局は輸出税、検査費、碼頭税及び運賃等を輕減して頽勢の挽回に努めた。其結果需要並に價格も漸次恢復し年末には五十疋に付六元三角即ち一擔七元六角二分と昂騰するに至つた。斯くて同年落花生の輸出量は前年の五十八萬六千キントルより十一萬六千キントルと増加せるも、金額は百七十萬元の減少となつた。落花生油も同じく輸出量は三萬キントルを増加せるも金額は六十萬元と反落した。

一方開發事業に就ては本省西南諸川の整理により洪水の憂を除けるのみならず、三百萬畝の良田が開拓せられ、小清河の開鑿事業も着々實現せられつゝあり將來は濟南海濱間の船舶通航が可能となるであらう。この外全省百九縣中百六縣は相互に長距離電話を通じ、道路建設事業は實に全支中最優秀の成績を有すると云はれてゐる。青島の新船渠は既に竣工成つて優に五千噸級の船舶を入渠せしむるに足り、第五碼頭の建設工事も全工程の三分ノ二を終へ、其他各種の市政、教育事業も誠に注目すべき發達を示してゐる。

第二節 長江上流地方

重慶 四川省の各種商工業は異常の難局に遭遇し、倒産相次ぎ其破産を免れたる者は幸運と云はれる程の慘狀を呈してゐる。此間にありて重慶の貿易狀態が極めて不振の狀態に終始せることも誠に當然である。本年の輸入額は一九三三年の二百二十萬元より二百四十萬元に増加せるも、土貨の移入額は三千九百萬元より二千七百四十萬元に、即ち三〇%の激落である。輸出額は前年の三萬元より七萬八千元に増加し、土貨の移出額は三千七十萬元より二千七百十萬元に即ち一二%の減少である。斯くて一九三四年の總貿易額は前年に比し二一%の減少であるが、上海重慶間爲替相場の騰貴なくば貿易額の減少は尙一層大なるものがあつたであらう。

主要輸出品たる豚毛、五倍子、水牛皮及び牛皮、染料、大黃、羊毛、黒木耳、夏布、鹹菜、豚腸は何れも前年に比較して増加せるも生糸、桐油、砂糖、食鹽等の輸出激減せる爲め結局輸出總額の減退となつてゐる。生糸の市況軟調に因る生産減、旱魃に因る桐油減收、生産減と華南製糖の進出に因る糖業の不振、有力市場湖北の喪失による食鹽の販路減少等は本年輸出不振の主因にして、其減少額も頗る大なるものがあつた。

上海重慶間の爲替は年頭上海國幣千元に對し四川銀一千五百五十六元であつたが、九月初旬には一千三百七十元に騰貴し、十一月一日には空前の記録たる一千六百四十元に奔騰し、其後漸次下げ足となり、歳末には一千四百二十元に反落した。

一九三四年の當地航運業は出入船舶こそ萬縣の軍需輸送の爲め増加を來したが、實質的には決して活況とは云ひ得ない。一例を示せば本埠上海間の貨物減に伴ふ激甚なる運賃競争は毎噸國幣百元より四十元となり、更に三十元となり、慘落に次ぐ慘落は遂に二十元臺に迄下落せるが如きこれである。斯くては何等の利益も得らるゝ筈なく、缺損の續出により當地方の航運を中止するものさへあるに至つた。一九三四年の内水行輪章程により重慶嘉定間の就航船は何れも成都迄航行を延長してゐる。

當局は四川開發計畫を樹立し目下着々實行中であるが、其主なるものを列記すれば、嘉陵江岸の大セメント工場の建設、成都重慶間の鐵道修築、重慶より湖北、陝西貴州に至る三大道路の建設等である。

萬縣 當地貿易状態を見るに、輸入額は前年の十一萬元に對し十萬五千元、土貨移入額は九百六十萬元に對し九百萬元、土貨移出額は千三百二十萬元に對し八百九十萬元となつてゐるが、輸出額のみは二千元より一萬一千元に増加してゐる。桐油は輸移出額の過半を占め、其輸出量十二萬九千キントル金額五百萬元に達してゐるが、前年の二十萬一千キントルに比較すれば其減少額も僅少ではない。

宜昌 當地の土貨産地たる本省西部一帯は近接せる四川の争亂の影響を蒙り、且つ四川湖北兩省の交通路も匪賊の跋扈甚だしく、貨物の運輸は頗る困難である。只當地及び省西部各市は國軍の駐在により治安は保たれてゐる。尙當港は貿易港としてよりも寧ろ仲繼港としての地位を保持せるが故に揚子江下流並に四川諸港との直接交通が頻繁となるに従ひ、港勢は逐日衰微に傾き、經濟的疲弊による購買力の減退と相俟つて其輸入額は益々減少を示してゐる。輸出貿易は九月迄は平靜であつたが、秋季に至り各種農作物の豊作が傳へられ、揚子江下流の土貨の需要も旺盛となり第四半期に於ける輸出額は著しく好況を示した。一九三四年の土貨移出額は三三年の六百四十萬元に對し六百七十萬元となつてゐる。其中漆の輸出量は四千三百四十七キントルより六千三百三十二キントルに増加し、柏油、棉花及び土布の數量も相當の増加を示してゐる。一九三四年宜昌の航運業は發展の跡著しく、出入船舶數は前年の二千三百八十六隻百一萬噸に比し、二千四百三十五隻百九萬七千噸に激増した。日本汽船は、一九三一年以來中止せる揚子江上流の定期航路を本年より復活し活況を呈してゐる。又漢口、宜昌間の道路は歳末に至り完成し、漢口重慶間航空路も就航を見、飛行回數も一週四回より六回に増加するに至つた。

沙市 一九三四年湖北省各地は交々水旱兩災に見舞はれたが、沙市のみは難を免れ、安寧秩序の維持農産物の增收等と相俟ち移出貿易は盛況を呈した。直接對外貿易は見るべきものなきも、土貨の移入額は前年の二百二十萬元に對し本年は四百萬元に達し、移出額も一千二百萬元より一千七百四十萬元に激増してゐる。移出額の増加中棉花は

實に九割を占めてゐるが、當地は荊門、石首、宜都、宜昌等棉花豊産地の中心に位ひせるが爲めである。當地方の棉花平均年産額は二十四萬乃至三十萬キントルにして、その中二〇%は地場紡績工場に供給せられ、殘餘は九月より翌年七月迄の間に他所に出荷せられる。一九三四年の棉花出荷量は二十一萬八千四百四十四キントル一千二百萬元に達し、之を前年の十四萬九千八百八キントル八百七十萬元に比較する時は其間異常の相違が発見せられる。中央政府は生産増加品質の向上に意を注ぎ、沙市の下流三十軒の地方に棉花試験所を設立し、沙市には棉業改良委員會及び檢驗局を設くる等極力努力中である。

一九三四年の各種農産物は頗る豊收にして米の輸出は最も巨額に達してゐる。即ち一九三三年の米輸出量四萬六千三百四十八擔、金額二十六萬元に對し、三四年は三十六萬二千九百二十一キントル、二百六十萬元に達してゐる。然るに輸血量過多は在貨減少を導き、自然市價著しく昂騰し、惹ては由々しき食糧問題を惹起するやも恐れざる状態となつた爲め、九月に至り遂に輸出禁止令の發布を見るに至つた。

建設工事は鋭意繼續され、埠頭上屋の改築を初め新建築物は等しく後退して埠内道路の擴張眼覺しきものあり、更に道路工事成済の曉には市街を一貫して中山公園に到達する事が可能となるであらう。

十二月漢口宜昌間自動車路が開通し、僅々十三時間賃銀十三元にて到達するを得べく、漢口沙市間は九時間運賃九元にて連絡可能となつたが、飛行機に依れば僅々一時間餘を要するにすぎない。

長 沙

湖南省一圓は四、五月の頃より引續き水害旱害に災せられたるも其損害は比較的輕少に止り、この間貿易が尙相當の成績を示せるは頗る意を強うするに足るものである。即ち上記の如き災害にも拘らず貿易總額は前年より三六%を増加して實に意外の好結果を示した。貿易額を細別するに一九三四年の輸入額は前年の四百四十萬元より四百十萬元に減じ、土貨移入額は七百四十萬元より一千四百十萬元に増加、又輸出額は一萬二千元より一千元に激落せるも土貨移出額は一千九十萬元より一千五百四十萬元に増加してゐる。斯くて輸移入額合計は前年に比し三一%を増加し、輸移出額も亦四一%の増加である。

石油は本埠の主要輸入品であるが、一九三四年に於ける總輸入額は三三年の二百二十萬立に對し二千四十萬立の巨額に達し、蘇聯油との競争も解消したるを以て價格も上昇の一途を辿るのみで、年初十米ガロン僅に六元八角の所、歲末には八元一角に騰貴した。糖類の輸入額は前年の六萬七千キントルに對し五萬九千九百キントルにして其間大差を認めず、日本綿布及び海産物は一九三一年以降殆んど輸入杜絶の態であつたが、三四年下半期に至り反日會及び救國會の解散の結果、俄然活況を呈し其の輸入額は日々増加の勢を示してゐる。本埠輸出品は鑛砂(アンチモニー、タンクス、テン、マンガン、亜鉛)及び米穀を以て第一とし、爆竹、豚毛、桐油等が之に次ぐ主要品である。アンチモニー及びタンクス鑛に對する海外需要は極めて旺盛にして價格亦奔騰を示したが、同年の輸出量はアンチモニー鑛一萬八千八百九十三キントル、アンチモニー十三萬九千四百五十五キントルにして、前年はアンチモニー鑛一萬六千三百六十四キントル、アンチモニ

一十萬九千二百五十二キントルであつた。マンガン鑛亦前年に比較して四千三百三十五キントルを増加し、タンクス
テン鑛も六千六百五十七キントルを増加せるも亞鉛鑛のみは獨逸の需要減に基因し三萬一千五百九十二キントルを減
退してゐる。前述の如く湖南一帯は水旱兩災に浸されたとは云へ洞庭湖畔の米收は豊饒にして、民船及び汽車に依る輸
送を除外するも海關經由の輸出量は一九三三年の三十七萬一千キントルに對し本年は六十五萬九千キントルに達し、
市價も亦一石につき六元四角より漸次昂騰し十元四角となつた。桐油の輸出も旺盛にして、建設廳の積極的獎勵策に
より湘南の植桐事業も活況を示し其輸出は日々増加の勢を呈してゐる。

本省の各種建設工作は鋭意進行中にして餘す所なく、實業方面は特に注目し値するが目下財政難と共匪の擾亂によ
り一時事業を見合はせてゐる。又省内各種専門學校には各々専門家を招聘して工業の改良、人材の養成に努めてゐる
道路建設事業は中央政府の協力を得て四百軒に垂んとする大工事が實施中であり、宜章小塘間は既に竣工し、長沙
廣東間には自動車を通じてゐる。更に瀏陽萬載間の竣工により長沙南昌間は自動車の連絡可能となり、道路河流の交
又地點たる瀏陽、東屯、湘潭、寶慶、衡陽等には自動車を連絡船上に積載渡河の設備が整へられてゐる。本年五月開
始の北平廣東航空路の飛行機は毎週二回本埠に着陸し郵便旅客の運輸に従事してゐる。又長沙、衡陽、郴縣、寶慶
等の飛行場は既に竣工を告げ、洪江、辰州の飛行場も近日竣工の豫定にして、長沙香港間は僅に半日にて到達する
事が出来る。

岳州

當地及び附近一圓(常德、益陽、津市)

象である。當地の直接輸入品は石油のみにして輸出は一品もなく、土貨の移入額は一九三三年の國幣八百七十萬元に
對し三四年は三百六十萬元、土貨移出額は九百八十萬元に對し八百七十萬元となつてゐる。衰落の原因は歲末に於け
る地方擾亂によるものであるが、出入貨物が海關の手を経ず民船に裝運せらるゝに至つたのも其原因の一として加へ
られる。例へば前年三百十萬元の輸入食鹽が本年全く消滅せるが如きはその明證であらう。桐油の輸出額は一九三三
年の二十一萬二千六百六十二キントル、七百七十萬元に對し、三四年は十三萬三千四十キントル、四百三十萬元に減少し
てゐる。又紅茶、苧麻、棉花、蠶豆、蓮實等は些少の輸出増加を見たるも、國內民船貿易の増加に伴ひ海關經由額は
著しく減少し海關の統計は單に貿易額の大勢を示すに過ぎないと云ふ事を忘れてはならぬ。

第三節 長江下流地方

漢口

當地及び省境一帯の秩序は數ヶ師團の國軍の移駐により盜匪は影を汲し、一九二六年以來の靜穩状態を
保持してゐる。又年初數ヶ月間に亘り氣候順調で豊作の瑞兆を示せるに拘らず七八月の頃には中部東部に旱魃を生じ
漢江の流域は洪水に浸され豫期せられたる五穀の豊饒も全く水泡に歸するに至り、損失額三千萬キントル約九千萬元
罹災民は三百五十萬人以上と算定せられた。これ等旱害地域は其後降雨を得幾分災害の減少を得たるも米稻、甘薯等

は枯死し、米收高は僅に平年の三、四割作に過ぎず、棉田の被害も二十萬支畝の多きに上つてゐる。此の間唯小麦の豊作を見たのみである。

金融界は靜穩に經過し銀平衡稅徵收令の發布せられたる際、上海金融界變動の餘波を蒙り僅に小波紋を起したのみであつた。

▼最近二ケ年間漢口貿易額比較 (單位百萬國幣元)

	一九三三年	一九三四年
直接輸入額	三四・三	三二・二
土貨移入額	一〇一・二	八六・一
直接輸出額	七・六	九・八
土貨移出額	一三五・二	一四一・一

上表により一九三四年の輸移入額は著しく減退しこれに反し輸移出は合計八十萬元を増加せることが知られる。而して上記の數字は海關管轄による貿易額のみにして、ランチにより各地に轉運せらる外國品はこの中に含まず。

本年の輸入貿易は極めて不況の裡に終つたが、粵漢鐵道建設材料及び金屬の輸入額を控除すれば對外貿易の内容は空莫たるものである。主要輸入品たる石油及び砂糖の輸入激減は國民經濟の疲弊を如實に物語るものであるが、砂糖

は從來當地經由河南一帶に轉送せられたるものが鐵道の開通により上海より直送せらるゝに至りしこと、石油は一九三三年の多量のストックを有せしこと等を考慮に入れる必要があらう。只綿布は日本品が價格低落のため特別の輸入増を示してゐる。本年上半年の輸出は桐油及び茶以外何れも疲弊せるも、六月の輸出稅率引下と海外農作物の減收に伴ふ需要に刺戟されて土貨の輸出は躍進に次ぐ躍進の盛況振りを呈した。大豆、茶、各種種子類及び冷蔵物等は其主要品であるが、之が爲めに船舶出入數も可成りの増加を來した。

一九三四年當港の出入船舶は合計七百萬噸にして前年に比較して三十萬噸の増加である。其中汽船は二十萬五千噸内海汽艇九萬五千噸の増加であるが、極短期間の外は何れも船腹過剩に陥つてゐる。

漢口下流の河川狀況は年内を通じ極めて無事に終始し、船舶吃水章程の施行により坐礁等の事故發生も殆んど見ざる程であつた。唯一、二月の頃漢口上流の水位低下に伴ひ新堤地方は吃水四呎九吋の通過すら困難となり、宜昌長沙間は航運中止となつた。尙漢口巡江事務局の水道圖は四千二百三十五枚を販賣したが前年に比すれば一千四百六十枚の増加である。

一九三四年平漢鐵道は何等の障害もなく營業成績亦向上を見たるも、粵漢鐵道の湖北湖南間一部は匪害を受け收入減を示してゐる。湖北省建設廳の道路建設計畫二千六百九十五軒の中本年落成せるもの九百四十八軒にして漢宜路(漢口—宜昌)は全工程を終り、老白路(老河口—白河)も自動車の開通を見るに至り、多大の便宜を與へてゐる。又大公路(武昌—大冶)は全工程を終り、老白路(老河口—白河)も自動車の開通を見るに至り、多大の便宜を與へてゐる。又大公路(武昌—大冶)は全工程を終り、老白路(老河口—白河)も自動車の開通を見るに至り、多大の便宜を與へてゐる。

も一九三五年には完成の豫定である。

九江 當地の共匪剿滅は非常な功を収めた。これが爲め瑞金(中華民國) 零都、會昌等約六年に跨る共匪の巢窟は盡く掃討せられ、住民を塗炭の苦より救出し得たのである。亦これ等の掃匪地區に對しては銳意復興に着手し交通路の改造合作社の設立を治本の基礎としてゐる。かくの如く赤禍は完全に消滅せるも、之に續いて奥地の早魃は大打撃を貿易に加へてゐる。一九三四年輸入總額は前年より五百萬元を増加せるも、輸出額は二百四十萬元を減少してゐる。細別すれば輸入額は前年の三百六十萬元より四百十萬元に増加し、移入額も三千三百七十萬元より三千八百二十萬元に増加せるも、之に反して輸出額は前年の一千六百八十六元より二百六十元と銳減し、移出額亦一千七百二十萬元より一千四百八十萬元に減退してゐる。これ實に早魃に基因するものにして、元來米の輸出を見たる江西省が一九三四年には反つて西貢米一萬七千キントル及び各地より支那米十四萬二千キントルを輸入せるが如き、或は巢匪軍の麥粉、砂糖、國産綿布等を多量に購入せるが如き何れもその現はれで、之が爲め上述の輸入額の増加となつたものである。輸出貿易は早魃以前即ち上半期に省内食糧米四萬四千キントルを輸出せるのみにして、前年の米の輸出額二十二萬一千キントルと比較すれば本年輸出減少の基因する所も瞭然たるものがあらう。米以外の雜穀も早害のため收穫少く、茶のみが災害前の收穫にしてその弊を免れた爲め輸出額を増加してゐる。

景德鎮の陶磁器業は一九三〇年共匪の蹂躪後今に至るも恢復せず、製陶工場の開業も極めて稀である。中央並省政府は南昌に新式工場を設置して陶磁器業を改良し、舊日の繁榮を齎さんと努力中である。萍鄉の石炭は久しく採掘を中止してゐたが、一九三四年省政府の手により毎月一萬八千六百噸餘開掘し、鄱樂炭礦も改組を経て舊態に復してゐる。

江西省の道路建設事業は殘す處なく施行せられ、本年中に竣工せるもの二千二百九十三料に達してゐる。全國經濟委員會公路處統計によれば一九三四年末現在江西省の鋪裝路は二千七百六十九料鋪裝せざる道路一千七百八十三料である。

蕪湖

本年度蕪湖の貿易は頗る變化に富んでゐるが最近二ケ年間の貿易額を比較すれば左の通りである。

▼最近二ケ年間蕪湖貿易額比較 (單位百万國幣元)

	一九三三年	一九三四年
直接輸入額	一九	二四
土貨移入額	一六・四	一二・四
直接輸出額	一・四	一・九
土貨移出額	二五・二	一四・一

右表の如く直接輸出入額は著しく増加を示してゐる。砂糖の輸入額に就て見るに一九三四年の輸入量は前年の七萬

四千キントルより九萬二千キントルに激増(香港より四萬九千キントル、爪哇より四萬二千キントル)せるも、實は消費の増加に非ずして、從來上海海關經由のものが本年より當地海關經由に改變した爲めである。此外米松枕木及びレールの輸入量も相當の額に達してゐる。直接輸出額の増加は馬鞍山、荻港及び陳家等産鐵礦の對日輸出が前年の三百萬キントルより四百八十萬キントルに激増せる結果であるが、同年日本向鐵礦運搬船の數は前年の七十七隻に對し百三十三隻となつてゐる。斯く直接輸入の増加に反し移出入は匪害と旱災とにより一千五百四十萬元を減少してゐる。一九三一年の水災後蕪湖の貿易は衰微の一途を辿るのみにして、本年稍々恢復の兆を見たるも忽ち旱害の襲ふ所となり、特に安徽南部の肥沃地の被害甚だしく五穀の收穫皆無の状態を呈した。爲めに該地方産米唯一の輸出港たる蕪湖の輸移出額が著しく減少せるも蓋し當然であらう。一九三三年度の輸出額は二千萬元であるが、この額は三四年の移出總額に比すれば尙五〇%の多額である。然るに小麥及び蔬菜種子類は豊作にして前者は七割後者は十割以上を増加し、主として日本へ輸出せられた。又石炭の輸出量も前年の三千噸より一躍一萬四千噸に奔騰してゐる。

蕪乍鐵道は蕪湖乍浦間を連絡するものであるが、目下詔安迄の延長線修築中にして、蕪湖孫家埠間は既に完成し南京蕪湖間も一九三五年春には落成の豫定である。更に淮南鐵道の淮南炭礦及び裕溪口間約二百三十料も年内に工事着手を見るに至つた。此外道路建設工事も進捗著しく省内主要都市間の連絡容易となり、鋪裝路は七百六十八料非鋪裝路三千三百四十九料に達してゐる。

南京

他所と同様當地も旱魃に災せられたが、南京貿易の盛衰は農産物收穫の多寡によるよりは寧ろ隴海津浦兩鐵路沿線の安危に關する所頗る大である。又需要貨物の多寡も背後地の經濟狀況よりも首都の發展如何に支配せられる所が大である。即ち南京は支那の首都として中央政府の所在地たる爲めに、各種建設事業と其貿易狀況との間に密接なる關聯を有する事は云ふ迄もない。一九三四年六月現在に於ける既往三ヶ年半の建設費は民間事業のみにて二千萬元以上に上り急速なる發展の程が察知せられる。

一九三四年の輸入額は前年の二千四百四十萬元より一千八百五十萬元に轉落し、反對に輸出額は二千元より一躍十六萬六千元に激増してゐる。土貨の移入額は前年の五百四十萬元より三百八十萬元に、土貨移出額亦一千五百萬元より一千三百三十萬元に減じてゐる。而してこれ等の數字は海關經由額を示すに止り、貿易の全貌を知る對象たり得ない商品別に検討するにレールの輸入は前年の三萬一千キントルより二十一萬五千キントルに激増、鋼鐵材も一萬五千キントルより二萬七千キントルに増加してゐるが、其大部分は鐵道建設に使用されてゐる。銅線の輸入は前年の八百キントルより二千九百キントルに増加、普通木材も一萬五千立方メートルより二萬二千立方メートルに増加し何れも地場の建築材として使用せられた。更に枕木の輸入は前年の三十九萬八千本より六十一萬九千本に、石油は七百八十萬立より一千七十萬立に、砂糖も八萬キントルより九萬キントルに夫々増加を呈してゐる。其他科學用機械器具の輸入も均しく増加を示し、兵工署理化研究所、中央陸軍軍官學校及び津浦鐵道局の機械の輸入も相當多額に達してゐるが、津浦鐵道購入

の車輛及び各種材料は最も巨額である。石炭は國産炭の供給旺盛となり外國品を全く驅逐せるのみならず、輸出品としても重要な地位を獲得してゐる。輸出方面に於ては和記洋行の閉鎖以來日々に衰退し一九三三年の輸出額は僅に二千元餘に過ぎざりしも、一九三四年には一躍十六萬六千元に上つてゐる。これは主として石炭其他金屬の對日輸出一萬三千噸の致す所である。此外石炭の移出額（山東省中興炭鐵産）は前年の五十一萬七千噸より六十七萬七千噸へ増加し、寧波、廣東、厦門及び煙臺向石炭輸送船も十七隻を算してゐる。其他の輸出貨物は何れも減少を示してゐるが、海關經由のものでない爲め真相をつかむことは困難である。

一九三四年三月政府は永利曹達工場に硫酸アムモニヤ、硫酸、硝酸等の製造を認可し、名を永利化學工業公司と改稱してその發展を計つてゐる。更に浦口下流の卸甲甸に工場を新設し用地約一千三百歩には建設物並に埠頭の設備も竣工、機械の据付も終り只専門技術家の來任を待つばかりである。其生産高は毎日硫酸アムモニヤ百五十噸と豫定せられ同地方としては最大の新式工場と云はれてゐる。

土木事業としては十九條の新設道路が工費二十萬九千元にて建設せられ、關江邊馬路及び中央路は其主要道路となつてゐる。此の外經費二十四萬元にて五條の道路が建設中である。又江南鐵道公司は京詔鐵道（南京詔安）の修築に着手し蕪湖孫家間は既に開通し南京蕪湖間も一九三五年には開通の豫定である。尙南京警察廳の調査に因る南京の人口は一九三四年には六萬九千八百二十四人を増加し七十七萬七千二百三十人となつてゐる。

鎮江

貿易は早越に因る幾分の影響の外は全然順調に經過し、貿易總額も三三年より増加を示してゐる。輸入額は前年の八百十萬元より四百五十萬元に減少してゐるが、其大部分は石油三割、石炭五割の輸入減に基くものである。石油の輸入減は民船の移入にかゝる蘇聯油により補はれ、石炭は國産炭により補給された。砂糖輸入額は前年の八萬五千キントルより一躍十四萬キントルに激増してゐるが、税關の取締嚴重に因る密輸の減少と輸入業者が上海碼頭税と波止場陸揚税を免がれんが爲めに直接當地に輸入せる結果である。即ち上海と當地の通關諸掛は一キントルに付き約八、九角の差を見てゐる。輸出品は郵送による反物類約二萬五千元のみで土貨移入額は前年の四百萬元より四百八十萬元に、土貨移出額も三百六十萬元より五百三十萬元に夫々増加してゐる。但し當地は上海に近接し交通機關の發達顯著にして兩者の關係極めて密接なるものあり、海關の統計もその貿易の全貌を示すに足らざることは既述各港と同様である。移出額の主なるものは小麥の四十萬四千キントル金額約二百七十萬元にして、輸移出總額の過半を占め、之に次いでセメント、石炭、麥粉、金針、菜金針がある。

一九三四年鎮江附近の道路修築事業は緩慢であつたが、本埠は既に省内各幹線道路と相連絡し其間何等の不便も見ず、鎮江・揚州線・揚州・清江浦線・鎮江・句容線・鎮江・丹陽・金壇・溧陽線・鎮江・江陰線等には自動車の定期運輸が行はれてゐる。

第四節 中部沿岸地方

上海 海關統計に因る一九三四年上海總貿易額は十六億六千二百四十萬元にして、前年の十七億六千二十萬元に比較すれば九千七百八十萬元の減少である。一九三四年貿易額を前年と比較するに直接輸入額は六億五十萬元にして前年の七億三千六百二十萬元より一八%を減じ、土貨移入額は三億一千四百五十萬元にして、前年の二億二千四十萬元に對し四三%を増加す。直接輸出額は二億七千二百三十萬元にして、前年の三億一千五百八十萬元より一四%を減少土貨移出額は四億七千五百十萬元にして、前年の四億八千七百八十萬元より三%を減少してゐる。尙直接輸入額は全國輸入貿易額の五七・八二%を占め、前年の五四・一四%より増加せるも、輸出貿易額は五一・五七%より五〇・八三%に反落してゐる。

支那に於ける各港貿易狀勢の變化は當該地方の情勢に支配せられる所頗る多いが、上海の如く其貿易額が全國貿易額の過半數を占むる所では消長の原因を簡單に叙述することは至難である。即ち全國各地の貨物需給の狀態と上海輸出入額との間に密接な關係を有することは前回の本貿易年報上海の項に詳述せる通りである。故に貿易狀況は本書所載の一般貿易狀況又は各種商品別輸出入の項を検討することにより窺知せらるゝであらう。全國市場と上海との關聯性に就ては、

(一) 支那全國に亘る旱魃のため上海に對する物資の需給は減退し、延いては上海の輸出入に多大の打撃を與ふ

(二) 江西省の共匪は肅清したるも四川省の共匪の跋扈甚しく上海に甚大の影響を加ふ

(三) 銀の騰貴に伴ひ銀行預金の引出相次ぎ金融市場に恐慌を惹起し各種事業は何れも不況に沈淪する

等の諸點が考へられる。尙北支の安定と國內政局の安定とは上海貿易に裨益する所少くなかつた。

一九三四年入港船舶數は減少せるも噸數は増加し、内水行輪章程による入港船を含めて合計一千九百九十萬噸である。尙ロツテルダム工商航業統計によれば内港往來船舶を除外するも入港船舶噸數は世界第四位を確保してゐる。又普通行輪章程による總出入船舶數は前年の一萬八千百十五隻より一萬七千七百九十七隻に減少せるも、船舶噸數は前年の三千二百五十萬噸より三千五百五十萬噸に増加してゐる。尙内水行輪章程による内港往來船舶の總數は、二萬七千八百五十八隻約四百四十萬噸である。此外南市辦事處經由の民船七萬三千四百九十八隻の存在も忘れてはならぬ。普通行輪章程による出入船舶を國別に見るに英國船第一位で一千二百四十萬噸、支那船第二位で七百六十萬噸、日本船第三位で五百八十萬噸であるが内水行輪章程による内港往來船舶は支那第一位にして七百四十萬噸である。

一九三四年濬浦局の上海港口及び水路浚渫事業は顯著なる成績を示し、泥砂の浚渫量は四百三十萬立方碼に上り空前の記録を残してゐる。此等泥砂は埋立用として使用せられ、滙山水道の浚渫事業も本年を以て完成を告げた。目下黃浦江各水道の干潮時に於ける深度は左の通りである。

吳淞口外欄江沙水道三一呎六吋、高橋新水道三〇呎、陳家嘴水道二六呎、匯山水道二八呎、外灘水道二八呎、江南兵工廠水道二八呎、火藥庫水道二六呎、上海水泥公司上城水道二七呎

浦江の浚渫事業は前記の如く殆んど竣工し目下揚子江口の砂洲の浚渫計畫が樹立されてゐる。該砂洲は揚子江口にあり幅二哩長二十哩に亘り大船舶の航行は頗る困難である。右計畫は現在の水深を尙九呎引下げ幅約千呎に擴張せる水道を設けんとするものにして、約二十餘萬立方碼の泥砂が浚渫さるゝ豫定である。本工事の爲めに既に獨逸に契約せる特別浚渫機が年末に到來し港内浮標専用船も既に就航を見るに至つた。

蘇州 年初極寒の襲來による河川の凍結、旱魃による河川の減水等の爲め舟運の阻害せらるゝこと夥しく、加ふるに各種農作物收穫の激減、茶の品質低下等と重なる悪條件の下に當地の貿易は毫も發展の餘地なかりしは極めて明瞭である。

蘇州には新たに燐寸及び製紙工場の新設を見て、合計二十五工場(無錫及び常熟工場を含む)を算するも各工場共均しく閑散にして紡績工場の如きは激烈なる同業者間の競争を惹起し、製糸工場も産繭の減少に伴ひ生色なく、蘇州工場は閉鎖、無錫の各糸廠も操業不定の状態である。

蘇州上海間は鐵道、民船、汽船等各種交通機關總て備り、貨物の運輸には些の不便もなく、海關は僅に汽船に依る出入を管轄するのみであるから、海關統計必ずしも貿易の全般を示すものとは斷定出來ない。一九三四年の直接輸入

額は前年の百三十萬元より一躍倍額の二百六十萬元に上つてゐるが、各輸入商が上海の碼頭税及び波止場陸揚税を免がれんが爲めに直接當地に輸入せるに起因するものである。又嘉興及び杭州への河川が減水のため舟運杜絶し一旦當地に於て陸揚げし更に陸上轉送するに至つたのも其一因と見られる。尙土貨の移出額は前年の三百二十萬元より四十萬元に慘落してゐるが、移出額の約八割を占むる綿糸の運輸が汽船より民船に移つた爲めである。尙本年に入り蘇嘉鐵道(蘇州、嘉興間)の建設を見るに至つた事は當地方の交通に裨益する所大なるものがあつた。

杭州 浙江省七十五縣中大旱災を免れたるもの僅に三縣に過ぎず、杭州の一帶もその禍中にあり、稻田の被害二千萬畝に達し、米收の半減を筆頭に各農産物の損失も頗る巨額に達したが、罹災民は五百餘萬を下らず慘澹たる光景を呈してゐる。斯くの如き大旱害のため生糸貿易は著しき衰微を示し品質數量共何れも低下を來してゐる。政府は之が對策として全國經濟委員會及び蠶糸改良委員會に依り、江浙聯合糸廠を杭州に、該分廠を各産糸地區に設置して頽勢の挽回を計つてゐる。

海關貿易統計の示す所に従へば、本埠輸入額及び土貨の移出入額は何れも減退してゐるが、當地海關經由の貿易品は僅に汽船に依るものみにして、本埠貿易額の全貌を示すに足らざるは再三述べた通りである。尙嘉興分關が貨客の取扱所となり其貿易額は當地と分離して取扱はれるに至りたる爲め當地貿易額の減少は愈々甚しきものがある。

本年度茶の收穫は旱魃前なりし爲め增收を見たが、海關經由の輸出は一九三三年の九萬五千キントルより八萬四千

キンタルに減少し、生糸の輸出も閑散を極めた。只見るべきものは義烏の甘蔗産地に新規模の製糖廠が設立せられた事である。交通方面に就ては錢塘江鐵橋が年内に起工せるを以て汽車其他交通機關による浙江方面との直接連絡の開始も近き將來に實現するであらう。

寧波 大旱魃の當地に及ぼせる影響は全省中最も慘鼻を極め、農作物は盡く枯死し農村經濟は衰退著しく貿易上被れる打撃は激甚であつた。試みに最近二ケ年間の當地貿易額比較表を示せば左の如くである。

▼最近二ケ年間寧波貿易額比較（單位千國幣元）

	一九三三年	一九三四年
直接輸入額	三、三〇〇	五、九〇〇
土貨移入額	二三、二〇〇	二一、九〇〇
直接輸出額	一八	一七
土貨移出額	二五、八〇〇	二一、三〇〇

上表の如く輸入額は顯著なる増加を示し關稅收入も之に伴ふ増加を呈したが、外米の輸入が其主因として數へられる。當地一圓は早害を蒙れるのみならず海水の浸入により米穀の收穫は皆無となり、補給を國內に求むるも各地何れも早害のため米收減少を見た爲め、止むなく西貢、盤谷等の外米輸入を見たものである。其數量五十二萬五千キントル

に上り價格は一石上等米にて十元にすぎず、國産米の十一元五角に比較すれば、實に低廉にして賣行も頗る活況を呈した。此の外砂糖及び土木建築用の各種鐵鋼の輸入も相當旺盛であつたが、石油のみはストックの多量なりしと購買力の減少に伴ひ低落を示してゐる。土貨の移入額も購買力の衰退と民船運輸の増加に従ひ減少を示し、國産米の移入は前年の二十六萬五千キントルより二十三萬一千キントルに減じてゐる。之に反して廣東、汕頭よりの砂糖及山東省よりの落花生は著しき増加を來してゐる。移出及び輸出貿易も早災と民船運輸の増加に従ひ不振裡に終つたが、沿海一帯の棉花が海水の浸入により收穫皆無となつたのが其主因である。藥材及び綠茶の輸出も前年に及ばず、轉口稅免除に因る蒲葦の輸出のみ獨り旺盛である。

當地を中心とする浙江省の都市計畫事業は目下着々進行中である。即ち一九三四年には奉新路（自奉化至新昌）の竣成により奉化間口間は直接連絡を開始し、滬杭甬鐵道の杭州曹娥間も曹娥江鐵橋の竣工が近づけるを以て間もなく開通を見るであらう。斯くの如く交通路の發達に伴ひ寧波、南京、上海間には自動車の直接連絡を始めとし、汽車の直接連絡も可能となるものである。上海寧波間の長距離電話は既に完成し、浙江七十五縣中七十三縣には電話の開通を見上記交通の利便と相俟つて住民の享受する便益は頗る多大である。

温州 本年當地一帯は秩序良く維持せられ、農作の豊收を始め諸業齊しく繁榮、誠に慶賀すべき現象を示した然し各種輸出入貨物が關稅を避けんが爲めに何れも瑞安で積卸せる爲め、當地經由は稀となり、自然統計上にては著

しき衰退を示してゐる。瑞安は温州東南の海濱に位し温州への要路たるのみならず、内水行輪章程に因る船隻の出入數も多く上海並福州等の直接通運も便宜にして今や温州を凌駕せんとする勢を示してゐる。

對外貿易は僅少にして輸入品は砂糖、石油及び雜貨類にして、輸出品は香港向の鹽漬野菜數種のみである。移入額も上述の原因に因り前年の一千四十萬元より六百五十萬元に激落し、移出額亦六百萬元より五百萬元に減じてゐる。移出品の主なるものは傘一九・二四%、茶一四・九%、紙八・五七%、木炭八・四三%、軟材六・五一%、蒲蓆三・八〇%、其他は雜貨類である。

當地の二大幹線路は十月竣工を告げ、交通上貢獻する所大であり、その一は當地より臺州、紹興を経て杭州に達し、その一は當地より麗水を経て汽車にて杭州、上海に達するものである。

第五節 南部沿岸及西江地方

三都澳 當地は極めて僻陬の地にあり、住民齊しく其途に安んじ居たるも、茲二、三年來共匪の掠奪に遇ひ秩序著しく紊亂するに至つた。而して最近本埠には國軍の駐屯を見たので地方の住民は何れも當地に移住して難を避けてゐる。由來當地は瘦瘠にして物産の見るべきものなき上交通不便と土匪の活躍等により益々經濟的疲弊を來し、飢餓に悩む住民が匪群に投ずるに及び地方の治安は愈々紊亂してゐる。

一九三四年福州經由の輸入額は前年の二十一萬七千元より十六萬六千元に減じ、輸出土貨亦十萬一千元より一萬七千元に激落し、移入土貨も百六十萬元より百三十萬元に減退してゐるが、獨り土貨移出額は四百十萬元から五百十萬元への増加となつてゐる。移出土貨中茶は最も有勢にして唯一の生彩ある貿易品として注目せられる。本年度茶の輸出中紅茶は前年の九千七百二十二キントルより一躍一萬八千三百十二キントルに達し、綠茶亦幾分の輸出増加を示してゐる。斯て此等兩茶の輸出額は四萬七千六百十キントルより五萬六千六百七十五キントルへの増加である。

上述の如く當地附近一帶は共匪のため秩序紊亂せられたるを以つて、道路の建設工事も遅々として進まず、唯鹽霞道路（據田一）が竣工せんとしてゐるのみである。徳原鑛業公司は甯徳福安間の赤田洋地方に於て、モリブデンの採掘に從事してゐるが、更に工場を當地に設けて該鑛の精煉を開始せんとしてゐる。中央銀行支店は從來關稅の收支にのみ携はつてゐたが、一九三四年より普通業務を兼營し多大の便宜を與ふるに至つた。

福州 一九三四年の貿易狀況は著しき變化を見ず、前年との貿易額を比較すれば、直接輸入額は前年の九百五十萬元に對し七百五十萬元、土貨移入額は二千六百八十萬元に對し二千五百九十萬元、直接輸出額は四百八十萬元に對し四百四十萬元、土貨移出額は一千八百三十萬元に對し一千二百七十萬元となつてゐる。斯くの如く其差額大ならずと雖も何れも貿易額の減少を示せる事は、閩江の交通梗阻と内地運賃の騰貴に因るものにして、一例を示せば石油十米ガロンの福州建廠間の保險料附運賃はパナマ經由による紐育福州間運賃と同額なるが如きである。尙密輸の猖獗

も貿易の障壁として考慮すべき要があらう。即ち閩江流域一帯は石油、燐寸、砂糖、セメント等の密輸猖獗を極め當局が防壓の法を講ぜんとするも施す術もなく、大規模の密輸團體は相互に連繫を保ち本年來に於ける其勢力は實に悔るべからざるものがあつた。

一九三四年福建省の茶は農作にして需要も旺盛であつたが、木材貿易は閩江の輸送困難のため、何等見るべきものもなかつた。運賃の騰貴も木材貿易不振の一として算へ得べく、目下福州製材工場は辛うじて一工場の運轉を見るのみで他は全部工作中止の止むなきに至つた。

福州附近の道路建設事業は緩慢にして僅に福州廈門間に自動車を通ずるのみである。

廈門 當地最近二ケ年間の貿易状態は次表の如くである。

▼最近二ケ年間廈門貿易額比較（單位百萬國幣元）

	一九三三年	一九三四年
直接輸入額	三三・〇	一六・三
土貨移入額	二七・八	二一・二
直接輸出額	三・四	三・五
土貨移出額	二・六	三・六

即ち一九三四年貿易額總計は四千四百五十萬元にして、前年の六千六百八十萬元に比較して三三%の減少である。尙一九三三年の貿易は三二年より九%の減少なるを以て、當地の貿易状態は年々衰勢にあることが窺知せられる。衰勢の主要原因は（一）一九三三年末閩江異變に因る漳州、泉州一帯の疲弊とこれに伴ふ盜匪の猖獗（二）關稅の増徴による輸入品の賣行不振（三）海外華僑の送金減少等であらう。然し一方本年度福建米が春秋兩作共增收を示したること並に輸出稅の引下に伴ふ國內工業の繁榮及び土貨移出の旺盛等は不振の貿易に貢獻する所大なるものがあつた。年末に至つて貿易が漸次恢復に向ひたるは上記の諸原因に基因するものである。

前表に示す如く、直接輸入額は前年の半額であるが、その中棉花は前年の三分ノ一にも及ばず、建築材料たる鐵棒工字鋼鐵、電氣材料其他木材の輸入も一として激減せざるはなき状態である。例へば鐵屑の輸入量は前年の九千五百十三キントルに對し本年は五百七十五キントルに過ぎず、鐵力は二分ノ一に、自動車及び部分品は四分ノ一に、砂糖は三萬七千キントルより二萬一千キントルに減少し、而も其三分ノ一は密輸沒收品である。又化學肥料は五割、ガソリンは百萬立の減少となつてゐる。然るに對外輸出並移出土貨は何れも増加を示し、輸出品たる茶、藥材、紙箔及び移出品たる米、雜糧、鮮果、乾果及び上等紙類等は最も顯著なる進歩を示してゐる。

本市金融状態につき特筆すべき事は、下半年に於ける銀の大量流出であり、又同年中交通、中國實業、新華信託儲蓄銀行及び湖北、安徽、江西、河南各省の農民銀行は市内各處に支店を設置し、銀行業務を開始したことも附言すべ

きである。道路建設工事は緩漫ながら繼續され龍巖長汀間は軍用道路として既に完成を告げ、兵員糧食の運輸に利用されてゐる。尙連城永安間は目下鋭意修築中である。

汕頭 汕頭地方は氣候順調にして稻、甘蔗、柑橘は何れも豊作であつたが、之に反して貿易状態は不振であつた。貿易不振の第一は當地方錢莊の恐慌である。即ち錢莊の準備金を無視せる紙幣亂發は信用の失墜となり遂に取引騒動を惹起し、四十四の錢莊中十五軒は破産の宣告を見るに至つた。斯くの如き金融市場の不安は歳末に近づき沈靜を裝ふに至りしも外地との取引は信用喪失の爲め頗る困難となり、本邦貿易に大なる打撃を與へた。第二は輸入税率の改訂にして大部分が税率の引上となつてゐる事である。第三は輸入制限令の實施と省政府の各種專賣並に國產獎勵である。かくて一九三四年の直接輸入額は左記の如く前年に比較し五六%、貿易總額は二二%の激落となつてゐる。

▼最近二ヶ年間汕頭貿易額比較 (單位百萬國幣元)

	一九三三年	一九三四年
直接輸入額	五九・八	二六・一
土貨移入額	七〇・九	六六・四
直接輸出額	一七・八	一五・九
土貨移出額	一二・六	一六・六

右の如き輸入額の激減は一面國產獎勵の現はれとも見るべく、國家經濟に貢献する所少からず、殊に輸入食料品が前年の四千二百萬元より一千萬元に減少せるが如きは其顯著なる一例として注目される。當地の米の自給自足は可能にして連年多量の輸入を見たのであるが本年の外米輸入は一千二百キントル八百七十萬元にして一九三三年の二千四百キントル三千五百萬元と比較すれば量に於て五〇%、金額に於て七五%の減退である。石油の輸入は地方税の加重と廣東製油の進出とにより頗る窮境にあり、砂糖及びセメントは省政府の專賣となるに及び、從來輸入品たりし地位は移入貿易に一變するに至つた。輸出額も一割の減少であるが移出額のみは三〇%の増加である。輸出品にありては鮮果罐詰、落花生、油蒜及紙等は暹羅並海峽植民地の需要減の爲め減少してゐるが、明礬、魚網及び糸拔模様細工等は激増し、特に當地の名産である糸拔模様細工は一九三三年の三百九十萬元より一躍五百二十萬元に上り、砂糖の移出額も前年の五百萬元より八百三十萬元への増加となつてゐる。

一九三四年の汕頭香港間及び汕頭上海間の爲替は相場の変動甚しく、香港弗一千元に對する汕頭弗は一千九十九元乃至一千三百八十二元五角にして、上海弗千元に對する汕頭弗は最低九百七十元、最高一千百二十元であつた。

潮汕方面一帯は道路も漸次完成し、汕漳(汕頭、漳頭、漳木頭、漳口間)漳松(漳木頭、松口間)汕海(梅縣)道路及び其他七道路に自動車を通ずるに至つた。

廣東 茲數年來廣東一帯には軍事上政治上何等の異變もなく、地方の治安もよく保持せられ、當然貿易の繁榮

が豫期せられたるにも拘らず事實は之に反して貿易上何等の恢復も見なかつた。

▼最近二ケ年間廣東貿易額比較 (單位百万國幣元)

	一九三三年	一九三四年
直接輸入額	六二・〇	三三・八
土貨移入額	一一〇・一	八七・四
直接輸出額	五八・四	四七・一
土貨移出額	二六・〇	二三・二

即ち輸入額は四五%、移入額は二一%、輸出額は一九%、移出額は一一%の減退であるが之等の數字は廣東貿易の全貌を傳へるものでない。即ち從來南支の對外貿易は九龍經由に因るもの多く、或は民船の運輸により海關を通ぜざるものも相當量に達してゐることを考慮すべきである。

直接輸入額の慘落は廣東省の輸入制限に因る所頗る大である。本省の施政三年計畫は現在着々として進行せるも、その成果の如何に至つては遽に豫斷の限でなく、尙個人企業も國內經濟の枯渴と海外物價の下落とにより其發展は困難である。即ち生糸の輸出は一九三三年一萬六千三百六十二キントルに對し、三四年は六千三百三十八キントルに減じ金額亦一千六百六十萬元より九百十萬元に減少してゐる。輸出生糸に三種類あり、年初相場は每捆各々四百六十元、三

百七十元、三百十元を唱へてゐたが、五月に至り夫々三百九十元、二百九十元、二百六十元に低落した。其後需要の増加に伴ひ同年末には夫々四百元、三百二十五元、三百十元迄恢復するに至つた。然し養蠶家の利潤は極めて薄い爲め農民は何れも桑園を廢して有利な甘蔗、米、果樹等を栽培する傾向がある。かくの如く一般農民の盛衰に多大の關係を有する養蠶業の異常な頹勢に鑑み、省政府は模範糸廠を設立して一般製糸業者の基準となし、或は専門技術員を各地に派遣して新技術を宣傳する等危機挽回に各種の努力を傾注してゐる。只大規模の製糸業計畫は財政の點に難色あり、その實現は困難である。

廣東省の所謂三ケ年施政計畫とは一九三三年を第一年とし、主要工業の省營により經濟界を發展せしめ、省内富源の開發を行はんとするものである。目下本計畫は二十四種の工場設立に全力を注ぎ、輸入品を之等の工場にて製出し以て入超の軽減を計らんとしてゐる。本計畫により既にセメント工場二、精糖工場四、練糸工場一、織物工場一、電力廠二(一は水力發電所)を始めとし、羅糸工場、石灰製造工場、磷酸肥料工場、窒素肥料工場、硫酸工場、製紙工場、製鐵所、酒精製造工場、ビール工場、製糸工場、麻布工場、二硫化炭素製造廠等二十二工場が設立せられた。此外に省政府は糖業統制を實施し、專賣機關を特設して輸入、運輸、販賣等を管理せしめ省營の糖業と相刺するの憂を除いてゐる。

一九三四年本省の道路建設事業は著しく緩慢なるに對し、航空路の進境著しく滬粵線(上海、沙頭、廈門、福州、温州、廣東間)、平粵線(北平、長沙、漢口、廣東間)、粵龍線(廣東、梧州、南寧、龍州間)、粵北線(廣東、茂名、北海間)等は既に飛行開始を見るに至つた。

九 龍 一九三四年の輸入額は七千五百十萬元にして、前年の九千六百六十萬元より低落せるも、輸出額は前年の三百九十萬元より五百五十萬元に増加してゐる。當地は香港に密接し其貿易額も巨額に達し上海、天津に次ぐ重要地位を占めてゐる。以上の如く輸入額は二千五百五十萬元即ち二二%の減少を示し、商業界に重大なる影響を與へてゐるが、主として外米輸入低落の結果である。即ち當地方の米作は春秋兩期共豊收に終り、特に秋作は未曾有の増收を示した。偶々廣東に於ては外米に對する特税を徴してその輸入を阻止せる結果一九三四年外米輸入量は二百七十萬キントル二千七百萬元にして、三年の百三十萬キントル五千五百四十萬元より二千四百四十萬元の減少である。其他輸入品中石油は二百九十萬元の減少となつてゐるが、廣東、廣西兩省の石油輸入税率の引上と特別税の徴收に因る國內石油業保護に基因するものである。石油の輸入額は一九三二年四千五百四十萬立、三年一千九百七十萬立より三四年は僅々二十萬立となり、實に其激落の程が偲ばれる。而して廣東省營精糖工場及び紡績工場の各種機械類の輸入額は頗る巨額に達し、其他燐寸、鹽魚類の輸入も相當の増額を示してゐる。

金融方面を見るに、爲替相場は著しく昂騰を呈してゐる。即ち廣東貨幣は年初より五月迄は一時下落の情勢を示せるも其後漸次回復に向ひ殆んど原狀に復歸するに至つた。廣東小洋と香港弗との兌換率は上昇の一途を辿るのみであるが、香港弗の對英、米、日及其他歐洲各國に對する爲替率も亦昂騰を續けてゐる。一九三四年一月香港弗一弗に對し當地小洋は一元五角を要したが、九月には一元三角、十二月には一元三角六分八厘となつた。又香港上海電信爲替

は香港弗百元に對し平均國幣百十二元十六分ノ三にして、香港及世界各國との爲替平均率は對英一志六片十六分ノ三對佛五百八十一法八分ノ三、對米三十八弗十六分ノ三、對日百二十八圓八分ノ一である。

輸出貿易は殆んど問題とすべきものがないが、一九三四年度輸出額が一舉に四一%の増加を示せるは、汕尾分關が九龍の管轄に屬せる結果である。

一九三四年香港の貿易は愈々衰勢の著しきものあり、其輸入貿易額は支那主産品を加へても尙僅に四億一千五百九十萬香港弗にすぎず、三三年の五億九十萬香港弗、三二年の六億二千四百萬香港弗、三一年の七億三千七百七十萬香港弗に比する時は實に雲泥の差が認められる。尙輸出貿易は一九三一年五億四千二百萬元、三二年四億七千九百九十萬元、三三年四億三百十萬元、一九三四年は僅に三億二千五百十萬元である。

拱 北 當地海關及分關の所管貿易は極少額の輸出の外は大部分輸入に限られ、何れも香港、澳門等を仲繼港とし移出入に就ては殆んど見るべきものもない。

一九三四年の輸入額は七百十萬元にして、前年より六一%減少であるが、其原因として(一)輸入税の引上及び廣東當局の洋貨特税の徴收(二)道路の發達に伴ふ貿易経路の變遷(三)華僑の送金減少等が擧げられる。輸入石油は國産油の進出と共に前年の百二十萬立より一萬立に激落し、當地製油業は活況を呈してゐる。米及び雜穀は豊作が傳へられ其輸入額は一九三三年の百萬キントルより本年は僅に四十一萬二千キントルに減少してゐる。當地の主要輸入

品たる鹽魚は輸入税の引下げにも拘らず、前年の四萬二千キントルより二萬四千キントルに減少してゐる。上述各項の輸入品は本埠主要貿易品にして、一九三四年の輸入額の減少中其四分ノ三は此等商品の減少に基くものである。尙鐵器、木材、藥品、香料、砂糖、油類、ガソリン、減摩油、硫酸アムモニウム、硝子類、海産品、石炭等は何れも輸入額を減じてゐる。

尙輸出品は農産物が大部分であるが、特に本年の豊作と輸出税の引下げとにより相當活況を呈してゐる。

江門 最近二ケ年間の貿易額を比較せば左の如くである。

▼最近二ケ年間の江門貿易額比較 (單位百万國幣元)

	一九三三年	一九三四年
直接輸入額	一七八	七二
土貨移入額	一四	二一
直接輸出額	五八	五六
土貨移出額	一	二

右表の如く直接輸入額は六〇%の減退を示してゐるが、海外華僑の送金減少、農産品及び生糸貿易不振の結果である。一般財源枯渴の爲め銀行預金の引出相次ぎ、従つて貸付利率も騰貴し恐るべき金融逼迫を示してゐるが、一方地方當

局の洋貨輸入特税徴収は米及び麥粉等の食料品の暴騰となり、住民は僅に甘薯に飢餓を凌ぐと云ふ状態を呈してゐる。米及び麥粉の輸入減少額は總輸入の減少額の五分ノ四に達してゐる。セメントの輸入は認可制に依り且つ輸入税率も極めて高率なる爲め一九三四年の輸入額は前年の四萬二千キントルに對し僅に千五百キントルに過ぎない。石油の輸入は全く影を没し當地の滯貨油は支那製油の競争に堪え兼ねて反つて香港に捌口を求むるの奇現象を呈してゐる。硫酸アムモニウムも其輸入は石油と同様認可制となり、反物、鹽魚、金屬、石臘等何れも輸入減となつてゐる。而して輸出税は引下げられたるを以て輸出は頗る好調に轉じ貿易の衰頹を幾分緩和してゐる。

工業界も亦不況に悩み製紙工場の生産制限を始とし、燐寸工場は歲末に工場閉鎖の運命に陥り、罐詰工場も一大整理が行はれた。製棉工場も多大の損害を蒙つてゐるが、江門氷雪工場のみは獨り繁榮を持續した。尙出入船舶も激減し、又乗合自動車業者も五十四軒中五十二軒はガソリンの騰貴と同業者の競争に堪え兼ねて破産に瀕してゐる。唯此間にありて新寧鐵道のみは營業成績を上げ、満足すべき收支状態を示してゐる。

三 水 北江流域の道路の發達は近年特に著しく、物資は直接廣東より供給せらるゝに至り、香港よりの輸入は全く影を没するに至つた。之が爲に三水の集散地としての地位は漸く喪失せられんとし、加ふるに免税を目的とせる民船の輸送利用は愈々當地の衰微に拍車を加へてゐる。故に海關統計の數字は趨勢の一斑を窺ふに足るのみにしてこれを以て貿易の全貌と見るは當らない。海關統計によれば直接輸入額は一九三二年の六百九十萬元より三四年は二百

十万元に、即ち七〇%の衰落であり、廣東省内諸港と同様状態である。輸入貨物中米、雜穀、麥粉、セメント、鹽魚、金屬、石油等は減少の主たるものであるが、殊に石油の輸入額は僅々三十八立に過ぎない。

輸出貿易は錫の輸出増加のため僅かに増額せるも、他は沈滞して見るべきものなく、海關經由移出入貿易も極少額である。尙經濟界及び金融界も齊しく不況に喘いでゐる。

梧州 本年の梧州の貿易額は秩序の恢復と農産物の豊收により活況を豫期せられたるにも拘らず、何等の進展も見ざりしは實に意外とせられてゐる。本年の貿易額を前年と比較するに輸入額は六百八十万元より五百二十万元即ち二四%減、土貨移入額一千九百八十元より一千六百三十万元に、即ち一八%減、土貨移出額は六百三十万元より五百萬元即ち二一%の減少であるが、輸出額のみ八百六十万元より一千万元に即ち一六%の増加である。上記の如く輸出額の増加と輸入額の減少は殆んど同額であるが、總輸入額は總輸出額の約二分の一である。これ實に廣東、廣西兩省の輸入制限政策實施に基くものである。對香港輸出の桐油、茶油、紙、錫及び家禽類は稍々増加せるも豚、牛、桂皮、木板、木桂及びマンガン等は何れも萎縮し、輸出貿易は總括的に不振である。

廣西省の道路工事は進捗の見るべきものあり、梧州貴陽間には自動車を通じ、從來數週を要せしものが僅か二日間にて到達することが出来る。桂南道路は西江のため直通は阻止せられてゐるが、我墟を終點とし我墟本埠間は汽船の連絡により何等の不便も感ずることなく、我墟にて乗車すれば全省各都市に到達することを得、實に桂南線は廣

西の主要道路である。

この外航空路の發達も著しく廣東、梧州、南寧、龍州の一线は既に就航を見、旅客、郵便物の輸送に多大の便宜を供してゐる。

南寧 輸入貨物は總て梧州にて納税する爲め當地海關の統計は單に郵送物のみで一九三四年の輸入は四千万である。對香港輸出貨物も皆梧州にて通關手續を行ふため當海關にては移出入貿易として記録せられ輸出貿易としては取扱はれない。一九三四年の移入土貨は三百八十万元、前年の五百十万元に比較すれば百三十万元の減少である。移出土貨は二百十万元にして前年と大差なく、其種類及び貿易情形も梧州と同一である。

瓊州 本年の瓊州の總貿易額は三三年に比して一〇%の減少である。今兩年間の比較表を掲ぐれば次の如くである。

▼最近二ヶ年間瓊州貿易額比較 (單位百万國幣元)

	一九三三年	一九三四年	増減(%)
直接輸入額	四・四	三・四	(一) 二三%
土貨移入額	五・三	四・八	(一) 九%
直接輸出額	二・三	一・九	(一) 一七%

土貨移出額

二・九

三・三

一・四%

一九三三年の颶風と旱魃の爲めに收穫の減少家畜の被害等頗る巨額に達し、之が爲め翌年の貿易に多大の影響を加へた。然るに幸にも一九三四年の各種收穫は等しく好結果に終り、在外華僑の送金も増加し、經濟的不安も漸次解消するに至つた。

貿易狀況は廣東省諸港と大差なく輸入額は減少を示してゐる。即ち石油の輸入は一九三三年の百六十萬立より五千八百立に、綿布の輸入は二十九萬五千六百元より一千二百元、セメントは二萬五千キントルより九千キントルに減少してゐる。輸出貿易の慘落は特に顯著なるものがあるが、一九三三年末に於ける豚、牛、家禽類の斃死が最も大きな原因となつてゐる。但し錫の輸出は僅々九十六キントルに過ぎざるも、輸出品中の首位を占むるものとして記録するに足る。

本島の鑛産は極めて豊富であるが、目下開掘せられてゐるものは一小部分に過ぎない。瓊崖實業局は砂糖、珈琲、ゴムの生産に對し積極的獎勵を加へその發展を期してゐる。道路も多數建設中であり、航空路も瓊州、廣東、北海間の就航を見るに及び交通路の發展は益々見るべきものがある。

北海 北海の貿易狀況も概ね廣東省諸港と等しく、不振の原因として（一）輸入税の増加と輸入制限の實施、

（二）密輸の猖獗（三）銀價の騰貴による銀の流出等が數へられる。直接輸入額は三三年の三百四十萬元より百六十萬元

に減じ、土貨移入額は三百萬元より三百六十萬元に増加してゐる。直接輸出額は四百四十萬元より三百五十萬元に減じ土貨移出額は百九十萬元より三百五十萬元に好轉してゐる。以上の如く土貨の移出入は著しく進展を示し、就中移入土貨は舶來品の地位を奪はんとしてゐる。之に反して直接輸出入貿易は何れも不振を極め、輸入貿易は外米、麥粉、石油及びセメント等輸入制限の爲め五三%の減少となり、又輸出貿易も豚、家禽、魚介、八角桂皮、落花生油、桐油、蒲葦等の減少のため二〇%の萎縮となつてゐる。

欽州附近のマンガンの滯貨夥しく、目下其數三千噸以上と算せられ、一時採掘を中止してゐる。交通方面には本年廣東北海間の航空路の開設を見、途中着陸揚として茂名、瓊州の受くる便益は多大である。

第六節 南部邊境地方

龍州 龍州は廣西省西南隅に位し僻陬の地であつたが、邕龍道路（南寧、龍州間）落成後梧州南寧間の交通漸次開け孤立的立場から脱するに至つた。又航空路も廣東龍州間に開け、途中梧州、南寧に着陸するも尙五時間餘にして到達する事が出来る。斯くして龍州の交通利便は空陸兩方面より開拓せらるゝに至つた。

當地の貿易額は見るべきものもなく、海關の職務も殆んど邊境の密輸防壁に限られてゐる。一九三四年當地の輸入額は三萬六千元、（三三年は五萬七千元）輸出額は十萬八千元（三三年十一萬九千元）に過ぎない。

蒙 自 蒙自は滇越鐵道開通以前雲南省物資の集散地として樞要の地位にあつたが、鐵道の開通により其繁榮は該鐵道の起點たる昆明に移り、當地は漸次衰微するに至つた。

一九三四年雲南一帯の治安状態は一、二少事變を見たる外、大擾亂もなく農産は豊饒で民心の安定を見たが、最近二ヶ年間の貿易額は左の通りである。

▼最近二ヶ年間蒙自貿易額比較 (單位百萬國幣元)

	一九三三年	一九三四年	増	減(一)
直接輸入額	一二・六	八・五	(一)	三三%
土貨移入額	一五・七	一五・四	(一)	二
直接輸出額	二〇・四	一二・七	(一)	三八
土貨移入額	四・二	三・三	(一)	二一

上表の如く一九三四年雲南省の輸出入額は經濟の疲弊と爲替市場の不安とにより何れも減退してゐるが、輸出貿易の不振は錫の萎縮が主因である。一九三四年輸出並移出額總計一千六百萬元中、錫の輸出は一千四百三十萬元の多きに達してゐるが、尙一九三三年の二千二百二十萬元に比較すれば著しき遜色が窺はれる。即ち氣候不順により鑛夫の大部分は惡疫に感染し、異常なる生産減少を來せるが爲めで、海外需要の衰退にあらざること注目し價する。其他

藥材、皮革、豚毛、茶、麝香等の輸出額も減少の傾向が見える。

雲南省政府は省營事業の計畫に着手し、或は政府借款によつて或は民間より資金を募集して經濟の發展を計らんとしてゐる。本計畫により設置せられたる工場を示せば陶磁器工場(機械購入濟)、工具製造工場、紡績工場(機械購入濟)、セメント工場、藥材工場等である。更に普洱を始め茶の産出地一帯に新式茶園を設け、新法による茶の増殖を試みてゐる。又省内六大幹線を筆頭に各種道路工事も着々進行中である。

思 茅 對緬甸、安南貿易は極めて不便なる爲め、昔日の觀なく、一九三四年の輸入額は三三年に比較し二五%の増加であるが、金額にすれば五十一萬九千元より六十四萬七千元に増進せるに過ぎない。而も實質的の増加に非ずして邊境各處の嚴重な監視による密輸防壓の結果に外ならない。又輸出貿易は十七萬八千元にして、三三年の十九萬二千元より幾分の減少を示してゐる。一体にこの地は人口稀薄の爲め移出貿易は茶の移出二萬五千元あるのみにして移入品は殆んどない。

騰 越 騰越は雲南西部の僻地にあり貿易としては對緬甸貿易のみである。一九三四年の當地の留比爲替は最初百留比に對し二百三十元であつたものが後には二百五元を示すに至つた。この爲替相場の變動は貿易に裨益する所頗る多く、農産の豊收、盜匪の絶滅等と相俟つて當地の繁榮を齎した。然しながら當地の輸入額は百八十萬元にして、三三年の二百五十萬元に比較すれば二八%の減少であり、輸出額亦三百十萬元より二百五十萬元に、即ち二〇%の減

退を示してゐる。而して輸入額は綿糸の輸入減が主因で、輸出額は黄糸の輸出減に伴ふ結果である。一九三四年黄糸の輸出額は二百二十萬元にて前年の二百九十萬元より七十萬元の減少であるが、其他輸出貨物は税率の引下に因り活氣を呈するに至つた。

騰越よりパーモ、ミキーナに至る道路は結局不成功に終つたが、東印度方面に通ずる各路は良好な發達を示した。即ち芝市曼谷間は自動車にて行程二日間、芝市マンダレイ間は三日間、芝市騰越間も三日間にて連絡する事が出来る。

第三章 關稅收入

一九三四年度支那の關稅收入は各種稅則の變更と銀價の人爲的吊上政策のため相當大きな影響を受けたが、收入總額は三億三千四百六十四萬五千四百八元にして、一九三三年の三億三千九百五十二萬四千四百九十元と比較すれば、四百八十七萬九千八十二元の減少、即ち一・四四%の衰落に過ぎぬ。該收入を細別すれば輸入稅二億六千二十一萬五千九十三元、輸出稅二千四百七十萬八千八百十元、轉口稅及其附加稅一千六百九十六萬八千八百八十九元、噸稅四百三十萬二

千三十二元、救災附加稅一千四百二十四萬二千五百元、收入附加稅一千四百二十一萬六千七百八十四元である。而して各種輸入稅は主として金單位により徵收せられたが、一九三四年徵收額は一億三千二百六十七萬三千三百八十七金單位で、其中央銀行發行の關金兌換券及び小切手によつて徵稅せる額は一億一千二十四萬二千四十七元に達し、殘餘は國幣を金單位に換算せるものである。

一九三四年の輸入稅總額は三三年に比し三百九萬三千四百一十二金單位、即ち僅に二・二八%の減少に過ぎない。同年七月改訂の輸入稅率は主として増加せるを以て、輸入貿易は衰退を示せるも、關稅收入に於ては何等の變更も見なかつた。又同年六月には輸出稅の引下を見、特に或る種商品の如きは免稅の特典が與へられ、農産品も一齊引下げられたる結果、一九三四年の貨物輸出稅額は二百四十一萬二千九百七十二元の減收となつてゐる。然し銀の輸出に對しては三十月十五日より銀輸出稅の外に對英爲替相場と倫敦銀塊市場との差額に對し、爲替平衡稅を賦課せる爲め、銀の輸出稅額は前年の百四十六萬一千二百二十五元より一躍五百三十二萬九千九百八元に増收を見るに至つた。斯くて一九四年の普通貨物及び銀を含めたる輸出稅總額は前年より百四十五萬五千八百一十一元を増加してゐる。各海關の關稅收入二ヶ年間の數字を示せば左の如くである。

▼最近二ヶ年間主要海關稅收入比較表 (單位國幣元)

一九三三年

一九三四年

上海 海關

一七六、一九七、一七〇

一七五、三六三、四七四

第三章 關稅收入

五九

第三章 關稅收入

天津海關	四一、八〇四、一五六	四一、一五四、七四二
青島海關	二二、五八九、九八三	二〇、一四八、六八四
漢口海關	二〇、四一七、九六八	一九、三六五、五五〇
廣東海關	一〇、五八六、五二八	八、〇一三、一〇二
九龍海關	八、三〇四、五七四	七、四六二、八四一
汕頭海關	七、九七七、〇三一	五、七九三、七〇六
廈門海關	五、一一一、四五二	五、五〇七、四五六

六〇

在滿各關の關稅收入は得られなかつたが、關稅擔保となれる外債及び賠償金並民國二年善後借款等は期限通り完全
に送付せられた。該金額は二千八百八十九萬二千二百八十三金單位及び國幣一千七百八萬九千八百一十一元、合計國幣
七千五百四十一萬四千三百四十七元である。尙國幣の對英米爲替率は共に昂騰し兩國に對する債務償還上多大の節約
となり國家經濟に益する所極めて大なるものがあつた。一九三二年二月外債支拂基金として關稅收入より毎月國幣八
百六十萬元を支出する事が規定せられたが本年も實施せられた。更に一九三三年發行關稅庫券一億元、並に一九三四年
發行の關稅庫券一億元に對し、前者は毎月八百六十萬元、後者は毎月百四十七萬元を關稅收入より支出し、償還基金に
充當することとしてゐる。又一九三一年の米國小麥借款利息として三百四十三萬九千四百五十五米弗(國幣九百八十九
萬六千五百五十五元)

及び一九三三年米國棉麥借款利息として國幣百七十一萬四千二十三元が等しく救災附加稅より支出せられた。

第四章 對外貿易

第一節 貿易額

一九三三年以降滿在滿海關の管理權喪失のため、最近五ヶ年間の貿易の趨勢を察知せん爲には左記兩表を併記して
比較研究の必要を感じる。第一表は支那政府管轄の總海關の對外貿易額を示し、第二表は一九三〇年乃至三二間在滿
各海關の貿易額を除去せる支那本部各海關の對外貿易額である。

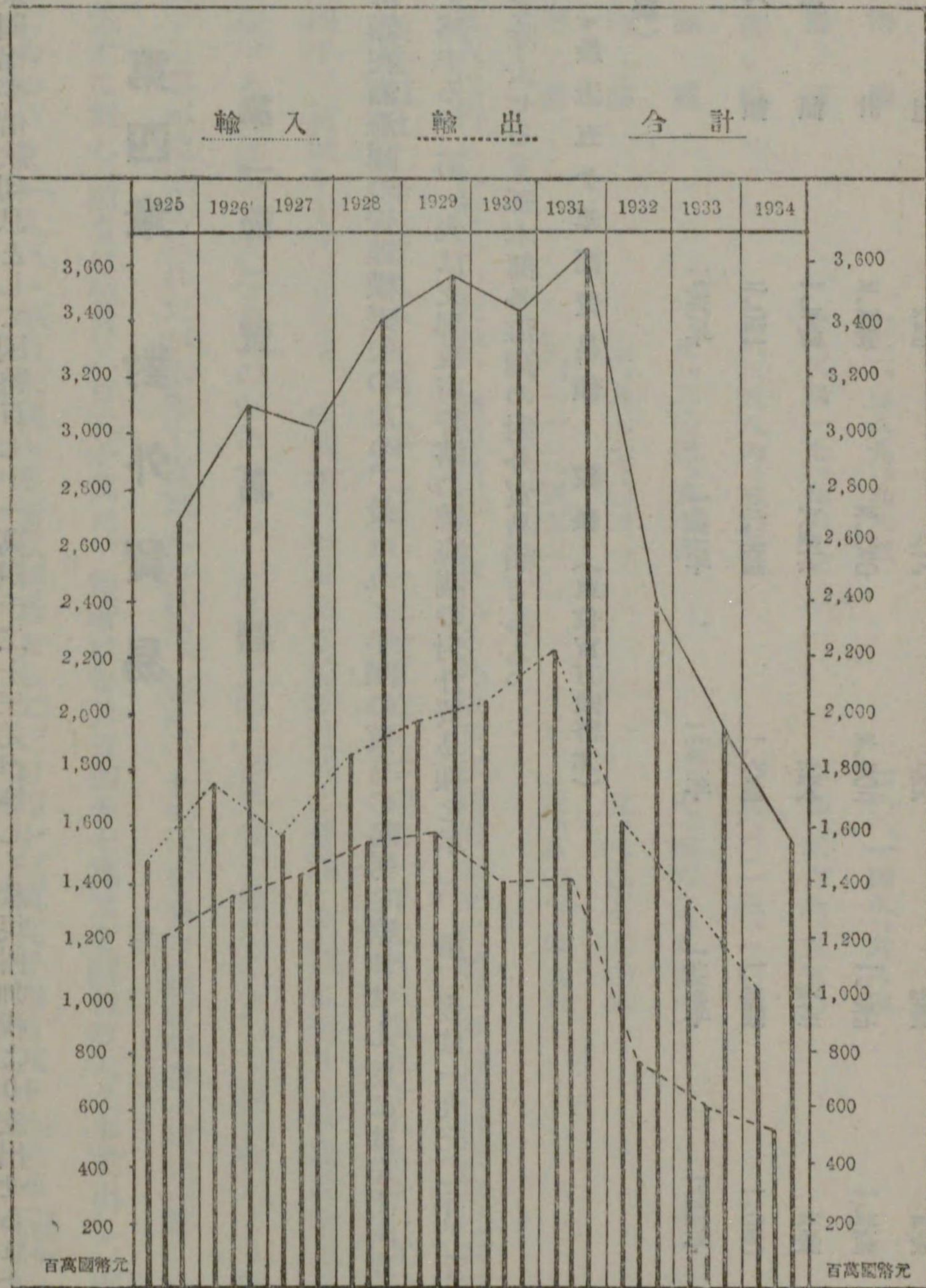
▼最近五ヶ年間貿易額 較表 (單位百萬國幣元)

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
輸 入 額	二、〇〇一	二、一三四	一、六三四	一、三三四	一、〇〇〇
輸 出 額	一、三九四	一、四一六	七六八	六二二	五三三
合 計	三、三九五	三、六五〇	二、四〇二	一、九五六	一、五三三
入 超	六四七	八八	八六	七三	四三

第四章 對外貿易 (貿易額)

六一

1. 對外貿易累年比較圖



(第二表)

輸入額	輸出額	合計	超
一九三〇年	1,731	944	2,675
一九三一年	2,001	95	2,096
一九三二年	1,534	569	2,103
一九三三年	1,444	62	1,506
一九三四年	1,010	55	1,065

即ち一九三三年度貿易状態は前年に比し、輸入額二三・四%、輸出額一二・六%を各々減少し、差引二〇%の凋落である。

尙最近二十五ヶ年間の滿蒙を除ける國民政府直轄各港の貿易額を示せば第三表の如くである。

▼二十五ヶ年間支那本部貿易額比較表 (單位百萬國幣元)

輸入額	輸出額	輸入額	輸出額
一九〇年	649	一九一三年	768
二一年	650	一九二四年	760
二二年	644	一九三五年	629
	485		546

第四章 對外貿易 (國別貿易)

白耳義	二八、〇〇四	二・一〇	二六、〇〇七	二・五三	四、二〇二	〇・六五	五、二一〇	〇・七九	三〇、七九七
ルクセンブルグ	三、〇四七	〇・三三	二、九四四	〇・二九	—	—	—	—	二、九四四
印度	七、二〇六	五・七七	四、二五四	四・〇〇	二八、八三三	四・七一	三、二五九	四・一五	二、〇九五
加奈陀	三、七三三	一・七六	一、九、二七三	一・八七	四、〇六七	〇・六六	三、五四三	〇・六六	一、五、七一九
玖馬	五〇	—	一、六一	〇・〇二	六八	〇・〇一	八二	〇・〇二	〇
丁抹	七三	〇・〇五	一、四七三	〇・一四	二、一八二	〇・六六	三、〇七一	〇・五七	—
臺灣	二、三三八	〇・一七	二、五九五	〇・二五	三、四七一	〇・七七	三、七一九	〇・六三	—
佛國	三、五九五	一・六六	三、三三四	二・二七	三、二二三	五・二七	二、一四二	三・九五	一、一八二
佛領印度支那	七五、二五四	五・五九	四、四五六	四・〇三	三、九九二	〇・六五	四、七五六	〇・八九	三六、七〇〇
獨逸	一〇七、六五三	八・〇〇	九、二〇〇	九・〇五	二〇、七八三	三、四〇〇	一九、一五六	三・五八	七四、〇四二
英國	一五三、五七七	一・四一	一、四、五三三	二・〇九	四八、七三三	七・六六	四九、七六六	九・三〇	七四、七七〇
香港	四四、一七四	三・二八	三、二二五	二・二五	一、二〇七三九	一九、七三三	一〇〇、六八八	一・八八一	—
伊太利	一六、五九九	一・三三	一、二、四七七	一・二二	五、一五四	〇・八四	六、七五二	一・三六	五、七五五
日本	一三〇、七九九	九・七二	二、六、三三六	一・三七	九、八〇〇	一五、六六六	八一、三三三	一五・一八	四、五、一〇七
朝鮮	一、三九五	〇・一〇	二、四〇六	〇・三三	一、七、四四一	二・八八	一五、六八七	二・九三	—

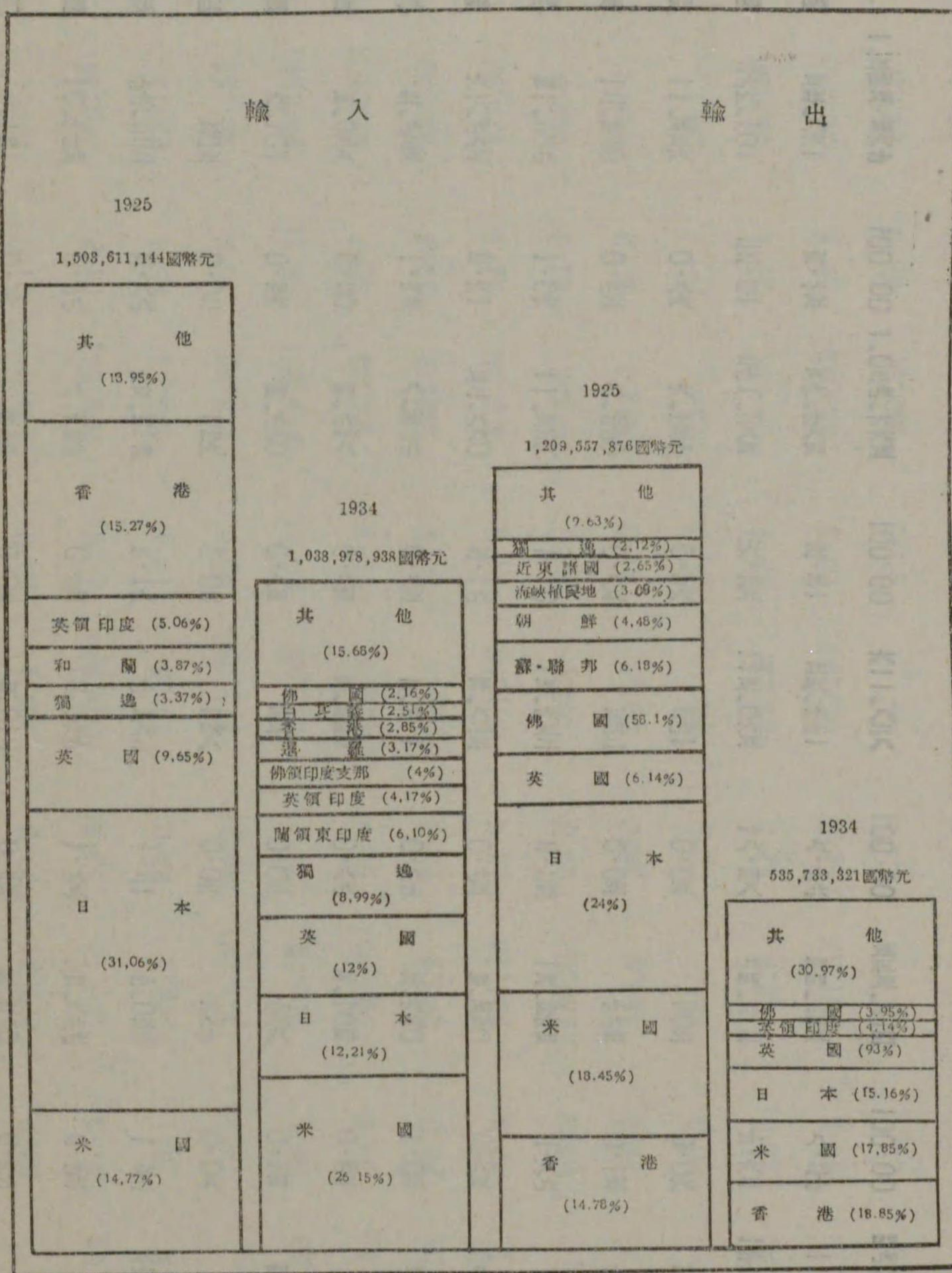
六六

澳門	二、一四一	〇・一六	五五	〇・〇五	四、〇二二	〇・六五	三、五九〇	〇・六七	三、〇〇五
和蘭	一〇、六七四	〇・七九	七、六七七	〇・七五	一、二、二六七	一、九九	一、四、六九九	二・七五	—
蘭領印度	七九、三三三	五・八九	六、三、四四四	六・一六	七、七八二	一・二二	七、〇四二	一・三三	五、六、七三三
新西蘭	三〇三	〇・〇二	二、四六	〇・〇二	三、四八	〇・〇六	四、七	〇・〇九	—
諾威	六、一〇一	〇・四六	四、九八〇	〇・八四	三三	〇・五	七、五八	〇・一四	四、三三
比律賓	四、〇五八	〇・〇〇	四、九八	〇・八四	五、四四四	〇・八九	五、一〇四	〇・九五	—
蘇耶邦	三、九五五	一・六三	八、五三九	〇・八三	五、九二一	〇・七	五、六四〇	一・〇五	二、八八九
暹羅	六、九九二	四・六一	三、二、八八〇	三・一九	五、八三三	〇・九五	四、五五〇	〇・八五	二、八、三三〇
馬來聯邦	四、二〇九	一・〇六	一、一、三三六	一・一〇	一、三、六三三	二・三三	一、五、四六四	二・八九	—
瑞典	一、二、四三〇	〇・九二	八、七七〇	〇・八五	三、四二	〇・五	七、九四	〇・五	七、九七六
瑞西	一、一、五五五	〇・八六	六、七七七	〇・五六	二、九一	〇・五	三、〇一一	〇・〇六	五、四、五五五
米國	二、九六、一〇一	三三・〇一	二、七、一、二八五	二六・三三	一、一三、〇六五	一、八、四八	九、四、三三三	一、七、六二	一、七、六、九七二
其他各國	五、五、八六一	四・一五	五、六、七八四	五・五二	五、三、七七一	八、七九	四、四、二四五	八・二七	一、二、五五九
合計	一、三四五、五六七	一〇〇・〇〇	一、〇、三、九、六、六、六	一〇〇・〇〇	六、一一、八、二八	一〇〇・〇〇	五、五、五、二、二、四	一〇〇・〇〇	四、四、四、四、四

第四章 對外貿易 (國別貿易)

六七

2 對外貿易國別比較圖



一九三四年各國の對支貿易は米、日、英の三國で主要地位を占めてゐるが、その中米國は第一位にして三億六千五百六十萬元、日本第二位で二億七百六十萬元、英國第三位で一億七千四百三十萬元である。尙輸出輸入共右米、日、英の地位は不動である。

一九三四年輸入總額は三三年に比し二三%減少し、各國の對支貿易は齊しく衰退を示してゐる。その減少率は前表百分比に示せる通りで、この百分比こそ實に世界各國の對支貿易の消長を語るものである。輸入に於ては濠洲は小麦及び麥粉の減少により三三年に比し七千四百八十萬元を縮少し、之が爲め支那の小麦輸入總額は一九三三年八千七百九十萬元に達したものが三四年は三千二百萬元に激落し、而もその中二千八十萬元は米國との棉麥借款による輸入にして一九三三年米國よりの輸入僅に五百キントルにして、濠洲より八百四十キントルを輸入せると比較して誠に雲泥の差を見る。尙日本は三三年に比し、二六%を増加し英國に代つて第二位を占めてゐる。

上表中支那にとり出超關係にあるものは八ヶ國(香港を除く)に達するが、佛國は白糸、黄糸、落花生、卵等を少額支那より輸入するに過ぎない爲め、この中に含まれない。尙輸出は米、日、英の順であるが實質的に見る時は英國は前年に比し増加し、日米兩國は減退の傾向を示してゐる。

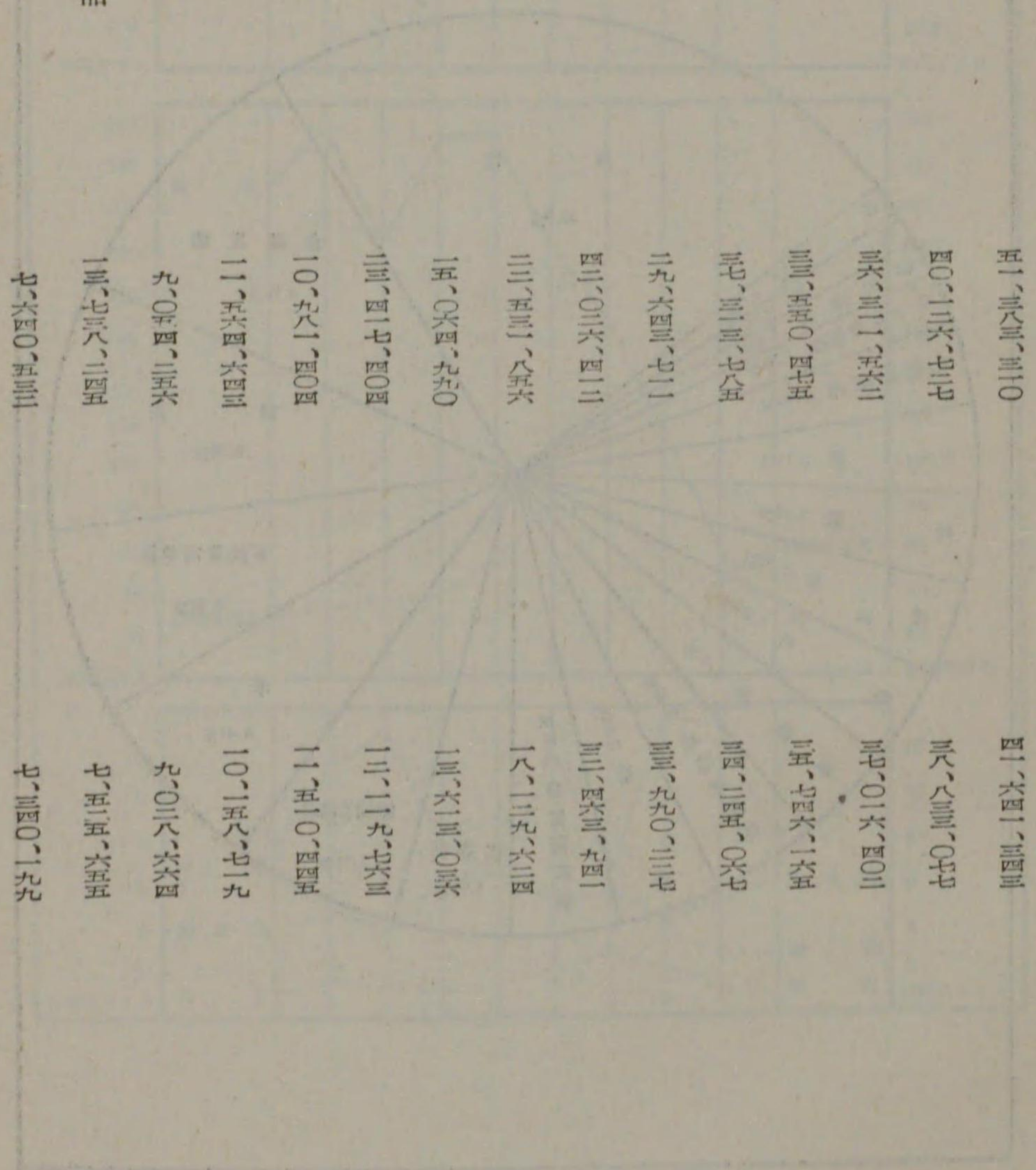
第三節 輸入貿易

一九三四年支那の輸入總額は十億三千萬元、前年に對し二三・四%の減少であるが、過去二十五ヶ年間との比較は前表に示す通りである。茲には最近二ヶ年間の主要品別輸入貿易額比較のみを掲げる。

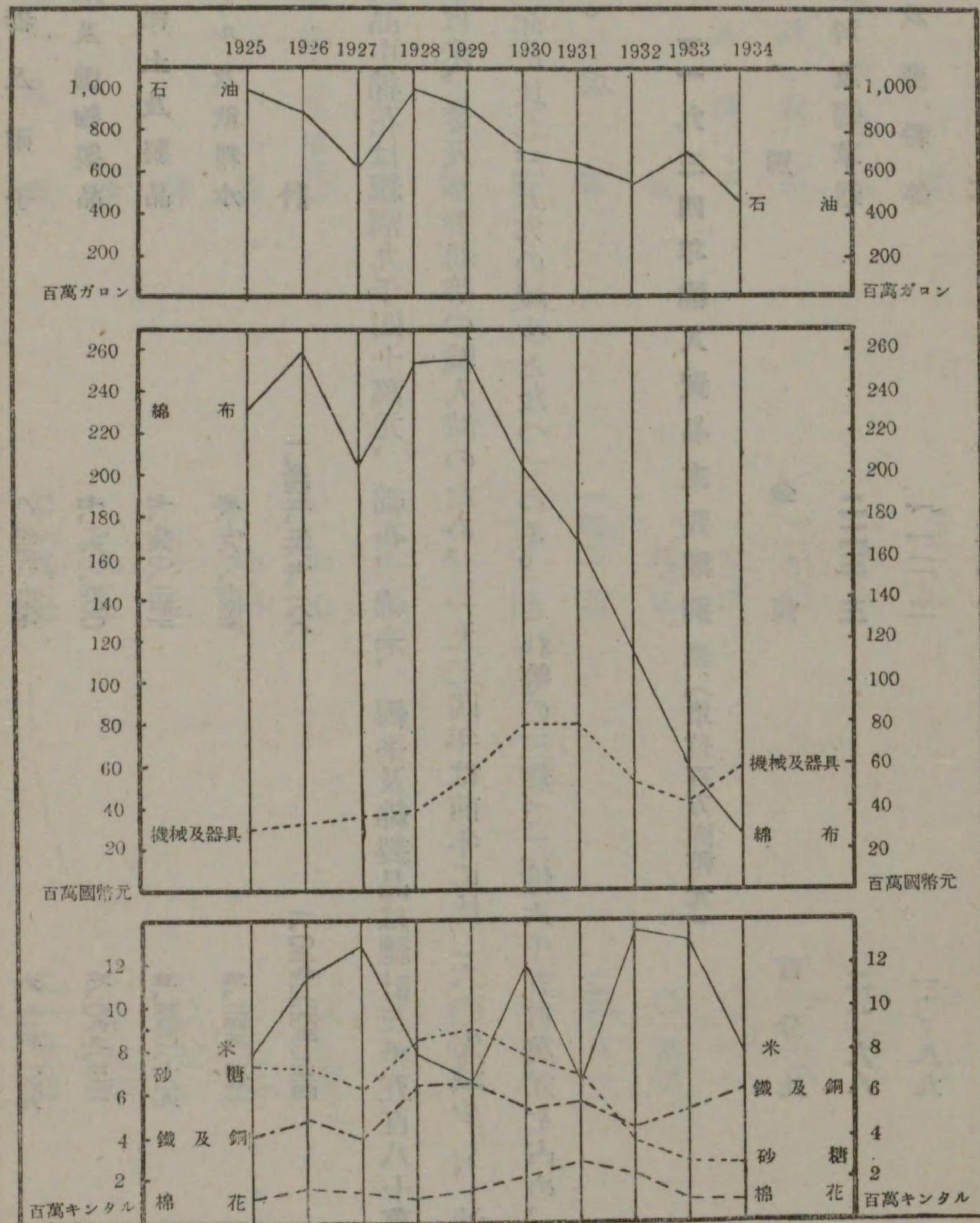
▼最近二ヶ年間對外貿易主要品別輸入表 (單位國幣元)

	一九三三年	一九三四年
棉花及綿製品	一六九,四〇六,六一九	一三六,三二一,五九五
雜穀及粉	二五,〇三三,七六六	一一,三九,五二三
各種油類	一六七,四八八,五〇七	一〇八,四七〇,二四二
金屬及鐵	九七,〇六六,五三八	九九,〇三七,六四八
機械及工具	四三,一七八,二四四	五九,三五一,五五三
雜貨	五二,〇九八,七四二	五五,六七〇,六六五
金屬製品	七三,六〇九,四七七	五三,九四六,三三三
書籍地圖類	五五,八五五,五三三	四九,五六七,六六九

化學製品及藥品
染料及顏料
車輛及船舶
毛及毛製品
木材
煙草
砂糖
魚介及海產品
肉類及罐詰
石炭及燃料
麻及同製品
木竹籐類及製品
藥材及香料
生糸(人造糸を含む)及製品
果物、種子、蔬菜

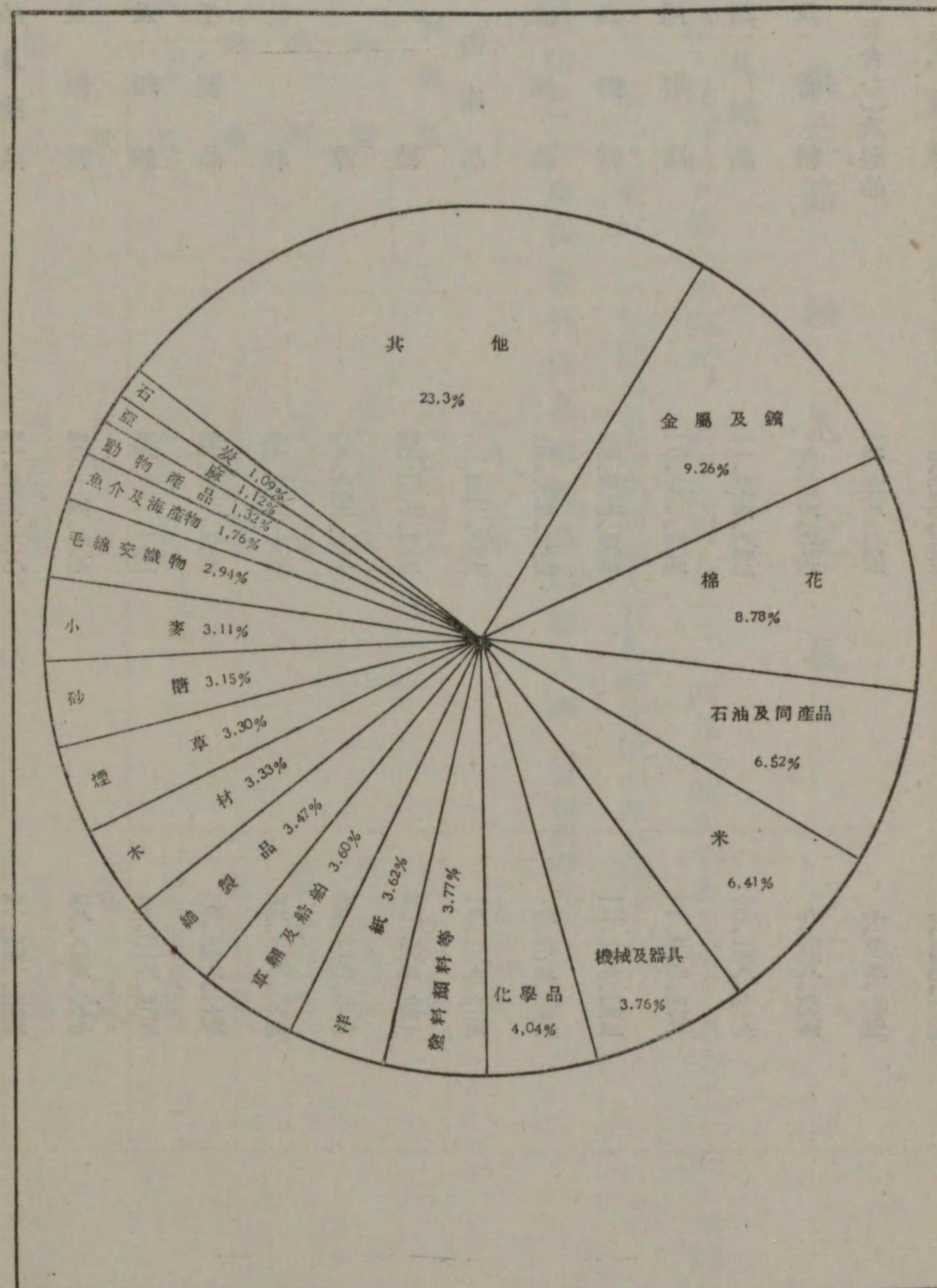


4. 重要品輸入高累年比較圖



3. 重要品輸入額比較圖

(一九三四年)



第四章 對外貿易 (輸入貿易)

陶磁器及硝子	八,四三九,五七	六,九五〇,六九
皮革類及動物製品	七,二六七,五〇〇	六,〇九九,四三三
石材、泥土及製品	七,六〇,四二一	五,五三〇,七九
酒ビール及飲料水	三,七八〇,七五三	三,二四三,四五一
合計	一,三三〇,五七,七八八	一,〇一三,九三,三三三

棉花及其製品中棉花は總額九千四十萬元、綿布、綿糸、編糸及綿製品は總計三千五百八十萬元である。雜穀及び粉類の輸入總額は米、麥及び麥粉等の輸入減のため、一九三四年は前年に比し六〇%減少し、油類は石油の輸入減のため、一九三三年に比し三五%の減少となつてゐる。これ等の三類で二億六千五百萬元を占め、輸入貨物中の重要地位を占めてゐる。

▼一九三四年輸入貿易主要類別表 (單位百万國幣元)

類別	金額	百分比
一、食料飲料及煙草類	二,二三三,三	二一・六八
雜穀及麥粉等	一,一二二,二	一〇・八九
煙草	三四〇	三・三二



類別	金額	百分比
砂	三二・五	三・一五
魚介及海産品	一八・八	一・八二
罐詰及食品	一三・〇	一・二六
果物及種子	七・三	〇・七一
其他	五・五	〇・五三
二、原料品類	一,四二二,三	一三・八一
棉花	九〇・四	八・七八
石炭	一一・一	一・〇八
木材	八・九	〇・八六
紡織纖維 (除棉花)	七・七	〇・七四
木竹	七・四	〇・七二
藥材	七・三	〇・七一
其他	九・五	〇・九二
三、半成品類	二,一九七	二一・三三
金屬	六七・八	六・五八

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

化學品、染料、顏料	四八・九	四・七五
油 脂 類	三九・九	三・八七
木 材	二六・七	二・五九
紡 織 糸	二五・四	二・四七
其 他	一一・〇	一・〇七
四、完 成 品 類	四四四・七	四三・一八
金 屬 製 品	八四・九	八・二五
鑛 質 油 類	六九・三	六・七三
機 械 及 工 具	五九・四	五・七七
紡 織 品	五七・二	五・五六
紙 類	四一・一	三・九九
車 輛 類	三七・〇	三・五九
化學製品及製藥品	二六・五	二・五七
其 他	六九・三	六・七二

綿製品 最近世界各國は綿製品の自給自足に進みつゝある爲め其貿易額は激減を來してゐるが、殊に紡績品が多
 大の打撃を蒙つてゐる。一九三三年度の輸入税率改訂に際しても自給自足を眼目として按配し、税則第三十一、三十
 二、三十七各項は増率、綿製品は据置とし、捺染及び雜綿布等は引下げとなつてゐる。税率の改訂、經濟界の疲弊、支
 那製品の進出等によつて輸入綿製品は頗る不振の状態に陥り嘗ては輸入品の第一位であつたのが本年度は數等下位に
 列するの慘狀である。此の顯著なる衰退の現象は最近五ヶ年間の綿製品の輸入額と比較すれば、更に一目瞭然であ
 る。即ち一九三〇年の輸入額は二億三千三百四十萬元にして、翌三一年は一億八千八百六十萬元に減退、更に三二年は
 一億三千九百八十萬元に、三三年は七千三百三十萬元に凋落、一九三四年は僅に三千五百八十萬元にして前年の半額にも
 達せざる状態である。

▼最近三ヶ年 各種綿布輸入表 (單位國幣元)

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
生 地 綿 布	一四、三三、三六六	三、四五、七七	二、四三、五五八
漂 白 及 染 色 綿 布	六四、八九、五一六	三〇、五三、五四六	一五、九九、三五〇
捺 染 綿 布	三三、〇三、四六〇	一七、八二、七三	五、七五、〇六四
雜 綿 布	一一、九一、五一	六、四一、四三三	二、七六、三六六
合 計	一三、〇七、六三三	五八、三四、四三三	二六、七〇、三五八

(註) 在滿各港の輸入一千九百九十萬元を含まず

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

右表の如く綿製品輸入總額中綿布の激減は著しく注目に値する。綿布は英、日兩國よりの輸入最も多いが一九三四年日本よりの輸入額は一千五百二十萬元前年の三千三百十萬元の半ばにも達せず、英國亦二十萬元より一千十萬元に減退してゐる。然しながら在支日本人紡績工場の生産増加は此の輸入減を補ふに足り、在支英國工場の産額に就ても注目の必要がある。支那の産業保護政策實施以來國內工業は多大の利益を受けてゐるが、同時に在支各國紡績も齊しく恩恵に與つてゐると云ふ事實は見逃せない。

次に最近三ヶ年間の綿糸輸入數量を記せば次の如くである。

▼最近三ヶ年 間綿糸輸入國別表 (單位百疋)

英 國	一九三二年	一九三三年	一九三四年
印 度	二九、六〇八	七、〇一九	五、一〇二
日 本	一一、五七九	九、一一一	六、四四一
獨 逸	一一、五一四	二七七	五五七
香 港	九七〇	一〇四	七二
米 國	二、一二九	四三七	二五
		六三	一

伊 太 利	一、〇三五	二九	—
其 他 各 國	一、〇二六	一五一	一、二三一
合 計	五七、八六一	一七、一九一	一三、四三九
再 輸 出	四〇	二六二	一〇三
純 輸 入 額	(註) 五七、八二一	一六、九二九	一三、三三六

(註) 在滿各港の輸入量九、四七八キントルを含まず

此等綿糸を金額に換算すれば、一九三二年一千四百八十萬元、三三年三百九十萬元、三四年は二百九十萬元に減少してゐる。一九三四年に於ける綿糸關稅は何等の變更も見なかつたのに、斯の如き減少を示すに至つたのは専ら支那紡績工場の進出に因る外國品の輸入阻止の結果である。一八九〇年乃至一九二二年の輸入綿糸は百萬乃至二百五十萬担にして、一九一五年は百六十萬キントル一億四百五十萬元に達してゐる。然るに一九二九年來輸入は漸減し一九三四年はこれが低記録を示すに至つた。

棉 花 最近四ヶ年間の棉花の輸入は稍々活況を呈したが、その國別輸入表を示せば左の如くである。

▼最近四ヶ年 間棉花輸入國別表 (單位百疋)

米 國	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
	一、五五六、五八三	一、八七六、二七一	七九、七三〇	五八三、七四六

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

印 度	1,094,311	274,350	395,344	565,635
埃 及	27,551	34,566	27,469	63,387
日 本	149,455	53,787	7,673	1,576
其 他 諸 國	6,455	10,500	6,487	10,016
合 計	2,287,812	319,702	443,873	1,524,337
再 輸 出	22,382	4,066	6,561	1,119
純 輸 入 額	2,265,430	315,636	437,312	1,523,218

八〇

支那は世界第三の棉産國にして、約四千五百萬畝の耕地を有し、一九三四年の生産額は六百八十萬キントルに達し、空前の記録を示してゐる點から見ても、外棉輸入の減少は實に當然の結果と云ふべきであらう。尙一九三一年二百八十萬キントル二億七千九百萬元の棉花輸入は過去の最高記録であるが、これに對し一九三四年の輸入は僅に九千四十萬元である。

過去十余年來支那紡績工業の勃興に伴ひ、棉花の輸入も共に増加せるも、一九三一年以來米棉種を採用して生産の増加及び品質の改良に意を注げる結果各種細糸の原料にも使用せらるゝに至り、自然輸入棉は減少せざるを得なくなつたのである。一方國民政府も國內工業保護の名の下に輸入棉に對し稅率の改訂を行ひ、百疋に付金單位三元五角より一舉五元に引上げた。然し上表を見るに一九三四年の輸入量は三三年に比し僅少の減少に止り、外棉の輸入も尙相當に存在することが窺はれる。

▼最近三ヶ年間 棉花供給數量表 (單位百萬キントル)

年頭各工場在貨	一九三二年	一九三三年	一九三四年
國內生産額	0.7	0.9	1.0
輸入數量	4.9	5.8	6.8
合 計	2.2	1.2	1.2
合 計	7.8	7.9	9.0

▼最近三ヶ年間 棉花消費數量表 (單位百萬キントル)

各工場消費量	一九三二年	一九三三年	一九三四年
年末工場在貨量	5.4	5.5	5.7
輸出數量	0.9	1.0	1.0
其他	0.4	0.4	0.2
合 計	1.1	1.0	2.1
合 計	7.8	7.9	9.0

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

人造絹糸 一九三四年の世界的不況裡に於ても本品の世界貿易状態には何等の打撃もなく、品質の進歩と價格の低廉により生産額は二〇%の増加となり、一九三〇年の倍額に達した。且つ製品は従前に比し著しく耐久力の増加となり需要も頗る旺盛である。一九三四年世界人絹貿易額は綿糸の三分ノ二を占め、生産額の第一位は米國、第二位は日本にしてその輸出總額は一億三千五百九十萬圓である。之に反して支那輸入の人絹糸及人絹製品は世界貿易狀況と逆行の狀態を示してゐる。即ち最近四ヶ年間の人絹糸及び人絹製品の輸入表を掲げると左の通りである。

▼最近四ヶ年間人絹糸及人絹製品輸入表 (單位國幣元)

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
人絹糸	三九,〇七七,七九六	三〇,九七三,三五五	一一,〇九三,〇九六	六,四四四,四八七
人絹織物	一,七九三,八五六	五五,二二三	二八二,七七三	一八六,八七七
人絹綿交織品	二,一三三,八八三	五三,二八〇	二五二,七三三	一〇四,八六七
人絹毛交織品	一,五九九,二二三	一九,二〇四	五二,七二四	三六,六二〇

人絹製品はその額僅少にして記述の要を認めないが、人絹糸の一九三四年輸入額は三三年の半減となり、數量亦漸次減退してゐる。即ち一九三二年七百九十萬疋、三二年六百三十萬疋、三三年四百二十萬疋、三四年は二百七十萬疋である。人絹糸に對する稅率は本年變更なく一九三三年と同様百疋に付百二十金單位であるが、低級品に對しては

實に輸入原價の倍額に相當する課稅となり、密輸を誘致する結果となつてゐる。一九三四年人造絹糸輸入額二百七十萬疋中約三分ノ一の七十二萬七千疋は密輸沒收品である。之が爲め上半期の人絹貿易は頗る打撃を受けてゐたが、下半期に至り新監視船の就航、其他密輸防壓法が講ぜられ著しく密輸の減退を見るに至つた。尙一九三四年人絹糸の輸入額は日本より百三十萬疋、伊太利より八十萬疋、獨逸より四十萬疋である。

金屬及鑛 金屬及び鑛は輸入品中第四位にあり頗る巨額に達してゐるが、最近四ヶ年間の各種金屬及び鑛の比較表を示せば次の如くである。

▼最近四ヶ年間主要金屬及鑛輸入表 (單位百疋)

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
銅 (塊 及 錠)	二八,二八五	一三,六六七	三三,八八六	一五,〇〇〇
アルミニウム (箔)	一五,一一〇	一七,九七〇	四,三八〇	一,七七六
鐵及銅(亞鉛引せざるもの)				
ア ン グ ル	一四九,一七〇	八二,八八九	一六六,三三二	一五,〇七九
パークロピング及バーエンド	四六〇,二五八	一七三,六六二	三〇一,六七八	二五三,六四四
條	一,〇三三,四三三	一,一五四,一六七	一,二八六,七四四	一,二七二,四五一

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

コ	ツ	プ	ル	一九三二年	一九三三年	一九三四年
籠				八九、六〇八	六、九六五	一一〇、七七一
釘(ワイヤー及カッター)				一九九、五二九	一〇九、六七三	一七、三三六
銑鐵及ケントレッヂ				三三八、一五三	二六七、五三四	四四〇、五〇〇
パイプ及チューブ				三五、四六六	九七、四九八	一〇九、七三九
カツチングプレート				三五四、八八〇	三三四、〇四六	二九、〇七七
レ				一五、七五八	三三〇、一一四	一一五、〇五五
薄板及板				四八、五一一	三五三、一〇一	四八〇、六二一
鋳力板				四六、七八六	三六、二五六	四九、九二九
鐵及鋼(亞鉛引)				三〇八、五〇五	二六七、四四五	三三、六三三
平				板		
線				一、四三、六〇〇	一、四、八七八	一、五七、八二七
ワイヤーシヨート				一、二六、四一四	八〇、一〇一	九七、六三四
鉛				棒		
錫(錠及塊)				一、一〇、四四五	一、七、四四	一、〇、九

一九三四年輸入金屬及び鑛中上表以外に約九千九百萬元あり、此等は三三年九千七百十萬元、三二年、三一年は在滿各港を含めて夫々九千三百六十萬元及び一億三千七百七十萬元である。總体に於て一九三三年度は比較的進境を見たるも一九三四年は僅に増加せるのみにして、實際の取引状態は前年に比し遜色を免れない。即ち一九三四年のレールの輸入は前年の三倍に激増し、金額に於て一千二十萬元の増加となつてゐるが他は概ね減少である。レールは英、佛兩國が大部を占め主として漢口、南京及び天津等に輸入し、粵漢、隴海及び同蒲鐵道に使用せられた。一九三四年七月金屬輸入税の改訂を見て一率に引上げとなつたが、礦砂の輸入は微々たるを以て何等の改訂も見ず、本年の輸入額は僅かに七萬二千元である。

一九三四年主要金屬たる鋼鐵、銅、鉛等は生産額増加せるも市價は殆んど變化を見ず、錫及び鋼鐵が僅に強調を保てるに止つてゐるが、錫は世界生産制限の實施により一九三三年末には一噸二百二十八磅十志に達した。

機械及電氣材料 一九三四年に於ける機械及び電氣材料の輸入貿易は頗る活況を呈した。最近三ヶ年間の輸入額比較表を示せば左の如くである。

▼最近三ヶ年間の機械及電氣材料輸入表 (單位國幣元)

電	氣	機	械	一九三二年	一九三三年	一九三四年
				一六、一〇四、二八四	四、九五五、五九九	五、七二二、一六〇

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

紡織機械及部分品	一六、〇二六、八六六	九、〇八一、七七七	一四、一〇六、〇九七
其他機械及部分品	三三、七九六、六五四	一五、〇四六、一三五	三三、一四三、三九五
工 作 器 具	三、七二七、四七七	三、九二一、五〇六	四、一九四、六八六
電 氣 材 料	一〇、〇五八、七六五	九、五五五、八七二	八、二六四、三三八
電話機電信機及材料	二、九四一、四七一	二、二六、〇〇四	二、一四五、三四六
ラヂオセット及部分品	二、八七三、一六四	三、七三三、九一〇	四、五七五、〇三九

一九三四年上記機械器具の輸入は等しく増加を示せるも、就中紡織機械は最も巨額に達してゐる。紡織機械の本年輸入額は一千四百二十萬元にして、昨三年に比し五百十萬元を増加し、英國より七百四十萬元、日本より五百四十萬元を輸入してゐる。各港別に見たる輸入額は上海を筆頭に、漢口及び天津の順となり、概ね紡績工場の擴張及品種増加の爲めで機械の種類も大部分綿毛紡績業に用する漂白用、染色用、捺染用及び製糖機械等である。棉花壓搾機は臨海鐵道により主として河南及び陝西兩省に輸入し英獨兩國製品が最も歡迎を受けてゐる。前表中第三項其他機械及部分品の中に包含せらるゝ種類は頗る多く、實に前年に比し一千十萬元の激増となつてゐるが、主として發動機、醸造機、煉油機及び製糖機械類の輸入増加に由るものである。本年發動機の輸入額は八百二十萬元に達し其輸入國は英、佛、獨の順となつてゐる。醸造、煉油及製糖機械の輸入は前年僅に三十萬元に過ぎざるものが、一九三四年には一躍四百

二十萬元に達してゐる。廣東省營三製糖廠の機械類は米國、致須國及び布哇等より輸入せられたが、此の外伊太利、獨逸、英國及び比律賓等より輸入せる機械類も少くない。

機械類は産業發展のため缺くべからざる商品であり、政府もこれに鑑み輸入税率も極めて低率を實施してゐる。更に一九三四年改訂の税則にも機械器具に對しては何等の變更も加へざりし爲め、輸入額は續々増加の傾向にあり、一方國內に於ても輕易機械器具製造工業の勃興を見つゝある。

米及雜穀 一九三四年米及び雜穀類の輸入は一九三三年に比し五九%の減少を呈せるも、主要輸入品目中に於ては尙第二位にある。

▼最近三ヶ年問米麥及雜穀輸入金額表 (單位百万國幣元)

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
米	一八五・四	一五〇・三	六六・〇
小 麥	八〇・七	八七・七	三二・〇
麥 粉	四六・三	二七・七	七・一
其他穀類及粉	七・八	九・三	七・一
合 計	三三〇・二	二七五・〇	一一二・二

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

第四章 對外貿易 (輸入貿易)

▼最近三ヶ年間米國別輸入表 (單位百担)

國別	一九三二年	一九三三年	一九三四年
暹羅	三、八三三、二九三	四、五七七、七〇九	三、四三二、六四八
佛領印度支那	四、五八二、七六六	五、六六三、四二六	三、四三三、七五三
緬甸	四、三三〇、四七四	二、五三八、七三三	六、四一、一七五
香港	六、九四一、一八七	一、五八一、一〇一	一、四〇、〇四四
日本	二、四〇〇、三三三	一、七、五三八	一、九、七三三
其他各國	九六、一五四	五三、九九五	四二、二四八
合計	三三、六三三、九五五	三、九五六、七三三	七、七、〇、七一一
再輸出	三、三二一	二、四七一	一
純輸入	三三、五九九、六三四	三、九五四、〇〇一	七、七、〇、七一一
米國	一九三二年	一九三三年	一九三四年
亞爾然丁	一、八、一〇、五八八	五、二四	三、〇、六、二一〇
亞爾然丁	七、六、〇、五三	一、三、四、一、三三	九、七、〇、七一一

國別	一九三二年	一九三三年	一九三四年
濠洲	五、五八二、四八八	八、三三三、六一四	四、三〇〇、一七一
加奈陀	一、六五二、五五五	七、七、〇、七一	八、五、九、三三四
其他各國	六、八八三	二、三三八	七、七、四、九三三
合計	九、三、九、七、七	一〇、七、四、六、三八	四、六、四、九、四一九
再輸出	六、六、七、七	四	一
純輸入	九、三、三、〇、九〇	一〇、七、四、六、三四	四、六、四、九、四一九

▼最近三ヶ年間麥粉國別輸入表 (單位百担)

國別	一九三二年	一九三三年	一九三四年
米國	二、三、八、四、三三	六、〇、六、五、四三	三、五、五、七、七四
濠洲	四、三、三、九、九三	九、三、三、二、三	一一、九、八、三、〇〇
加奈陀	五、八、六、四、三三	七、一、三、八、三	一〇、九、六、六、九
日本	一、二、〇、六、四、七〇	三、六、七、八、九	九、八、六、五
其他各國	八、八、三、三、五	二、九、三、四、一	一、〇、四、六
合計	四、一、四、五、八、六〇	一、九、五、七、二、九四	五、九、五、七、七四
再輸出	一、三、三、〇、七六	一、八	二、六
純輸入	四、〇、三、二、八四	一、九、五、七、一、三三	五、九、五、七、四八

農業立國たる支那が最近數ヶ年間莫大な米穀の輸入を續けつゝあるは憂ふべき現象であるが、本年は數量、金額共に著しく減少を示した。即ち金額に於て外米五六%、小麥六四%、麥粉七四%を、數量に於ては外米四〇%、小麥五七%、麥粉六九%の減少となり、この影響は貿易尻に及ぶ所實に支那入超額一億六千六百萬元の縮減となり誠に意を強くするに足るものがある。之等は本年輸入税則の改訂を見たる結果にして、前年十二月の改訂によれば米百担に付一・六五金單位、雜穀〇・八三金單位、小麥〇・五金單位となり、改正前に於ける米一擔に付一金單位、雜穀〇・五金單位と比較すれば殆んど大差なきも、麥粉のみは引上げられて、百担に付一・二四金單位となつてゐる。尙廣東廣西兩省が輸入米に對し特別税を賦課するに至りしことも輸入衰退の一因と考へられる。即ち一九三三年の廣東、廣西兩省の外米輸入額は全支輸入の七九%を占めてゐたが、本年は六五%に減退してゐる。一九三四年支那食用米の輸入總額は八千四百三十萬元にして、其中廣東、廣西兩省の輸入額は、七千二百二十萬元に達し名實共に外米集散地の中樞となつてゐる。此等兩省は毎年その輸入量並に價格共に多少の變更はあるが本年特に衰退の甚しきは、華僑の送金減に伴ふ人民の疲弊せるに加へ、外米は各種特別税の増徴を受け著しく高價となり遂に購入不能となつた爲めである。上表中緬甸よりの輸入最も少く佛領印度支那、暹羅等も比較的減少を來してゐる。支那産米は各地旱魃の爲め收穫頗に減少し、小麥は米國より輸入せる十八萬一千キントルを始め全部棉麥借款によるものである。又濠洲よりの小麥輸入額は一九三四年僅に四十萬キントルにして、前年の八百四十萬キントルに比し實に懸隔の著しきものがある。尙

國內の米收は旱魃の爲め多大の打撃を蒙つたが、小麥は反つて全國的豊作を見、僅に北支地方が降雨の爲め産額減少したに過ぎない。一九三四年世界の小麦産額(蘇聯邦産を除く)は一九二四年以來の最低記録を示し、各國に於けるストックも漸く減少し、同年下半年には久し振りに價格の騰貴を見るに至つた。

砂糖 一八三四年世界砂糖の滞貨は減少を來せるも、價格は未曾有の低記録を残してゐる。即ち旋光度九十六度の玫瑰糖倫敦平均價格は一九三三年一ハンドレツドウェイト四志八片二分の一の所、三四年の最低は三志十片二分の一内外と實に一二%の暴落を見るに至つた。支那市場に於ける糖價も之に追隨し、一九三四年末に於ける爪哇精糖は三三年末に比し二〇%の下落である。本年稅率の改訂は砂糖類には何等の變更をも見なかつたが、現行輸入稅率は輸出原價の二二・五%乃至二五・〇%と云ふ苛酷なるものにして、爲めに密輸は依然猖獗を極め統計に計上され居るもの、約四分の一は密輸沒收品である。密輸糖類の最も多く市場に販賣せられつゝあるは河北、山東兩省であるが、下半年に至り新造巡邏船の就航により監視嚴重となれる爲め漸くその影を潜むるに至つた。

▼最近三ヶ年間 砂糖輸入表 (單位百担)

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
糖	二九一、三九九	三〇四、五七五	二五五、一七六
精糖	二、九〇〇、四一一	二、五八八、五六六	二、四九一、二九七
角砂	六、六六九	二、九三三	四、五九四

一九二九年糖類(糖蜜、角糖、葡萄糖、塊等を除く)の輸入は八百四十萬キントルにして、其後國內の疲弊と稅率の引上により漸次衰落し一九三四年には密輸沒收品を加ふるも、尙上表の如く極めて微々たるものであつた。

上表中糖蜜は大部分印度及び比律賓より輸入され、其中廣東製糖所に轉送せられるもの十二萬八千キントルである輸入糖中二%以上轉化糖を含むもの百十萬キントル(日本品六十萬キントル、香港品四十萬キントル)、旋光度八十六度以下のもの四十萬キントル(三十萬キントルは蘭領印度産)八十六度以上九十八度以下三十萬キントル(主として蘭領印度産)九十八度以上七十萬キントル、その中日本産六十萬キントルを占めてゐる。

廣東、廣西兩省は糖業發展の中心地をなし、製糖工廠建設計畫四ヶ所の中三ヶ所は既に設立せらるゝに至つた。政府當局も茲に意を用ひ、糖業統制辦法を公布し糖類の輸入、運輸、販賣等に關し、專賣機關を設けて嚴重な管理を實施してゐる。

化學製品及製藥 化學製品及製藥品の本年輸入額は四千六百十萬元にして、前年の五千四百四十萬元に比し一九%を減少してゐる。尙その減少振りに就て見るに、金額の減少は數量の減少よりも著しきものあるは世界各國品の支那市場に於けるダンピングの結果であらう。この種生産品中硫酸アムモニアの減退最も顯著にして、前年に比し七百三十萬元の減額となつてゐる。倫敦經濟週刊によるに一九三四年世界化學肥料の生産額は更に進展を續け、米、獨、伊露、埃及等は最も多く、支那は反對に減少を示してゐる。硫酸アムモニアは農業國には缺くべからざる必需品なるに拘

らず世界各國共に生産消費の増加を呈せるに反し、支那のみ輸入減退を示してゐるのは奇異とされる。即ち昨年百萬キントルに比し本年はその半額五十萬キントルに過ぎざる状態であり、この原因としては農村經濟の破産、支那全國に及ぶ旱害、廣東、江蘇、浙江三省の輸入制限、福建省の秩序紊亂等が考へられる。尙最近支那に於て窒素肥料酒精、酸類其他重要化學製品(苛性曹達、燒石灰)並に普通化學製品及び製藥品等の工業が勃興し、その産額も需要の約二割を充たしつゝあるは注目される。政府も國內工業保護の見地から、一九三四年此等輸入品に對し等しく稅率を増加し、その輸入防壓に努めたる結果、一九三一年八千十萬元の輸入額は三四年には四千六百十萬元に減退した。

染料・顔料・塗料 本類別に屬する各種製品も概ね前項と大差なき形勢にして、日本品進出のため著しき價格の低落を示してゐる。但し輸入額は一九三三年の四千萬元に對し三四年は三千八百八十萬元と其間大差なきも、消費數量は増加し、大勢より見たる時は非常に好成績を示してゐる。輸入額に於てはアニリン染料、藍、硫化黒大部分を占め、殊にアニリン染料は前年の九百萬元より一躍一千六十萬元に達し、一八%を増加してゐる。本品は獨逸より輸入せらるゝもの最も多く七百三十萬元に達し、殘餘は順次米、日、英となり、殆んど三國伯仲の状態にある。人造藍の輸入額は一千三百四十萬元にして前年と大差を見ず、液体及泥狀藍は獨逸、米兩國より輸入せられ、乾狀藍は獨逸産六分ノ五を占め、次いで佛國産が有勢である。硫化黒の輸入量は一〇%の増加を見たるも、金額は反つて昨年四百九十萬元より四百八十萬元に減少し、其大部分は日、獨兩國の製品である。

一九三四年の改訂稅率により各種染料、顏料、塗料類に對しては一齊引上げとなつたが、アニリン染料及び藍は何等の變更も見なかつた。

石油產品 支那の石油輸入量は例年變化を免れないが最近三ヶ年間は特に増減の著しきものがある。

▼最近三ヶ年間石油產品輸入表

品別	單位	一九三二年	一九三三年	一九三四年
石油	立	五三六、八四、五八	七〇八、八四、八七五	四四〇、四九、一、九
ガソリン・ナフタ・ベンゼン	〃	八三、一五、三〇七	一一八、四四、四三三	一三〇、一三〇、三〇〇
機械油	〃	二八、九五、八〇〇	四二、三〇〇、五〇〇	四二、三〇〇、〇〇〇
液体燃料	瓩	三六、二六	三四一、四七	四八、六九四

一九三四年の石油輸入量は前年に比し三六%の減少であるが、主なる原因を列記すれば左の通りである。

(一)一九三三年世界各國が石油の對支市場確保、販路擴張等のためダンピングを斷行せる機に乗じ、在支石油商は多數の買占をなし陰に巨利を得んとしたが、隅々本年の稅率改訂を見越し保管中の全石油の輸入手續を完了せることは本年の石油輸入に多大の影響を及ぼしてゐる。

(二)一九三四年改訂の石油輸入稅率は二罐入り一箱(一八・九三)に對し一・八金單位、バラ荷十立に付〇四・五金單位

となり著しく高率となつてゐる。國民經濟逼迫の際斯の如く稅率の引上げを見るに至つては、其輸入額の減少も止むを得ざる次第である。

(三)液体燃料は支那全國に需要あり、特に南支一帶が最も有力消費市場であるが、販路は既に開拓の餘地を存しない即ち九龍經由廣東一帶に輸入せられたる額は一九三三年の四千五百四十萬立に對し本年は僅に二十萬立である。

一九三四年石油輸入量は米國より二億三千五百萬立、蘭領印度一億三千六百萬立、蘇聯邦四千百萬立、キエラサオ島三千八百萬立等である。同年一月上海市場に於ける價格は十米ガロンに付國幣六元六角にして、九月には八元四角に騰貴し以後歳末迄保合の状態であつた。

發動機用ガソリンの輸入量は前年より二七%の増加であるが、主として國內道路の改良發展に基く需要の増加の爲め價格も漸次昂騰の勢を示してゐる。即ち上海市場に於ける價格は毎米ガロン國幣二角一分(中一角一分は今次の輸入にして激烈な販賣戰の結果、米國太平洋岸一圓の販賣價格以下と云ふ廉價である。目下南支一帶のガソリンは主として自動車に使用せられ、益々消費額も増加してゐる。

一九三四年に於ける液体燃料の輸入は三三年より二〇%増加し、その用途もガソリン用及び普通工業用と相半ばしてゐる。機械油は三三年と大差なく稅率加重による國內工業衰微のため輸入も微々として振はない。

洋紙 一九三四年七月の改正稅率は紙類に對しては比較的變更少く、上蜡紙、蜡光紙、油光紙、筆記紙類等

は反つて税率の軽減を見、紙業經營者、印刷業者等は多大の恩恵に浴した。紙類の輸入は一部例外を除き何れも減少してゐるが、紙類中の重要品たる印刷紙、新聞紙等は前年に比し一七%の増加である。而して此等は大部分加奈陀、日本、米國より供給せられ、本年の輸入量は夫々二十八萬八千キントル、十五萬二千キントル、十萬五千キントルに達してゐる。一九三四年紙類輸入總額は七十七萬七千キントルにして、主要品の輸入は左の通りである。

▼最近三ヶ年 洋紙輸入表

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
普通印刷紙	五三七,七〇〇	六三六,〇八一	七七七,四四四
其他印刷紙	一九六,三五〇	二〇一,一五四	一五九,七〇〇
油光紙	二五四,〇七〇	一七九,四九九	九〇,五〇〇
包装紙	一〇三,九八〇	一三七,五七七	一六七,〇〇〇
ボイル紙	六,一八六,五七二	四,七六〇,二七八	三,一二七,〇〇〇
煙草用紙	五,五三六,三〇〇	五,四七六,四〇三	三,五八九,五二九
	キントル	キントル	キントル
		國幣元	國幣元

木材 最近三ヶ年間の木材輸入狀況を示せば次の如くである。

▼最近三ヶ年間 主要木材輸入表 (單位立方米)

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
普通軟材	三〇九,四一六	九四八,一〇七	八三〇,七七九
普通硬材	一五三,三三三	一〇九,八八三	一〇一,一七六
チーク材	一六,四七三	一六,八七六	一一,八五八
枕木	一〇九,七九〇	一,五三三,二六六	二,四二一,二五四

上表中一九三四年の輸入量は三三年に比し激減を示すも、三三年の輸入量は實に例外的巨額を示せるもので、これと匹敵するは僅かに一九二九年と一九三一年の兩年のみである。即ち三三年分は例外として一九三二年と比較對照すれば、チーク材以外は總て増加を示してゐる。米國太平洋沿岸埠頭人夫の同盟罷業の際、一時木材の輸入杜絶し國內在貨は一掃されたが、此等の事情を考慮する時は一九三四年の輸入が前年に比し一二%減少せりと云へ、決して貿易の衰退を意味するものではない。輸入國別に見る時は加奈陀第一位にして多く軟材であるが、其原材、製成材等は遙に米國を凌駕してゐる。近年蘇聯産の木材輸入減少は注目すべき現象である。硬材は前年に比し一三%、チーク材は三〇%何れも税率の引上により減少してゐるが、枕木のみは二五%の増加となつてゐる。

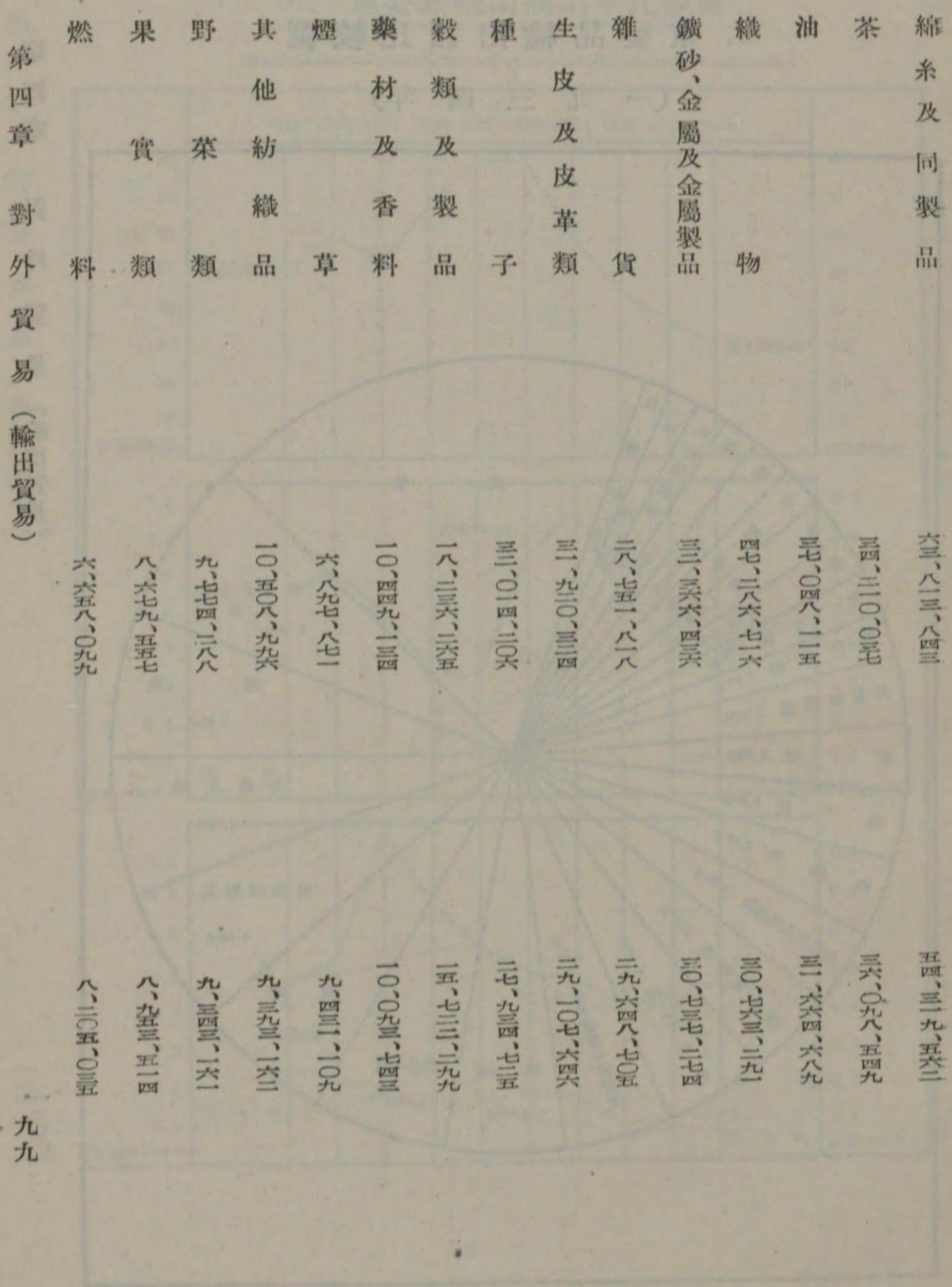
第四節 輸出貿易

一九三四年輸出總額は五億三千五百萬元にして、前年の六億一千二百萬元に比し少々減少を示してゐるが、更に一九二九年に比較すれば實に半減となつてゐる。蓋し一九二九年の輸出は歐洲大戰以來の最高記録にして、世界經濟恐慌以前の好況時代であつた。最近二年間の支那土産品の輸出額減少は世界的貿易衰退に伴ふ現象にして、之を國內擾亂の結果なりと斷定するは誤謬であらう。加之國際貿易極めて不振の中にあつて支那土産品が尙前記の如き輸出額を見たることは寧ろ意を強うするに足るものである。

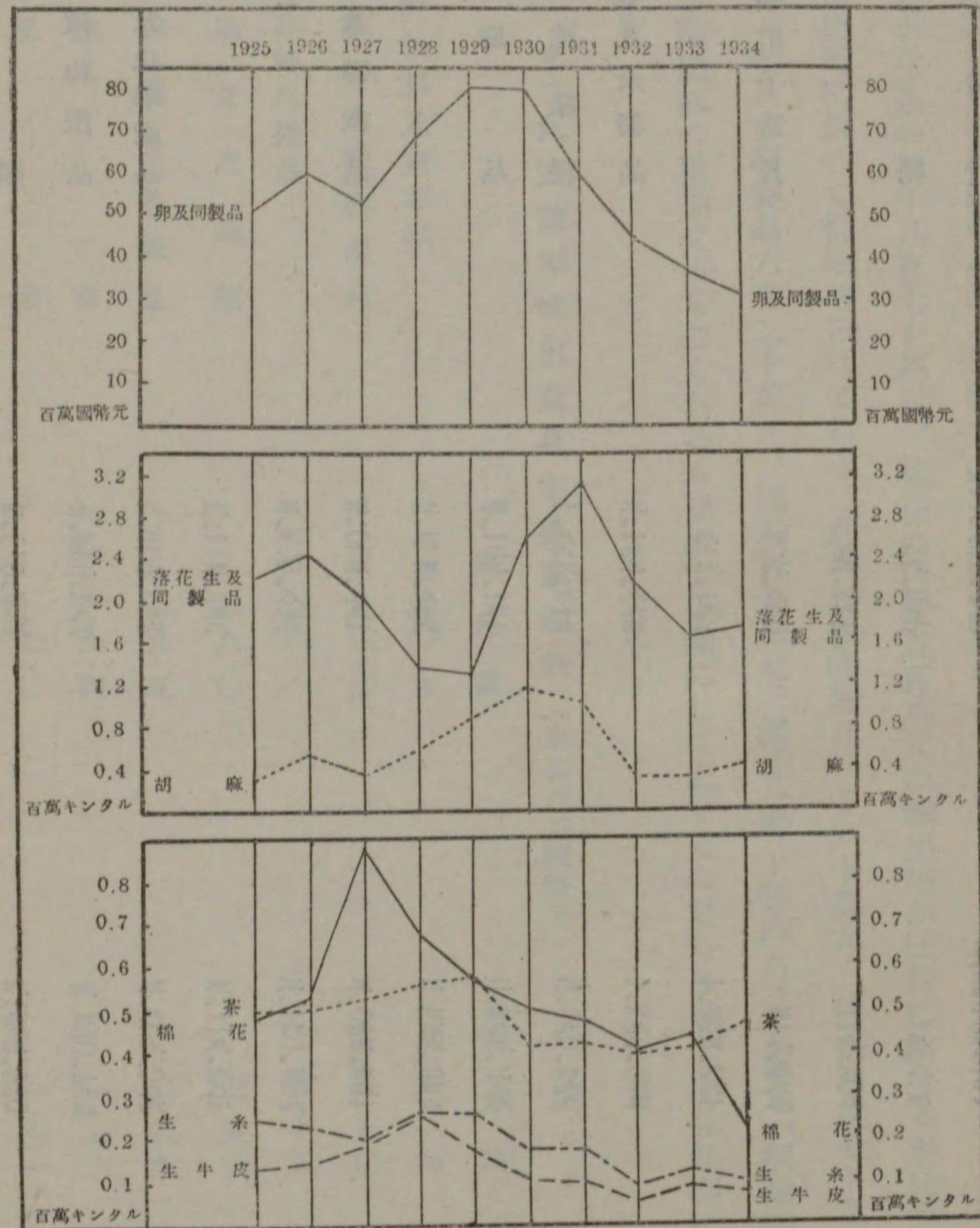
一九三四年輸出税の再引下が行はれ支那土産品海外進出の機會が與へられたが、油、種子、食料品等の輸出は特に有利となつた。然し一九三四年支那全國に亘れる大旱魃、銀の流出並に國內秩序紊亂等による農工業の復興難等の爲めに、之等の輸出が多大の制肘を蒙つたことは争へない。

▼最近二ヶ年間支那主要品別輸出品表 (單位國幣元)

動物及動物產品	一九三三年	一九三四年
紡織	七七,三〇六,六〇八	七七,八六六,五三五
織物	一一五,〇八一,七〇〇	七四,七六〇,九八六

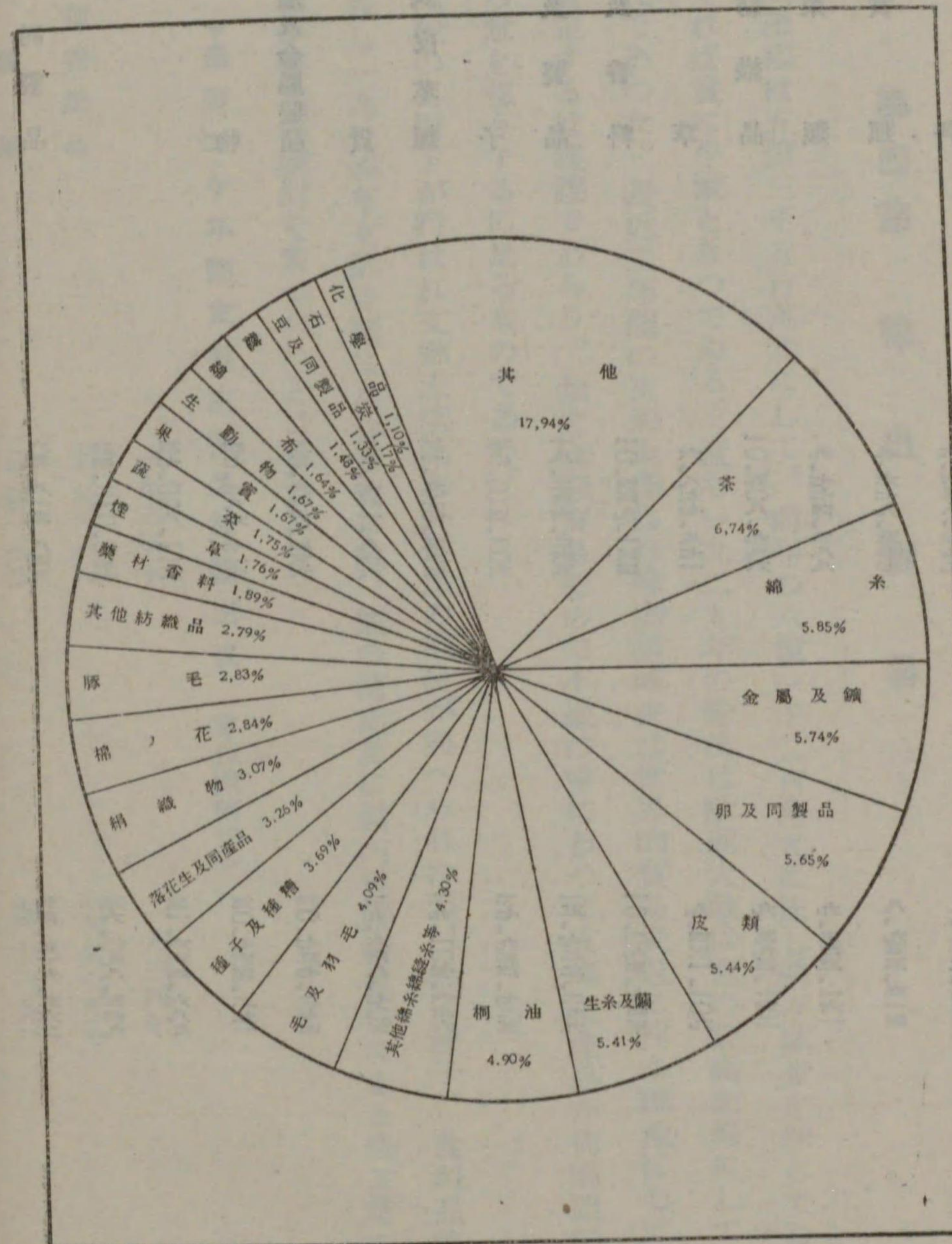


6. 重要品輸出高累年比較圖

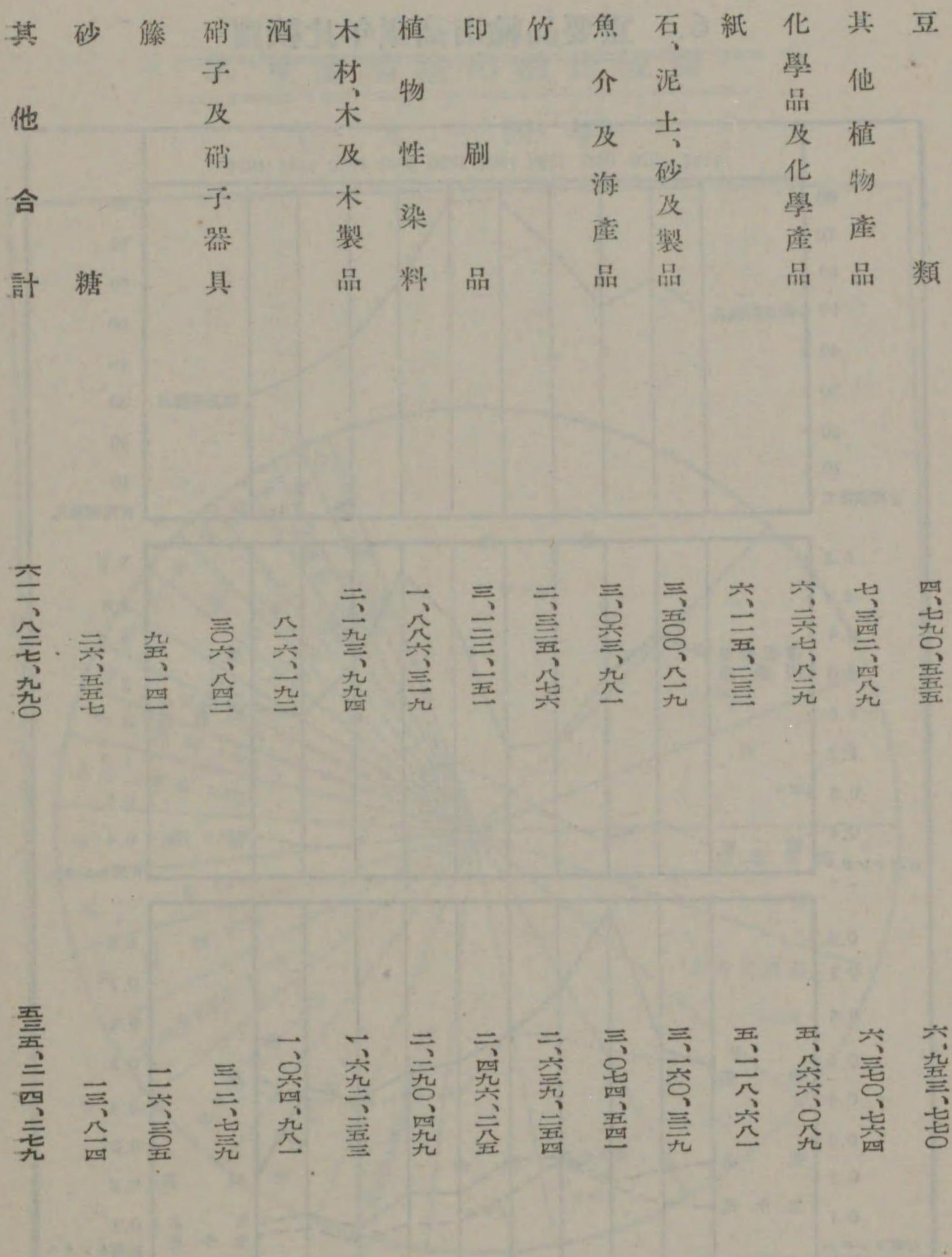


5. 重要品輸出額比較圖

(一九三四年)



第四章 對外貿易 (輸出貿易)



一九三四年上記輸出額は前年に比し國幣七千七百萬元の減少となつてゐるが、其中三千九百三十萬元は紡織纖維の衰退である。就中生糸の二千八百七十萬元、棉花の一千五百萬元の輸出減が注目するが此等は苧麻、大麻、山羊毛及廢棉等の輸出増に依つて補填せられてゐる。此の外織物類は一千八十萬元、綿糸八百七十萬元、落花生及び同製品六百五十萬元、卵及び卵製品六百二十萬元、錫六百十萬元、繻子、緞子類四百三十萬元、桐油四百萬元の減少となつてゐる。上表中輸出額の増加せるものもあるも極めて少額にして記するに足らない。商品類別による輸出額を示せば次の如くである。

▼一九三四年輸出貿易主要類別表 (單位百万國幣元)

類別	輸出額	百分比
一、食料飲料及煙草類	150.9	28.19
一、動物及動物産品	53.0	9.90
二、茶	36.1	6.75
三、果實及蔬菜	18.0	3.36
四、雜糧及其製品	15.5	2.89
五、煙草	9.4	1.76
六、豆類	7.0	1.31
第四章 對外貿易 (輸出貿易)		103

第四章 對外貿易(輸出貿易)

七、其他	一一・九	二・二二	一〇四
二、原料品類	一七六・四	三二・九六	
一、動物產品	五〇・八	九・四九	
二、生糸	二三・五	四・三九	
三、種子(落花生を除く)	一五・六	二・九一	
四、棉花	一五・二	二・八四	
五、毛	一四・四	二・六九	
六、落花生	一二・四	二・三二	
七、紡織纖維	一一・三	二・一一	
八、礦砂	九・九	一・八五	
九、藥材	八・七	一・六三	
十、其他	一四・六	二・七三	
三、半製品類	九九・六	一八・六一	
一、綿糸	三一・三	五・八五	
二、桐油	二六・二	四・九〇	

三、金屬	一八・七	三・四九
四、紡織纖維	一三・〇	二・四三
五、其他	一〇・四	一・九四
四、製造品類	一〇八・三	二〇・一四
一、紡織品	六〇・一	一一・二四
二、其他	四八・二	九・〇〇

生糸 一九三四年生糸の輸出額は僅に二千九百萬円にして前年に比較して實に五〇%の激減である。これを各種別に就て見るに白糸は二八%、黄糸三九%、屑糸亦一〇%を減少し、野蠶糸のみ四五%の輸出増加となつてゐる。最近三ヶ年間の生糸輸出額を示せば左の通りである。

▼最近三ヶ年 間支那生糸輸出表 (單位百担)

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
各種白糸	二八、〇二	三四、四六	三四、九三
各種黄糸	一一、三四	一一、三六	六、九三
野蠶糸(機械製及非機械製)	一五、七五	七、五三	一、九三
屑糸	二六、五八	六九、〇八	六二、四三

第四章 對外貿易(輸出貿易)

一九三四年生糸の輸出はその數量、金額共に、減退を呈せるも、就中金額の衰落が最も甚大である。糸廠同業工會の調査によれば、蘇浙産機械製白糸二等品の市價は二月、一擔六百六十元のもが八、九、十月と漸次慘落し、遂に同年の最低記録たる四百六十元に達した。歳末に至り市價の恢復を見たるも五百二十元乃至五百四十元に過ぎず、前年の一擔九百八十元乃至五百八十元の市價と比較して今昔の感に堪えない。又リヨンの生糸相場は上海機械特等撚糸十乃至十五條ものにして、一九三三年末には一疋七十五乃至七十八法を上下せしに、本年末は僅々六十法内外にすぎなかつた。支那生糸が斯くも低廉なるに拘らず變動常なき爲替相場の不安に脅かされ、輸出は極めて困難な状態の下に置かれてゐる。倫敦經濟週刊所載最近六ケ年間リヨン生糸相場は左の如くである。

▼最近六ケ年間 リヨン生糸相場 (一疋につき法)

	一九二九年		一九三〇年		一九三一年		一九三二年		一九三三年	
	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高
伊太利糸特等	二四〇	二五〇	一五〇	一五五	一五五	一五八	一五〇	一五五	一五〇	一五五
シリヤ糸二等	二四〇	二五〇	一三〇	一三二	一三二	一三六	一三〇	一三五	一三〇	一三五
上海機械糸特等	二九〇	三〇〇	一八〇	一八五	一八五	一九〇	一八〇	一九〇	一八〇	一九〇
上海四川糸特等	二四〇	二五〇	一四〇	一四二	一四二	一四五	一四〇	一四五	一四〇	一四五
上海野蠶糸	—	—	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五

日本機械糸特等	二八〇	二八五	一六〇	一七〇	一四〇	一四二	一四〇	一四二	一四〇	一四二
" 一等	二四五	二七〇	一五〇	一五〇	一三〇	一三二	一三〇	一三二	一三〇	一三二
廣東糸特等	二五〇	二六〇	一三〇	一三五	一一〇	一一五	一〇〇	一〇五	一〇〇	一〇五
" 一等	一八〇	一八五	一一〇	一一五	一〇〇	一〇五	七〇	七五	七〇	七五

右表によればリヨン相場は上海機械製糸が他種より高價なることが窺はれるが、一九三四年と一九二九年の價格を比較すれば實に五分ノ一以下の慘落である。本年度生糸市價の低落は奢侈品に屬する貿易の衰微及び人造絹糸の發展によるものであらう。従來生糸の用途は人造絹糸の代用を許さなかつたのであるが、漸次その地位は轉換せられんとしてゐる。斯くて生糸の市價は其前途頗る憂慮に堪えざる次第で、支那政府も茲に鑑み生糸の輸出地位を保持せんが爲め蠶糸工業の整理工作に着手し、低利資金の設定、品質の改良、經濟的獨立等必要なる施設對策を講じてゐる。現在世界市場に於ける生糸の滞貨は徐々減少の傾向を示してゐるが、此の機に乗じ其生産原價を輕減して現下の市況と一致せしむることを得るならば支那生糸の前途は決して悲觀するに當らぬであらう。

上述の生糸輸出表中白糸は佛國へ五千八百キントル、英國へ五千百キントル、佛領印度支那へ四千六百キントル、米國へ四千三百キントル、黄糸は印度へ三千八百キントル、佛國へ一千百キントル、屑糸は伊太利へ二萬百キントル、日本へ一萬六百キントル、英國へ九千四百キントル、佛國へ八千四百キントル、米國へ六千三百キントル輸出してゐる。

る。

棉花及綿糸 輸出紡績纖維中生糸及棉花は二大主要品であるが、一九三四年棉花輸出量は三三年の過半にも及ばず加ふるに金額に至つては一千五百萬元の減少である。一九三四年天津の輸出量十六萬二千キントル、揚子江流域より上海經由によるもの四萬七千キントルにして、支那産棉花の國內消費を除く殘餘は大部分日本へ輸出されるが、一九三四年は僅に十六萬七千キントルに過ぎない。

支那産綿糸は輸出品目中漸次重要品としての地位に進んでゐるが、一九三四年の輸出額は僅に二十七萬キントル金額三千一百三十萬元に過ぎず、三三年の三十二萬七千キントル、金額四千萬元に比べる時は量に於て七%金額に於て二二%の減少である。輸出綿糸は生綿糸に限られ朝鮮、日本、印度、香港及び蘭領印度の順に輸出してゐる。尙輸入綿糸は國産糸進出のため、激落を示し、一萬三千キントルに過ぎざる状態となつてゐる。

卵及同製品 一九三四年世界各国は本品に對して、輸入税率を増加せるのみならず、輸入制限法を實施し、支那産卵及び同製品に壓迫を加へたるため、輸出は相當減少を呈するに至つた。最近三ヶ年間卵及び同製品の輸出量並に國別輸出表を左に掲げる。

▼最近三ヶ年間卵及同製品輸出表 (單位百担)

	一九三二年		一九三三年		一九三四年	
	乾	卵	乾	卵	乾	卵
凍卵白	三六,四九四		三六,〇四三		三三,九四〇	
乾卵黃	三三,七九		三四,〇一三		三五,七四四	
凍卵黃	九二,六八二		八八,七三三		七九,〇四三	
乾卵	六,二七		四,〇四		二,九三三	
濕凍卵	三五,九七		二九,二五六		三六,三〇三	
鮮卵	三三,七七一,〇〇〇個		三九,一七七,〇〇〇個		四〇,九三三,〇〇〇個	
鹽漬其他加工卵	一四,〇七〇,〇〇〇個		一五,三三三,〇〇〇個		一四,六四二,〇〇〇個	

▼最近三ヶ年間卵及同製品輸出國別表 (單位國幣元)

	一九三二年		一九三三年		一九三四年	
	英 國	獨 逸	英 國	獨 逸	英 國	獨 逸
英 國	二四,七八一,六八		二二,九〇四,〇七		一八,四九六,三九三	
獨 逸	五,四三三,〇八五		三,五九九,〇七二		二,六〇三,六三三	
香 港	二,五七三,四二		二,〇七四,九一九		一,六九三,七五七	
米 國	三,六五五,五八二		一,四六六,一〇一		一,四七九,五三三	
和 蘭	一,七〇一,八一九		一,六五九,六八九		一,四三九,一五九	
白 耳 義	一,四五六,〇六八		一,三三八,二四七		一,〇八二,三六二	
第四章 對外貿易 (輸出貿易)					一〇九	

第四章 對外貿易 (輸出貿易)

佛 國	二,三三七,五七七	二,二二〇,三六六	八九九,二六六
日 本	四〇一,九六四	七五一,一五三	五八,八七三
伊 太 利	四三三,五二九	五三九,六三三	五〇〇,〇一一
比 律 賓	九二九,〇五七	四三三,九七二	二八,五五七
其他各國	八二四,九四〇	八三,四六三	七〇九,六五五
合 計	四,三六一,〇九〇	三六,四七九,七五三	三〇,四七,〇九二

右輸出數量表中一九三四年増加を見たるは三種目に過ぎず、卵類中最重要な濕凍卵は一六%増加せるも他の五種目は何れも減少し就中凍卵白は實に四〇%の激落である。一九三四年卵及び同製品輸出額は三千二十萬元、三三年に比し六百三十萬元即ち一七%の減少である。

次に國別輸出表中に於ては對英輸出最も多く、總額の六三%を占めてゐる。英國は未だ本品の輸入制限を實施せざる爲めで、冬季鮮卵の輸入額は僅に五%の減少を示すにすぎない。英國の家畜並に卵及び卵製品の産額は年々増加を示してゐるが尙自給自足の域に達せず、一九三四年外國よりの輸入額は五%増加し、植民地よりの移入は三%の減少である。倫敦に於ける卵品相場は支那内地の卵製品工場休業による供給過剰の爲に幾分の低落を示した。商品檢驗局は輸出品に對し嚴重な化學的細菌検査を施し不良品の驅逐に勉めたる結果、輸出卵は頗る品質を向上し世界の信用を博してゐる。

茶 一九三四年茶の輸出は一九二九年以來の最高記録を示し同年より二二%の増加であるが金額は僅に三千六百十萬元に過ぎず前年の三千四百二十萬元に對し五・五%の増加である。最近四ヶ年間茶の輸出量並に國別輸出表を掲ぐれば左の通りである。

▼最近四ヶ年間茶輸出表 (單位百担)

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
紅 茶	一〇三,一〇六	八八,九四五	九六,一五五	一四九,七三〇
綠 茶	一七七,五二二	一六六,一四〇	一七四,四八〇	一五二,七八九
磚 茶	一〇〇,七四四	一一八,〇一八	一一一,九七三	一一九,六三四
毛 茶	三三,三七六	三三,八七五	二二,八五九	四,〇六六
其他 茶	一一,〇〇八	八,二八五	三三,〇八二	三三,一七三
合 計	四二五,二二二	三九五,二六四	四九,五七八	四七〇,四二二

▼一九三四年支那茶國別輸出表 (單位百担)

蘇聯邦(極東)	一五五,七八	英 國	八〇,七一九	モ ロ ッ コ	六七,九三三
米 國	三三,八三三	香 港	三九,〇〇〇	アルゼリア	三三,三三八
佛 國	一四,八三五	和 蘭	一一,三二九	トリポリ	八,九二〇
印度及緬甸	八,五七	新 嘉 坡	四,八五一	獨 逸	四,〇八一

一九三四年紅茶の輸出總量は五二%の激増を示し綠茶は一三%減、其他茶は微増、紅綠、磚茶一六%の増加である。國別輸出に於ては英國、和蘭、蘇聯等増加著しく、前年に比較して英國は一二六%、蘇聯一一三%、和蘭二一八%の増加となつてゐる。此等は主として一九三三年四月印度、錫蘭、蘭領印度等に於ける茶業者が輸出制限協定を行へる結果にして、之が爲めに支那茶の英國、和蘭其他歐洲諸國への輸出が顯著な進出を遂げたものである。一九三四年英國の輸入せる茶の總額は五億七百六十萬封度に達し、支那茶はその中一千七百八萬封度、即ち三五%を占むるに過ぎぬ。目下倫敦に於ける各種茶の在貨は二億八千百萬封度と算定せられ、益々支那茶の對英輸出は増加を呈するに至つたが、これは單に他國茶が輸出制限協定を行へる結果のみでなく、價格の点に於て支那茶が漸次他國品と接近せるが爲めに外ならぬ。英國の支那茶需要は絶えざるもその價格割高のために従來輸入は極めて不振の状態にあつた。然るに他國の輸出制限による價格吊上げのため、英國に於ては支那茶の輸入増加を見るに至つたのであるが、この際支那は生産廉價を輕減して有力なる英國市場の維持擴張に努むべきである。

一九三四年支那茶の生産減と品質の低下、加ふるに年頭に於ける國內價格騰貴のため、印度、錫蘭、爪哇産の茶類と著しく價格接近し憂慮すべき状態にあつたが、第一次對英輸出後は價格も漸次低落するに至つた。尙總體的に一九三四年の茶の價格が前年に比し低廉であつたことは、輸出總額が五五%の増加なるに對し、輸出量は一二%増加せるを見ても明かであらう。

金屬及鑛 一九三四年金屬及び鑛の輸出は前掲主要品別輸出表の如く、三千七十萬元にして三三年の三千二百四十萬元に比し稍々遜色を示してゐる。鑛類は一般に減少してゐるが錫の六百萬元減少は特に注目に價する。之に反しアンチモニー、鐵鑛、タングステン鑛、鐵製品及び水銀等は僅に増加し、結局一九三四年度金屬及び鑛輸出額は三三年と大差なき状態である。一九三四年海外諸國に於ける精製アンチモニーの賣行は頗る旺盛にして、日英兩國がその中心となつてゐる。支那産アンチモニーは生産原價割高なる爲めに販賣價格も低廉ならず、賣行上の大障害となつてゐる。斯くては墨西哥、佛國、致須國其他アンチモニー産出國に伍し、支那のアンチモニーの獨占を維持することは至難にして生産原價の低減策を講ずることは刻下の急務である。鐵鑛の輸出は日本の需要増加の爲め四五%の激増を示してゐる。従來支那産鐵鑛の剩餘は殆んど全額日本へ輸出せられ、本年は蕪湖、漢口産が大部分を占めてゐる。マンガン鑛及び亞鉛鑛は本年の輸出激減せるも、前者は日本の需要中絶のため後者は湘州一帶産地が開掘し盡されたる爲めである。タングステンの輸出量は一五%の減少なるも價格は八二%の増加である。一九三四年四月湖南に於けるタングステンは一噸三百五十元の所、下半期は實に千二百九十元に騰貴し、その輸出量は一萬キントル、主として上海經由に依つてゐる。廣東に於けるタングステンは歲末一噸二千三百元の相場で輸出量は三萬七千キントル、省政府の專賣に屬してゐる。江西、廣東、湖南等はタングステン産出の主要地であるが、江西、廣東産は大部分南支各港より輸出し、湖南産は前述の如く上海より輸出してゐる。目下湖南産のタングステンは採掘量少く需要に應じ難き現状であ

之等タングステンは獨逸へ一萬五千キントル、米國へ一萬二千キントル、英佛兩國へ各々六千キントル、白身義へ五千キントル、瑞典へ一千キントルを輸出してゐる。錫鑛も順調なる貿易成績をあげてゐるが、これ實に雲南で新式の採鑛法及び鑄煉法を採用せると、世界の錫生産制限による結果である。然るに雲南地方に於ける流行病のため職工、鑛夫等著しく減少し、その輸出量は昨一九三三年に比し三分ノ一を減少してゐるが、價格は毎噸二百二十八磅十志内外にて前年と大差を見ず、錫鑛は主として香港經由再輸出の方法によるを以て、輸出國別を知悉するは困難である

▼最近三ヶ年間主要金屬及鑛輸出入表 (單位キントル)

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
アンチモニー	101,356	111,900	134,455
鐵 鑛	5,600,113 (中八百九十五キントルは滿洲よりの輸出)	5,931,753	8,755,656
マンガン 鑛	1107,000	95,757	8,701
タングステン 鑛	110,765	55,393	47,055
鉛 鑛	106,135	58,140	18,748
錫 (塊及錠)	110,410	96,111	64,424

皮類 一九三四年本品の輸出は數量に於ては相當の凋落を呈せるも、輸出額は二千九百十萬元にして前年の三千百九十萬元に比し僅に九%の減少である。各品種別に於ては輸出量の増加せるもの十一種、減少せるもの十九種、

輸出額の増加せるもの十三種、減少せるもの二十一種である。水牛皮及び牛皮の輸出額は前年の六百二十萬元に對し一九三四年は五百七十萬元に減少し、驢皮、馬皮及び騾皮等は前年と大差なく各々六十萬元内外である。皮革類中半製品は二千萬元、精製品は二百八十萬元を輸出してゐるが前年に比較すれば何れも減少である。

▼最近三ヶ年間主要皮類輸出入表

	單位	一九三二年	一九三三年	一九三四年
生 皮				
水牛皮	キントル	133,066	27,886	33,848
牛皮	"	100,411	57,429	51,635
皮 草				
犬 皮	枚	435,451	348,886	75,036
狐 皮	"	36,225	62,107	38,596
山 羊 皮	"	6,834,445	8,114,010	7,296,679
兔 皮	"	1,555,047	2,216,917	1,101,111
仔山羊皮	"	670,266	1,010,407	539,291
仔 羊 皮	"	1,191,870	1,874,040	1,516,533
鼯 鼠 皮	"	1,331,333	1,555,393	1,555,393

一九三四年米國の高級革靴類の需要減に伴ひ、皮革類の對米輸出は著しく凋落を示し、就中仔山羊皮、山羊皮等の滞貨は巨額に上つた。從來米國は高級革類のみならず一般皮革類に對しても重要な支那革の消費地となつてゐる。

桐油 本品の輸出は空前の記録であつた一九三三年と比較すれば幾分減少せるも、一九三一年及び三二二年に比すれば頗る好況を示してゐる。四川省は近年旱魃に災せられ減少の兆あるも、湖南省南部の植桐事業は省政府の奨励と相俟つて顯著な進出を遂げてゐる。該省産出の桐油は海關の所管に屬せざる民船に依り移出せらるゝを以て、海關の桐油を以て統計産油額の全貌と斷することは出来ない。海關統計所載長沙の桐油輸出量は一九三四年二萬八千キントルにして前年の八千キントルに比較すれば優に二萬キントルの激増である。岳州の輸出量は前年の二十一萬キントルから十三萬三千キントルに減少してゐる。

四川、湖南、湖北、貴州等各省産出桐油の集散地漢口に於ける桐油の市價は、一九三四年一月二十四元、九月には三十三元に騰貴、歳末には三十元内外となつてゐる。右の價格騰貴は桐油市場に相當の影響を與へたが、太平洋航路並にスエズ運河經由による歐洲航路の運賃値下により、辛うじてその打撃を僅少に止むるを得た。浙江、安徽兩省産出の桐油は漢口に比し最初は價格低廉なりしも歳末には毎キントル三十三元を稱へるに至つた。廣西省産出の油は桂州より香港に送られ更に再輸出の経路が取られてゐるが、一九三四年輸出量は、八萬四千キントルにして三三三三より三一%の増加である。廣西省政府は一九三四年春梧州に煉油工場設立を企て、既に著手せるを以て三五年春にはそ

の活動が開始せらるゝであらう。香港市價も上海と大差なく年頭には漢口より下廻る状態であつたが、漸次騰貴し遂に漢口市價を上廻るに至つた。桐油の主要輸出國は實に二十五ヶ國に達し、主なるものを掲げると次の如くである。

▼最近五ヶ年間桐油國別輸出表 (單位キントル)

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
米 國	五八、五九〇	三三、三三三	二九、八五〇	五三、六七一	四〇、三九〇
香 港	三三、五三三	一五〇、五四九	四九、八二六	六七、八二八	八六、五四五
佛 國	一八、六五五	九、六五〇	一〇、四九〇	二二、四五三	三、八四九
英 國	五六、九九九	六〇、二五六	五二、〇三三	四五、八八一	三、三〇九
和 蘭	三三、三六一	二七、四六六	三五、八三〇	四一、一四〇	三、〇六一
獨 逸	二、八二五	一六、六五八	一一、六九四	一四、一七五	三三、四四五
其他各國	二四、一四一	二六、〇九九	二五、七五七	三〇、七四三	五九、一八七
合 計	七〇、九四四	三三三、〇六一	四八五、四〇六	七四四、〇八一	六五二、八八六
金 額	四七、五九二、〇七元	三二、八〇八、二七元	三三、一六一、三三三元	三〇、二六一、三九九元	二六、三二六、六八三元

落花生及同製品 年初落花生市の市價は一擔僅に三元九角にて、前年の四元八角五分或は一九二四年乃至一九三一年の一擔十元と比較し誠に憂ふべき状態であつたが、政府は此の落花生貿易の危機に對し再輸出税の免除、輸出税の輕

減或は検査費、碼頭税及び運賃の引下等に努めたる結果、漸く活況を示し、歳末には青島産にて一擔七元六角二分となり前年より稍々好況を呈するに至つた。倫敦市價は年頭一鎊に付十七磅十志のものが、年末には二十五磅に迄騰貴し、一九三四年落花生貿易は歳末に近づくに従ひ好調を示した。

一九三四年落花生の輸出總額は一千七百四十萬元にして、三三年の二千三百九十萬元に比し二七%激落してゐるが價格の騰貴と輸出貨量の増加とは、本品貿易の將來に對し少なからぬ好影響を與へてゐる。然し乍ら一九三一年輸出額合計(落花生及同製品)六千四百六十萬元と比較すれば、一九三四年には僅に一千七百四十萬元であつて、この際國民政府の救済法宜しきを得て頽勢を挽回すべきは刻下の急務である。尙運賃輕減の手段として輸出貨花生は大部分脱穀の上輸送せられてゐるが、穀付落花生の減少はこゝに起因するものである。

▼最近二ケ年間に落花生及同製品輸出品表

	一九三三年		一九三四年	
	數量	金額	數量	金額
穀付落花生	四四一、四三〇キントナル	四、八二六、三〇〇國幣元	三六二、四三〇キントナル	二、九七五、五六六國幣元
脱穀落花生	八九一、一七三	一一、六六一、三三七	一、〇一一、三三六	九、三六四、〇〇七
落花生油	一八四、七七一	五、五八一、〇一五	一九四、七〇六	四、一五〇、六三四
落花生粕	一三六、九五三	八〇七、五〇〇	一八八、七三三	六三三、七七七

種子 種子類は昨一九三三年が三二二年に比較し量に於て五六%、價格に於て三〇%増加せるに拘らず、尙一九三四年は三二二年に比較し數量に於て二六%と金額に於て五%を増加してゐる。斯くて種子の本年總輸出額は一千五百六十萬元にして前年の一千四百五十萬元に比し八%の増加となつてゐるが、最近三ケ年間の主要種子類輸出品表を示せば次の如くである。

▼最近三ケ年間に主要種子類輸出品表 (單位キントナル)

	一九三二年		一九三三年		一九三四年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
杏仁	二九、八九〇	四、三七一	四三、七一一	二、七六七	二七、六二七	二、七六七
草麻子	三、三九五	八四四	八四四	二、二二八	二、二二八	二、二二八
棉實	三、五五五	六〇四、三三四	六〇四、三三四	四、〇一六	四、〇一六	四、〇一六
麻子	五、四七七	一、一五七	一、一五七	一	一	一
蓮子	三、一五八	二、八三九	二、八三九	三、四〇九	三、四〇九	三、四〇九
胡麻子	三三、二八二	一、八、五三四	一、八、五三四	二、八七六、四九九	二、八七六、四九九	二、八七六、四九九
瓜子	一〇、六三三	一、四、九四四	一、四、九四四	一八、八四二	一八、八四二	一八、八四二
蘇子	二	七六	七六	七	七	七
菜種	一一九、〇三三	一、六五、四七七	一、六五、四七七	四、四七七、七七七	四、四七七、七七七	四、四七七、七七七

第四章 對外貿易 (輸出貿易)

1110

胡麻(脱殻を含まず)	275,599	334,577	435,115
其他種子	147,501	111,560	111,501
合計	423,100	446,137	546,616

一九三四年胡麻の輸出量は著しく増加し、一九三〇年の五千七百キントルと比し誠に今昔の感に堪えない。菜種は約三倍の増加にして大部分日本へ輸出してゐるが、主産地たる蕪湖一帯は天候に恵まれ二十萬キントルを産出してゐる。之に反し従來旺盛なりし麻子と蘇子とは、一九三二年在滿各港輸出量を含めて二十萬キントル内外なりしを、一九三四年は一落千丈の慘狀を示してゐる。又芝麻の輸出は特に増加し對外輸出も二十四ヶ國有余に達し、米國は其四割を輸入し第一位に位す。本品の上半期間の貿易状態は稍々不況であつたが、米國に於ける穀類、棉花、養豚等の生産制限の實施並に大旱魃の結果豚油、棉子油の暴騰となり、歐洲市場に於ては實に一倍半乃至二倍の奔騰となつた。斯くして米國其他各國の支那油及種子類に對する需要愈々旺盛となり、一九三四年度にはたゞ騰貴の一途を辿るのみであつた。棉實は國內棉實油製造工場の原料として使用さるゝに至つた爲め其輸出量を減じてゐる。本年の棉實油の輸出量は前年に比較し二四〇%を増加せるも尙需要に應じ難き盛況を示してゐる。油質は埃及産及び米國産と比較し稍々遜色を有するも歳末には四割の價格騰貴を來してゐる。

豚毛

一九三四年豚毛の輸出量は左表の如くであるが、殆んど大部分が上海を集散地とし、輸出量の増加價格

の強調等と相俟つて本品の貿易状態は頗る活況を呈してゐる。即ち上海に於ける市價重慶産一擔に付二百九十元乃至二百三十元にして、前年の二百元乃至二百九十元と比較し其好調の程が知られる。漢口に於ける市價は上海に比較し稍々上鞞で北支の豚毛輸出商は何れも前年に比し巨利を博してゐる。豚毛輸出の重要な米國、英國にして、前者は一萬三千キントル、後者は一萬二千キントルを輸入してゐる。

最近五ヶ年間豚毛輸出國別表 (單位キントル)

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
米國	11,657	15,041	11,431	15,591	13,140
英國	11,554	10,116	10,977	10,151	11,036
日本	5,829	3,611	4,031	4,306	4,808
獨逸	1,593	2,336	3,696	4,492	4,756
佛國	3,171	2,235	2,850	2,766	3,000
其他各國	3,177	4,031	3,355	3,973	4,166
合計金額	45,000,434元	45,104,108元	41,006,610元	42,677,863元	45,138,051元

毛類 一九三三年末の世界各國に於ける毛類の在貨拂底し投機的買占が行はれたるため、一九三四年初頭には倫敦市場に於て暴騰を來したが、其後漸次平靜となり同年末には一九三三年と大差なきに至つた。一九三四年支那の

緞通用羊毛の輸出は極少量にして濠洲、新西蘭、アルゼンチン及び南阿弗利加の産毛に對して些の影響も見ざりしが、
 緬羊毛一千二百三十萬元、駱駝毛一百四十萬元、山羊毛七十萬元等の輸出は世界の市場に多大の影響を及ぼしてゐる。
 緬羊毛及び駱駝毛は輸出量を増加せるも駱駝毛は輸出額の減少となつてゐる。一九三四年北支市場は概して不況で上海市場に於ては年頭に四川産毛が僅に好調を示せるのみで海外の需要亦稀少であつた。尙緬羊毛の對米輸出は十三萬二千キントル、駱駝毛の對英輸出七千六百キントル、山羊毛對日輸出三千七百キントル等は主要なるものであるが、各國輸出數量表を示せば左の如くである。

▼最近五ヶ年 間 毛 類 輸 出 數 量 表 (單位キントル)

毛 類	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
	緬 羊 毛	二八、七七一	一四、一五五	二〇、六九二	一三六、二二六
駱 駝 毛	三、七三三	二、六八七	九、九三八	九、二四二	九、八七七
山 羊 毛	七、五七七	三、三五四	六、二五八	九、五五〇	四、六一四

第五章 交通運輸

第一節 航 運 業

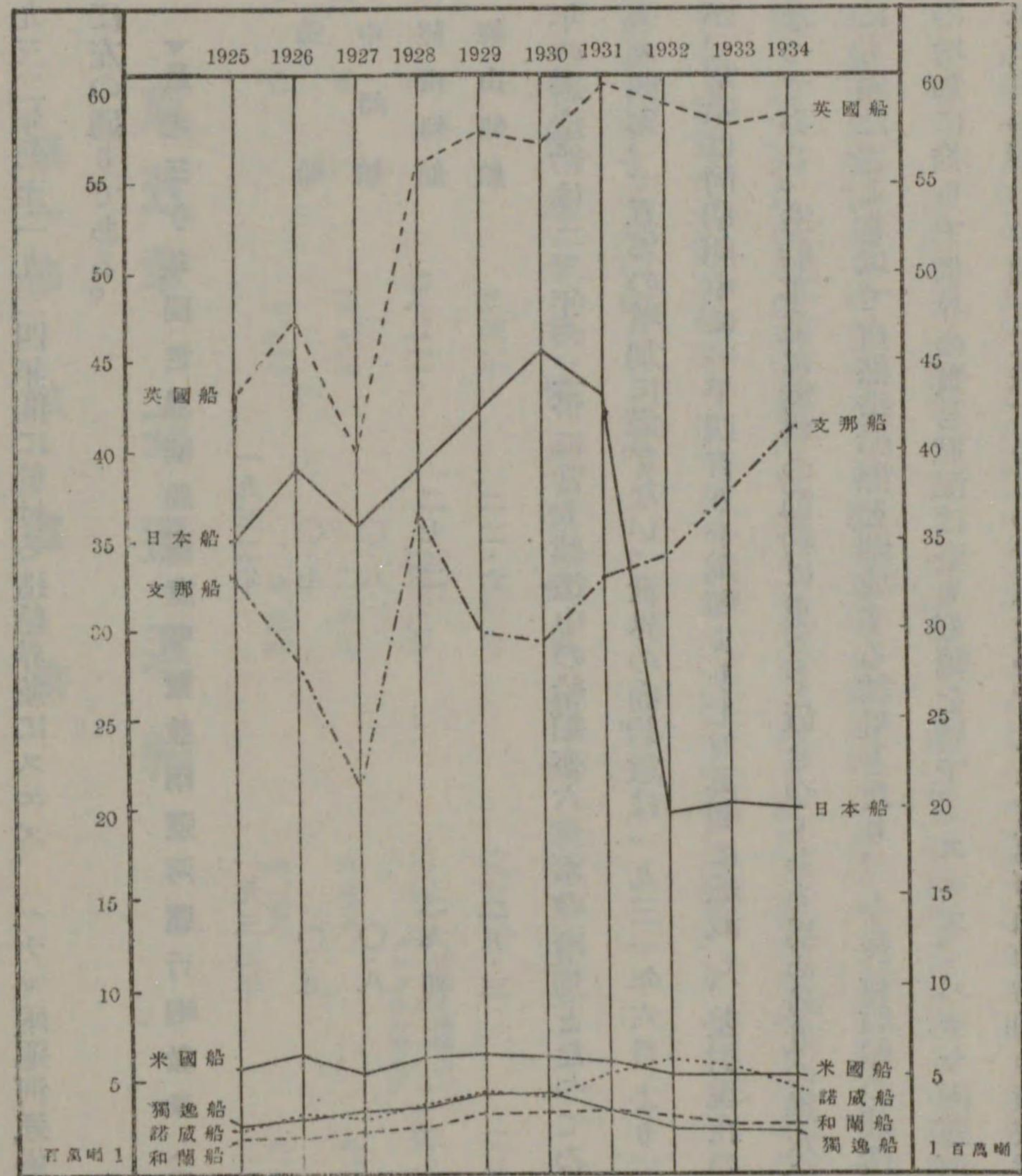
船 舶 一九三二年乃至一九三四年間に於ける造船界並にスエズ、パナマ兩運河通過船舶に關する英國商務省公報の統計を示せば左の通りである。

▼最近三ヶ年間 世界商船建造噸數並兩運河運行噸數表 (單位百萬噸)

新 造 船 舶	一九三二年		一九三三年		一九三四年	
	建造	噸數	建造	噸數	建造	噸數
新 造 船 舶	〇・七	〇・五	〇・八	一・〇	一・〇	一・〇
建 造 中 船 舶	〇・八	〇・八	二九・四	三〇・六	三〇・六	三〇・六
スエズ經由船舶	二七・二	二九・四	二九・四	三〇・六	三〇・六	三〇・六
パナマ經由船舶	二二・六	二五・三	二五・三	二九・〇	二九・〇	二九・〇

即ち一九三四年の新造船は三三年の二倍に當り建造中の船舶亦六三%の増加となつてゐるが、スエズ及びパナマ兩運河通過船舶は夫々四%、一五%の増加に過ぎない。世界の商船數は一九三二年六月より三四年六月の間に四百四十萬噸を減じてゐるが、繋船は同期間に一千四百五十萬噸より七百萬噸に縮減し、差引現在の就航船舶は従前に比し約三百萬噸の増加となつてゐる。造船事業は燃料の節約に重きを置きつゝある爲め最近の進水船は七、八年以前に比し其燃料消費量は半分にも満たざるを以て自然造船熱を助成する結果となり、今後新船舶の建造は愈々旺盛となるであらう。上述の如く船舶の増加に拘らず世界の貿易狀況は豪も好轉を見ず、スエズ、パナマ兩運河通過船舶の増加は海運競争による結果で、決して積荷の増加を意味するものではない。スエズ運河通過船舶の積載貨物は海峽植民地が最も多く

7. 各國出入船舶噸數比較圖



總數の三六%強を占め、日本一八%、支那二八%の増加である。印度の貿易状況は年頭より九月迄引續き増加せるも他のスエズ以東の各國貿易統計は不明である。

一九三四年支那各港出入商船噸數は各計一億四千五十萬噸にして前年に比し二%即ち三百十萬噸の増加である。船籍別に就て見るに英國は第一位にして五千八百九十萬噸、第二位は支那の四千二百二十萬噸、第三位は日本の二千十萬噸、第四位は米國の五百四十萬噸、第五位は諾威の四百五十萬噸其他各國一千四十萬噸となつてゐる。此等船舶中外洋航路就航船は四千四百九十萬噸、支那各港間就航船は内水航路を除外して九千五百六十萬噸である。尙出入船舶より見たる貿易港の地位は上港、廣東、汕頭、青島、九龍及び天津である。

▼一九三四年日、支、英商船出入船舶百分比

船籍	外國航路	國內航路	計
英國	三八・八七%	四三・三三%	四一・九一%
支那	一五・一六%	三五・九四%	二九・二九%
日本	一九・一四%	一一・〇八%	一四・三四%

運賃

海運協會の定むるスエズ經由歐洲向貨物運賃は前年と大差なく、一噸につき雜貨九十志、牛皮七十七志、豚毛百三十二志、棉花六十六志、屑棉四十二志、葉煙草六十六志、綿織レース百十四志又は従價二五%である。運賃の低落せるものは葉煙草(樽詰)九十志より八十志に、大麻九十志より六十志に、胡麻四十八志より四十四志、銅器百二

志より八十五志に、苧麻六十六志より五十五志等である。茶の運賃は變動著しく、年初は一噸七十八志のものが歳末には六十五志に下落し、油類は前年と大差がない。桐油は七月一日九十志より三十五志に低下せるも十月一日には八十志に復し、落花生は三月より従來の三十三志より二十八志となつたが、十月よりは殆んど定率なく一高一低の状態となつた。豆類は五月三十六志より三十一志に下落したが、十月には再び三十六志となつてゐる。生糸の運賃は國幣建であつたが六月以降磅建となつた。尙注目すべき傾向は日本の生糸輸出運賃が頗る低廉なるために、歐洲向の支那生糸は大部分日本經由のコースを取るに至つた事である。

支那と太平洋沿岸諸港との運賃は變動少く、従つて支那の輸出商品も大略一九三三年と同様である。即ち輸出運賃は每件（特別品以外は四十立方呎）雜貨米貨十五弗五十仙、銅器、錫器及棉花十弗二十五仙、屑棉三弗五仙、頭髮十五弗二十五仙、屑髮十一弗、レース及びリネル製品十五弗五十仙、佻裝皮革類八弗、箱詰皮革十二弗、茶葉四弗、袋詰五倍子二千封度につき十二弗、散荷棉實油二千封度につき四弗、バラ積落花生油二千封度につき四弗、殼付落花生二千封度につき五弗、袋詰脫殼落花生二千封度につき三弗五十仙、胡麻は年中變動を續けたが、十二月二千封度につき三弗五十仙と決定、散荷桐油は最初二千封度につき六弗の決定を見たるも、八月にはこれを撤回するに至つた。

第二節 鐵道・道路及航空

鐵道 支那政府は經濟的發展、國礎の確立等のため各種施設に極力努力を續けてゐるが、就中交通事業に對しては特に意を用ひてゐる。國內鐵道に就て見るに粵漢鐵道（廣東漢口）は工事頗る進捗し、一九三六年には全通が期待せられてゐる。隴海鐵道延長計畫も着々工事の進行を見、西部に於ては西安迄試運轉が行はれ、東部の連雲港も工事中にして、聽て水陸連絡の日が實現するであらう。尙本鐵道の支線として臺兒莊より趙莊への一線が建設中である。杭江鐵道（江西江州）の杭州玉山間は既に前年開通し、玉山萍鄉間も本年着工せるを以て竣工の曉には南昌、萍鄉を經由し更に株萍路（株州萍鄉）を経て粵漢鐵道との連絡が可能となり、之等沿線の産業に多大の便益を齎すであらう。尙本線は將來南昌にて南潯鐵道と連絡し九江及び上海との通運が可能となる豫定である。燕乍鐵道は江南鐵道公司の經營にかゝり、幹線は南京より蕪湖、孫家埠（安徽）、江山（浙江）及び延平（福建）を経て詔安に達する所謂京詔鐵道にして將來は廣東迄延長されることとなつてゐる。該線の中蕪湖、孫家埠間は既に竣工し、南京蕪湖間も近々工事完了の見込である

上海蕪湖間は曩に國道を通じ更に數ヶ月後に鐵道の開通が豫定せられ、愈々通運の利便が加へられる。淮南鐵道は目下工事進行中であるが、本線は安徽省懷遠を起點とし合肥、淮南及び大通鑛區を経て、蕪湖對岸の裕溪口に至るものである。津浦鐵道の正蚌支線（正陽關蚌埠）は目下修築中、同浦鐵道（山西大同蒲州）亦建設中である。滬杭甬鐵道の曹娥間口間は既に設計を終へたるも、曹娥江及び錢塘江の二橋は難工事にして巨額の工費を要するものと見られてゐる。二橋中後者は既に一九三四年十一月着工し近く堂々たる勇姿に接するであらう。

一九三四年支那に於ける鐵道の建設工事は一射千里の勢を示し、鐵道財政も愈々強固たるものあり、支那鐵道債券は世界市場に於て重要視され市價も強調を維持してゐる。最近二ケ年間の輸入車輛及び材料數を示せば次の通りである

▼最近二ケ年間の鐵道車輛及材料輸入表

	一九三三年		一九三四年	
	數量	價格(國幣元)	數量	價格(國幣元)
交叉及轉撤機	一、八二二	101,810	10,338	571,377
レ	170,057	3,787,998	1,155,065	13,996,033
機關車及炭水・車	—	2,501,800	—	977,873
客車及貨車	—	1,750,500	—	1,842,229
其他鐵道材料	—	1,644,411	—	2,244,065
枕	—	4,640,768	—	5,637,898
計	一、五三三、一七六	14,352,885	二、五二一、二五五	25,849,663

道路 支那全國の道路修築工事は前項鐵道に比し尙一層顯著な發展を示してゐる。全國經濟委員會の道路統計によれば江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、湖南、河南、福建の八省中、通車可能道路の總延長キロ數は實に二萬六千四百四十七軒に達してゐる。全國的統計は材料不備のため困難であるが、右八省中福建省を除ける總延長キロ數は實

に前年の二倍に達し一萬二千八百四十九軒を増加してゐる。その中鋪裝路は一萬二千二百六十二軒、鋪裝せざるもの一萬四千八百八十五軒にして、一九三四年末現在に於て建設中のもの尙五千六百二十二軒を算してゐる。各地道路の建設狀況は本書各貿易港の項に記載せるを以て、茲にはその著名なるもの二三の概況を示す。漢宜道路(漢口)は既に一九三四年完成を告げ、自動車ならば優に十三時間程度にて兩都を繋ぐ事が出来、揚子江を遡航すれば少くとも四、五日間を要するものである。尙上海より自動車にて常德、沙市を経て宜昌に直行することも可能であり、更に將來宜昌(湖南南部)・小塘間道路の完成を見れば、上海より長沙を経て廣東に到達することも可能となるであらう。更に國內僻地に至る所て道路の建設が行はれ、その成績見るべきものがある。最近二年間の道路材料輸入表を示せば次の通りであるがこれ以外にガソリン、石切機其他の重要材料の存在を忘れてはならぬ。

▼最近二ケ年間の道路材料輸入表

	一九三三年		一九三四年	
	數量	價格(國幣元)	數量	價格(國幣元)
モータートラック	二	143,749	五	3,283
モーターツレライ	四	34,763	八	13,670
一噸積以上トラック	三六七	860,770	二七〇	454,873
同トラック車臺	一、六二四	3,688,330	三,三九三	6,686,333
第五章 交通運輸 (鐵道・道路及航空)				一一九

61

第五章 交通運輸 (鐵道・道路及航空)

一噸積以下トラック	一九	二四、〇三三	三五	五八、四七九
同 トラック車臺	三三	三九、六七四	四	三、四七九
長距離用バス	一六	一〇六、六六六	二八	九二、四七一
同 バス車臺	三三	一九三、〇三二	六八	三三二、六三三
其他自動車	二、六〇〇	六、四四六、五九一	三、三三四	六、九〇〇、三三八
同 車臺	一九	一三六、二六〇	二七七	四、八七六
自動自轉車	一五五	九三、〇七五	一六三	一〇三、七九一
其他モーターカー	—	八七、三〇九	—	二一、一八六
自動自轉車 部分品及附屬品(タイヤを除く)	—	一六、六三三	—	三三、〇五六
自動自轉車 (其他部分品)	—	一、六〇二、一七九	—	一、六八八、〇五二
電車及貨車	—	—	—	四〇、八九四
電車道用材料	—	—	—	二二四、三六
自轉車	一〇、三三七	二七二、八八八	一九、八四五	四三二、〇三三
同 部分品及附屬品	—	三、六二二、八五〇	—	三、五七七、〇九八
其他車輛及部分品	—	一〇〇、一七七	—	二八、四四四

自動車及トラック硬質タイヤ	九九五	七、七八四	一、一三三	五三、九〇一
自轉車及人力車硬質タイヤ	八七五	六七、五〇八	三三三	六二、八二七
自動車及トラック用 空気タイヤ	六二、二七四	二、九八、七七五	七三、一〇五	二、九一〇、一〇〇
自轉車及人力車用 空気タイヤ	一、〇五、三三五	二、一三〇、三六六	九八、四七七	一、五三三、八八七
自動車用及トラック用 車輪チニューーブ	六、四四五	三九六、五五五	六、七五六	三〇三、五二九
自轉車及人力車用 車輪チニューーブ	一、二五二、六〇七	四七七、九五	八九、六六七	五二、一三三
合計		三三、七七八、四七		二六、五八三、八四

航空 支那の航空事業は積極的建設の途上にあるが、中國航空公司の成立以後特に進境の著しきものがある。

中國航空公司は交通部管轄の下に一九二九年組織、同年十月廿日事業を開始せるもので、上海漢口間處女飛行はロ
ーニング機により上海龍華飛行場を出發、途中南京、安慶、九江等の着陸場を経て、航程五百十六哩の飛行が完成せ
られ、かくして揚子江下流の商業中心地は相互連絡せらるゝに至つた。一九三二年四月一日上海・漢口線は、世界三
峽の起點として有名な宜昌迄延長を見、次いで十月二十一日には宜昌より重慶迄延長、全航程一千六百哩揚子江全流
域に匹敵する長距離である。

漢口・重慶線開通後中航公司是華北地方の開発に従事し、一九三三年一月十日上海北平間の正式航空を見るに至
つたが、其途中着陸場は海州、青島、天津等である。同年十月二十四日上海廣東間も正式就航を始め温州、福州、

厦門、汕頭等を着陸場とし、全航路約一千餘哩、長江、珠江二大流域の各都市は勿論約一億に垂んとする住民が多大の便宜を蒙つてゐる。又同年十一月十一日には重慶成都間の航空路が開拓せられて上海四川間の連絡容易となり、蜀棧の難路も天空一過と化するに至つた。

上海・重慶線はローニング式水陸兼用機を使用し乗務員二名、旅客四名、時速九十哩を以て一週三往復をなしてゐる。

上海・北平線及び重慶・成都線にはスチンソン式陸上機を使用、乗務員二人、旅客四人、時速百十哩にして上海北平間は毎週三往復、重慶成都間は四往復である。

上海・廣東線はダグラス式水陸兼用機を使用、其性能は乗務員二人、乗客六人、時速百五十哩である。尙中國航空公司六ヶ年間の營業概況は左の如くである。

▼中國航空公司六ヶ年間營業成績表

年	飛行哩數	乗客飛行哩數	乗客人數	遞送疋數
一九二九年	五七、八三三	六六、四二一	三五四	三、九三三
一九三〇年	三三〇、〇九二	六六、七三六	二、六五四	一七、八九三

一九三一年	四四五、〇〇元	六〇、九六一	二、二九六	三四、四三八
一九三二年	四三三、一四三	六四、〇七六	三、一五三	九〇、八五一
一九三三年	六三六、九〇〇	九〇、八七三	三、〇九〇	四九、二四六
一九三四年	八三三、四一六	一、四六九、二六六	四、五七〇	五八、〇五三

支那航空事業の發達に伴ひ中國航空公司の事業も隆盛に赴きつゝあるが、該公司は需要に適應せんがため新にフェルチャイルド水陸兼用機四臺の注文を發してゐる。本機は速度毎時百六十哩、定員八名、一九三五年には上海・漢口重慶線に就航の豫定であるが、同機によつて所要時間は一層短縮せられるであらう。これと同時に上海・北平線に使用の爲めダグラス式大型機の注文が加へられてゐるが、同機は定員十四名、時速二百哩の優秀機である。更に將來重慶・雲南府間の開拓に備へて最新型三發動機装置フォード一機が注文せられてゐるが、同機による重慶・雲南府間開航の暁には僅に三時間半にて到達することが可能となり、陸路の所要日數三、四週間と比較して思半ばにすぎることがある。

歐亞航空公司も近年營業頗る發展を見るに至つたが、開業以來の業態を示せば次の如くである。本公司開發に係る上海・新疆線の正式就航は一九三三年五月にして南京、洛陽、西安、蘭州、哈密、迪化等を経由、塔城に達するものであるが、同年九月新疆に於ける政變のために蘭州にて打切の状態となつてゐる。又一九三四年五月北平・廣東線の就

航を始め太原、洛陽、漢口及び長沙等を着陸場としてゐる。同年北平・洛陽線は中止したが北平・廣東線、上海・新彊線就航機は何れも洛陽に着陸し、兩線乗客の乗換が行はれてゐる。然るに洛陽は稍々偏僻に過ぐる爲め、將來前記兩線の連絡地點を鄭州に移轉せんとする機運がある。尙蘭州・寧夏線は一九三四年六月十五日に飛行を開始した。

一九三四年歐亞航空会社の就航延長キロ數は四十八萬六千九百二籽、旅客一千七十四人、貨物四萬三千九百十二籽、郵便物四千七百七十籽である。

上述二公司の外一九三四年西南航路公司是次の二線即ち(一)廣東より梧州、南寧を経て龍州に至る一線、(二)廣東より茂名、瓊州を経て北海に至る一線を開始した。

第六章 金 融

第一節 金 及 銀

金の移動 一九三〇年五月公布の金輸出禁止令は尙繼續中であるが、國民政府承認の下に輸出されたる金は次表の如く五千一百六十萬元に達し、一九三三年に比し二六%減少、更に三二年に比する時は實に五〇%強を減少し、大部分金塊として倫敦に輸送されたものである。

▼最近十ヶ年間金銀並貨物輸出入差額表 (單位千國幣元)

年	金		銀		貨物			
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出		
一九二五年	二,八七五	四,四九二	一,六二七	二五,二七六	△ 九七,四二二	一,四七六,七七七	一,二〇九,五五八	二六七,二二六
二六年	二,五〇四	一四,三三一	一,一八七	三三,七四一	△ 八二,八九二	一,七五一,五三六	一,三四六,五七二	四〇四,六四四
二七年	三,三三六	五,五〇〇	二,〇三四	二七,五八三	△ 二六,一八二	一,〇一四,一〇一	一,五七六,一四八	一,四三一,三二〇
二八年	九,六八一	四,三三二	△ 九,四四〇	一七,三六九	△ 八,〇〇六	△ 一六五,七三三	一,八三三,三〇〇	一,五四四,五三三
二九年	一,五八六	四,六七七	三,〇七一	一八,九一八	△ 二四,三二二	△ 一六四,八七七	一,九七二,〇八四	一,五八二,四四〇
三〇年	四,〇二二	二九,七七三	二五,七六一	一五,九七八	△ 一〇四,五五五	二,〇四〇,六〇〇	一,三九四,一六七	六四六,四三三
三一年	一六	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇七	一八,三三三	△ 七〇,八〇三	二,二三三,三七七	一,四一六,六四四	八六,四二二
三二年	二五二	一〇,五八二	一〇,三三三	九六,五三九	一〇六,九四四	一,〇三三,五〇一	一,六三四,七七七	六七,五五五
三三年	二六八	六九,六三三	六九,三六七	八〇,四三三	九四,八五五	一四,四三三	一,三四三,五七七	六二,八二八
三四年	一一	五,五七九	五,五八八	一〇,八三〇	二六七,五五八	二五六,七七八	一,〇三九,六六五	五五五,二二四
								四九四,四五一

銀の移動 一九三四年の銀輸出品の激増は注目値するが、總説中に示せる如く銀價騰貴に基く現象に外ならぬ。同年銀の出超額は二億五千六百七十萬元に達し、過去の最高記録たる一九〇七年の四千八百六十萬元の出超も遂に及

ばざる程である。國幣一元の純銀含有量は二三・四九三四四八瓦、或は〇・七五五三三三オンスなるを以て本年出超の銀の總重量は(銀條、銀塊、國幣、香港)約一億九千三百九十萬オンスである。又銀の輸出總額は二億六千七百六十萬元に達し、英國へ一億五千六百九十萬元、米國へ四千五百五十萬元、印度へ二千九百九十萬元、香港へ二千三百七十萬元の輸出となつてゐる。

一九三四年世界の銀産額は約一億八千萬乃至一億八千一百萬オンスにして、前年は一億六千三百萬オンス、一九三二年一億六千三百萬オンス、三二年一億四千九百萬オンス、三〇年二億四千七百萬オンスである。即ち一九三四年銀産出額は一九三〇年乃至三一年に比し減少せるも、前年よりは一〇%の増加となつてゐる。一九三四年倫敦銀相場は年頭十九片十六分ノ五より漸騰し、十二月三十一日には二十四片十六分ノ九となつた。同年を通じ十一月は平均最高價格を現出し二十片四分ノ一に達し、一九二九年來の記録を残してゐる。紐育銀相場は四十四片七分ノ五に始まり五十四片七分ノ五に終つてゐるが、最高價格は十一月の五十五片七分ノ五、最低は五月の四十一片七分ノ五である。

第二節 爲 替

一九三四年世界經濟界は爲替市場の不安が一大暗礁となつてゐる。總説中に記述せる如く金本位離脱の金磅國家は金融情態比較的安定せるも、却つて金本位國の經濟界が危險状態に終始し、支那金融界にありては、米國購銀政策の

ため多大の打撃を被る等、誠に國際金融界は混沌たるものがあつた。

本年の外國爲替は絶えざる銀價の變動のため一時變態的狀態を示せるも、政府の銀輸出制限法施行後は對英一志六片二分ノ一に始まり、一志三片八分ノ五に低落してゐる。一方貸付利率は昂騰し信用貸付も頗る緊縮せる爲めに、金融界には恐慌の襲來を見たが歲末に近く漸次沈靜するに至つた。蓋し國民政府が銀輸出制限法を施行せる眞意は銀の流出防止にあつて、何等銀價抑制の意のなき事が判明し通貨膨脹説が杞憂に終つた結果であらう。

上海の倫敦向爲替は一月四日一志三片四分ノ三に始まり歲末一志四片十六分ノ十三に終つたが、最高は十月の一志六片二分ノ一である。又紐育向電信爲替は三三仙三七五に始まり三四仙六二五に終り、最高は十月にして三七仙五である。又リヨン向電信爲替は五法四二に始まり五法一七に終つたが、最高は十月の五法六二である。横濱向電信爲替は百八圓五十錢に始まり百二十圓五十錢に終つたが、最高は十月の百二十九圓七十五錢である。

第七章 移 民

支那中央植民委員會統計に據れば海外移民は總計七百九十萬人にして其中暹羅二百五十萬人、馬來一帶百七十萬人、蘭領印度百二十萬人、佛領印度支那四十萬人、比律賓十萬人等にて印度には支那移民の七五%が在住してゐる。海關の移民に關する統計は資料乏しく移民出入の最大門戶たる厦門、汕頭及び瓊州等の調査に止まるが、移民の趨勢は大體察

知し得るであらう。

▼一九三四年廈門、汕頭、瓊州經由移民數表

	廈門		汕頭		瓊州	
	出國	歸國	出國	歸國	出國	歸國
香港	一三,三三五	一七,三三三	五,五七五	六,九七九	—	—
マニラ	一三,三〇九	八,六〇九	—	—	—	—
臺灣	一三,六三三	一三,六三九	—	—	—	—
海峽植民地	一五,七五五	一九,三四三	三三,一七六	一六,四六七	一三,一七五	六,六六一
蘭領東印度	六,五八〇	九,六五七	三,〇〇〇	三	—	—
盤谷	—	—	一,四三九	一,三一一	五,〇四〇	三,六八〇
西貢	—	—	六,七〇四	五,七六七	—	—
合計	三三,四六一	三六,四七〇	一一,一四八	一〇,一八七	一八,一四五	一〇,三六一

香港は南支移民の中心地にして出入頻繁で正確なる移民數の調査は困難である。前記諸表中海峽植民地の移民は一萬八千六百七十七人、比律賓は四千七百人、佛領印度支那は千九百三十七人の増加にして、暹羅は出入數相等しく、蘭領東印度は二千七百六十八人の歸國人員増加である。上記各國への移民數の増減は各種の事情に基因するものであ

るが、暹羅は人頭税の重課に伴ふ減少にして、海峽植民地の増加は近年勃興せる鑛業、ゴム、紡績業等の傭人急増のためである。一九三四年支那海外移民の送金額は中國銀行調査に依れば國幣二億五千萬元に達すると云はれてゐる。

第八章 結論

一九三四年の支那對外貿易は輸出入共に減少せるも、輸入額は前年より二三・四％、輸出額は一一・六％の低落にして對外貿易は大體好調に經過せりと云ふべきである。過去に於ける連年の入超は一九三二年を契機として遞減し同年は一億三千二百萬元、一九三三年は二億二千二百萬元、更に本年は二億三千八百萬元減少となつてゐる。實に本年の入超額は三年前の二分の一以下に減退してゐる。

本年度入超額の減少は棉花、米、麥及び石油等の輸入減に因るものにして、上記諸品の國內産額の増加に伴ふものである。之が爲めに國內主要食料品及び工業製品等に裨益する所少なからず、將來各種食料品の自給自足への發展が期待せられる。

輸出亦稍々減少せるも世界經濟界の消長と關係を有し、強ち國內擾亂の致す所と斷定するは不當であらう。輸出品價格は總体に世界市場と値鞘著しき爲め勢ひ價格の吊下を行はねばならず、輸出品は増加せるも輸出額は反つて減少となつてゐる。而して支那の生産品が世界の市場に有する地位は決して輕視すべきでなく、輸入制限法の實施さへな

くば支那生産品の世界市場進出は愈々旺盛を示したであらう。尙近年海外に於ける支那生産品の價格騰貴の兆候が見えるが、殊に一九三四年下半年には事實として現出するに至つた。大豆五〇%、胡麻三五%、棉實油四〇%、棉實粕五〇%落花生五七%の騰貴は其主なるものにして、搾油用種子類、豚毛、桐油、アンチモニー、タングステン等も齊しく騰勢を示してゐる。然るに此等價格の騰貴は歐米の旱害の影響に因るもの多く、實際上の需要増加に起因するものにあらざるは注意を要する。

要するに支那生産品の海外市場に於ける需要は尙活潑とは云ひ難いが、目下海外貿易は價格の高低を基準として變動を受くるを以て、海外に於ける發展には須らく生産廉價の輕減が必要である。支那は土地宏潤、物産豊饒にして工賃頗る低廉、列國に比較して天恵を蒙る點頗る大である。而も此等の富源が充分開發せられざるに於ては其救済も困難なりと云ふべく近年銀高に因る對外爲替の騰勢と思ひ合せて誠に憂慮すべき問題である。

(備 考)

◆一金單位に對する各國貨平價

英國 磅	19.7265
米 國 弗	0.40
日 本 圓	0.8025
佛 國 法	10.20977
ライヒスマルク	1.679
和 蘭 盾	0.995
伊太利リラ	7.600
白耳義ベルガ	2.877
瑞典、丁抹、諾威貨	1.492
埃 太 利 志	2.843
海 峽 弗	0.705
留 比	1.096
波蘭ヅロツテイ	3.5656
瑞 西 法	2.073

◆一國幣元に對する各國貨換算率 (民國二十三年平均)

英國 磅	16 $\frac{1}{2}$
米 國 弗	0.33787
日 本 圓	1.13226
佛 國 法	5.14
ライヒスマルク	0.8529
留 比	0.8895
香 港 弗	0.88034

◆海關兩對國幣元比率

1 海關兩=1.558國幣元

(13) 外國爲替

昭和九年

地名	一月	二月	三月	四月	五月	
香港	最高	129 $\frac{1}{4}$	132 $\frac{1}{4}$	132 $\frac{3}{4}$	130 $\frac{1}{4}$	124
	最低	124 $\frac{1}{4}$	126 $\frac{3}{4}$	129	122 $\frac{1}{4}$	116 $\frac{1}{2}$
	平均	127.125	129.625	130.682	128.159	121.287
上海	最高	117	119 $\frac{1}{2}$	119 $\frac{1}{2}$	117	111 $\frac{1}{2}$
	最低	112 $\frac{1}{2}$	114 $\frac{1}{2}$	115 $\frac{1}{2}$	109 $\frac{1}{2}$	104 $\frac{1}{2}$
	平均	115.125	117.208	117.326	115.022	108.944
漢口	最高	117 $\frac{1}{2}$	120	120	117 $\frac{1}{2}$	111 $\frac{3}{4}$
	最低	113	115	116	109 $\frac{3}{4}$	104 $\frac{3}{4}$
	平均	115.625	117.708	117.769	115.272	109.194
天津	最高	117 $\frac{1}{4}$	119 $\frac{3}{4}$	119 $\frac{3}{4}$	117 $\frac{1}{4}$	111 $\frac{3}{4}$
	最低	112 $\frac{3}{4}$	114 $\frac{3}{4}$	115 $\frac{3}{4}$	109 $\frac{3}{4}$	104 $\frac{3}{4}$
	平均	115.375	117.458	117.576	115.272	109.194
北平	最高	117 $\frac{3}{4}$	120 $\frac{1}{4}$	120 $\frac{1}{4}$	117 $\frac{3}{4}$	112
	最低	113 $\frac{1}{4}$	115 $\frac{1}{4}$	116 $\frac{1}{4}$	110	105
	平均	115.875	117.958	118.076	15.750	109.444
大連	最高	121 $\frac{1}{2}$	124	124	121 $\frac{1}{2}$	114 $\frac{1}{2}$
	最低	116	118 $\frac{1}{4}$	120	113 $\frac{3}{4}$	107 $\frac{1}{2}$
	平均	119.292	121.187	121.865	119.488	111.898
青島	最高	117 $\frac{1}{4}$	119 $\frac{3}{4}$	119 $\frac{3}{4}$	117 $\frac{1}{4}$	111 $\frac{3}{4}$
	最低	112 $\frac{3}{4}$	114 $\frac{3}{4}$	115 $\frac{3}{4}$	109 $\frac{3}{4}$	104 $\frac{3}{4}$
	平均	115.375	117.458	117.576	115.272	109.194

(14) 銀塊相

昭和九年

地名	一月	二月	三月	四月	五月	
倫敦現物	最高	19 $\frac{3}{4}$	20 $\frac{1}{16}$	20 $\frac{1}{4}$	20 $\frac{1}{4}$	19 $\frac{1}{16}$
	最低	19 $\frac{1}{16}$	19 $\frac{1}{8}$	19 $\frac{7}{8}$	18 $\frac{3}{4}$	18 $\frac{3}{16}$
	平均	19.382	20.072	20.277	19.739	19.276
倫敦先物	最高	19 $\frac{3}{16}$	20 $\frac{3}{8}$	20 $\frac{1}{8}$	20 $\frac{3}{8}$	19 $\frac{5}{16}$
	最低	19 $\frac{1}{8}$	19 $\frac{1}{4}$	19 $\frac{5}{16}$	18 $\frac{1}{8}$	18 $\frac{1}{4}$
	平均	19.418	20.127	20.347	19.828	19.334
紐育公定	最高	45	46 $\frac{3}{8}$	46 $\frac{3}{8}$	46 $\frac{3}{8}$	45 $\frac{1}{8}$
	最低	43 $\frac{1}{4}$	43 $\frac{3}{8}$	45 $\frac{1}{8}$	42 $\frac{1}{2}$	41 $\frac{3}{8}$
	平均	44.187	45.232	45.875	45.180	44.226
紐育實際	最高	45 $\frac{1}{16}$	46 $\frac{9}{16}$	47 $\frac{1}{8}$	46.80	45.36
	最低	43 $\frac{3}{8}$	43 $\frac{3}{8}$	45.20	43.02	42.62
	平均	44.437	45.338	46.090	45.375	44.547

相場表 (續)

(1934)

六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
127 $\frac{3}{4}$	128 $\frac{1}{4}$	131 $\frac{3}{4}$	138 $\frac{1}{4}$	146 $\frac{1}{4}$	145 $\frac{1}{4}$	151	151
121 $\frac{1}{4}$	126	126 $\frac{1}{2}$	132	137 $\frac{3}{4}$	139 $\frac{3}{4}$	144 $\frac{1}{2}$	116 $\frac{1}{2}$
123.440	127.067	130.101	133.635	142.057	142.934	148.041	132.012
116	116	119	125 $\frac{1}{2}$	132 $\frac{1}{2}$	119 $\frac{1}{2}$	122 $\frac{1}{2}$	132 $\frac{1}{2}$
109 $\frac{1}{2}$	114	114 $\frac{1}{2}$	119 $\frac{1}{2}$	114	114 $\frac{1}{2}$	117 $\frac{1}{2}$	104 $\frac{1}{2}$
111.880	114.884	117.722	121.062	123.269	116.608	120.020	116.589
116 $\frac{1}{4}$	116 $\frac{1}{4}$	119 $\frac{1}{4}$	126	133	120	123 $\frac{1}{2}$	133
109 $\frac{3}{4}$	114	114 $\frac{3}{4}$	119 $\frac{3}{4}$	114 $\frac{1}{2}$	115	118	104 $\frac{3}{4}$
112.130	115.105	117.972	121.354	113.769	117.108	121.062	117.005
116 $\frac{1}{4}$	116 $\frac{1}{4}$	119	125 $\frac{1}{2}$	132 $\frac{1}{2}$	120	124	132 $\frac{1}{2}$
109 $\frac{3}{4}$	114	114 $\frac{1}{2}$	119 $\frac{1}{2}$	114	115	118 $\frac{1}{2}$	104 $\frac{3}{4}$
112.130	115.038	117.722	121.062	123.384	117.108	121.583	116.908
116 $\frac{1}{2}$	116 $\frac{1}{2}$	119 $\frac{1}{2}$	126	133	120 $\frac{1}{2}$	124	133
110	114 $\frac{1}{2}$	115	120	114 $\frac{1}{2}$	115	118 $\frac{1}{2}$	105
112.380	115.384	118.222	121.562	123.788	117.413	121.729	117.298
117 $\frac{3}{4}$	118	122 $\frac{1}{4}$	128 $\frac{3}{4}$	136	127 $\frac{1}{4}$	122 $\frac{1}{4}$	136
112	115 $\frac{3}{4}$	116 $\frac{1}{2}$	122 $\frac{1}{2}$	123	119 $\frac{1}{2}$	116 $\frac{1}{2}$	107 $\frac{1}{2}$
114.030	116.740	120.694	124.250	128.567	122.836	19.031	119.989
116 $\frac{1}{4}$	116 $\frac{1}{4}$	119 $\frac{1}{2}$	126	133	120	124	133
109 $\frac{3}{4}$	114 $\frac{1}{2}$	115	120	114 $\frac{1}{2}$	115	118	104 $\frac{3}{4}$
112.130	115.230	118.222	121.562	123.769	117.108	121.479	117.031

相場表

(1934)

六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
21 $\frac{1}{8}$	21	21 $\frac{7}{8}$	22 $\frac{7}{16}$	24 $\frac{7}{8}$	25 $\frac{1}{4}$	24 $\frac{7}{8}$	25 $\frac{1}{4}$
19 $\frac{7}{16}$	20 $\frac{1}{16}$	20 $\frac{7}{16}$	21 $\frac{5}{8}$	22 $\frac{7}{16}$	23 $\frac{7}{16}$	23 $\frac{3}{16}$	18 $\frac{9}{16}$
19.980	20.512	21.377	21.887	23.581	24.257	24.403	21.228
21 $\frac{1}{4}$	21 $\frac{1}{8}$	21 $\frac{1}{16}$	22 $\frac{9}{16}$	25	25 $\frac{3}{8}$	25	25 $\frac{3}{8}$
19 $\frac{1}{2}$	20 $\frac{3}{16}$	20 $\frac{1}{2}$	21 $\frac{1}{2}$	22 $\frac{9}{16}$	23 $\frac{9}{16}$	23 $\frac{15}{16}$	18 $\frac{1}{4}$
20.038	20.632	21.375	21.950	23.699	24.382	24.528	21.304
46 $\frac{1}{4}$	46 $\frac{3}{8}$	49 $\frac{3}{8}$	50	55 $\frac{3}{8}$	55 $\frac{3}{4}$	55	55 $\frac{3}{8}$
44 $\frac{1}{2}$	45 $\frac{3}{8}$	46 $\frac{3}{8}$	49 $\frac{1}{4}$	50	53	53 $\frac{1}{4}$	41 $\frac{3}{4}$
45.163	46.320	48.986	49.484	52.375	54.255	54.390	47.972
46.85	47.10	49.96					49.96
44.90	46	46.70					42.62
45.385	46.541	47.894					45.700

(市場閉鎖)

(13) 外 國 爲

昭 和 九 年

取 組 先	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	
倫 敦	最高	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8
	最低	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8
	平均	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8
シドニー	最高	1/5 1/8	1/5 3/8	1/5 5/8	1/5 7/8	1/5 9/8
	最低	1/5 3/8	1/5 5/8	1/5 7/8	1/5 9/8	1/5 11/8
	平均	1/5.672	1/5.646	1/5.622	1/5.596	1/5.570
巴 里	最高	4.95	4.71	4.59	4.59	4.53
	最低	4.67	4.53	4.51	4.52	4.50
	平均	4.793	4.582	4.550	4.558	4.520
羅 馬	最高	3.69	3.50	3.51	3.53	3.51
	最低	3.48	3.40	3.42	3.50	3.49
	平均	3.579	3.440	3.484	3.515	3.505
漢 伯 堡 林	最高	.81	.77	.75 1/2	.76 1/2	.76
	最低	.77	.75	.74 1/2	.75 1/2	.75 1/2
	平均	.7885	.7580	.7514	.7590	.7556
紐 西 蘭	最高	30 3/4	30	30	30 1/4	30 1/2
	最低	29 1/4	28 3/4	29 1/4	30 1/8	29 7/8
	平均	29.714	29.562	29.942	30.227	29.981
リ オ デ ジ ャ ネ イ ロ	最高	3.470	3.490	3.410	3.440	5.200
	最低	3.350	3.360	3.380	3.420	3.370
	平均	3.426	3.421	3.401	3.437	3.656
ア レ キ サ ン ド リ ヤ	最高	5.78	5.76	5.73	5.71	5.71
	最低	5.73	5.73	5.71	5.71	5.71
	平均	5.742	5.735	5.729	5.71	5.71
孟 買 谷 陀 蘭 貢 唐 地	最高	79	78 1/2	78	77 3/4	78
	最低	78	78	77 3/4	77 3/4	77 3/4
	平均	78.273	78.083	77.990	77 3/4	77.870
バ タ ビ ヤ ス マ ラ ン ス ラ バ ヤ	最高	47 1/2	45 1/2	44 3/4	44 1/2	44
	最低	45 1/2	44	43 3/4	43 3/4	43 3/8
	平均	46.406	44.417	44.254	44.187	43.805
新 嘉 坡	最高	199	199 1/2	200 1/4	200 1/4	200 1/2
	最低	197	198 1/4	199 1/2	200 1/4	200 1/4
	平均	198.333	199.198	199.528	200 1/4	200.324
マ ニ ラ	最高	171 1/2	173 1/2	168 3/4	166	167 1/4
	最低	164 1/2	166 1/2	167	165 1/2	166
	平均	168.135	168.896	167.528	165.659	166.768

替 相 場 表

(1934)

六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	全 年
1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2	1/2	1/2 1/8
1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2	1/2	1/2
1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2 1/8	1/2.033	1/2	1/2.065
1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 1/2	1/5 7/16	1/5 1 1/8
1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 1/2	1/5 7/16	1/5 1/2
1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 9/16	1/5 9/16	1/5.442	1/5.442	1/5.553
4.50	4.49	4.47	4.40	4.38	4.43	4.38	4.95
4.46	4.47	4.39	4.36	4.30	4.38	4.34	4.30
4.476	4.476	4.457	4.382	4.327	4.396	4.352	4.489
3.49	3.45	3.44	3.38	3.37	3.40	3.39	3.69
3.41	3.43	3.38	3.35	3.30	3.37	3.35	3.30
3.429	3.440	3.424	3.363	3.325	3.386	3.359	3.437
.78 1/2	.77 1/2	.76	.73 1/2	.71 3/4	.72 1/2	.71 3/4	.81
.75	.75 1/2	.73 1/2	.71 3/4	.70 1/2	.71 3/4	.71 1/2	.70 1/2
.7695	.7665	.7516	.7271	.7083	.7195	.7138	.7474
29 3/4	29 5/8	29 7/8	29 3/4	29	29 1/2	29	30 3/4
29 1/2	29 3/8	29 5/8	29	82 1/2	28 7/8	28 5/8	28 1/2
29.655	29 3/8	29.662	29.302	28.682	29.010	28.776	29.511
5.000	4.710	4.560	4.170	3.820	4.080	4.250	5.200
4.570	4.560	4.110	3.740	3.680	3.820	3.970	3.350
4.732	4.599	4.303	3.982	3.739	3.922	4.135	3.896
5.71	5.71	5.71	5.71	5.70	5.68	5.66	5.78
5.71	5.71	5.71	5.71	5.61	5.66	5.66	5.61
5.71	5.71	5.71	5.71	5.659	5.664	5.66	5.704
78	77 3/4	77 3/4	77 3/4	77 1/2	77 1/2	77 1/4	79
77 3/4	77 3/4	77 3/4	77 3/4	76 1/2	77	77	76 1/2
77.960	77 3/4	77 3/4	77 3/4	77.163	77.119	77.197	77.721
43 3/8	43 3/8	43 3/8	42 1/2	42 3/8	43	42 3/8	47 1/4
43 1/2	43 1/2	42 1/2	42 1/2	41 1/2	42 3/8	42 1/2	41 1/2
43.355	43.322	43.157	42.385	41.831	42.652	42.302	43.506
200 1/2	200 1/2	200 1/4	200 1/2	204	202	202	204
200 1/2	200 1/2	200 1/4	200 1/4	201	201 1/2	202	197
200 1/2	200.384	200 1/4	200.281	202.009	201.782	202	200.403
168 1/2	167 3/4	169 1/2	172	174 3/4	172 1/2	174	174 3/4
167 3/4	167 3/4	166 1/4	169 1/2	172	170 3/4	171 3/4	165 1/2
168.000	167 3/4	167.527	169.854	173.923	171.543	173.093	169.056

(11) 本邦對支貿易累年表

年次	輸 出		輸 入	
	對支輸出	輸出總額	對支輸入	輸入總額
明治四十二年	73,087,891	386,114,669	46,886,539	380,059,776
四十三年	90,037,354	440,978,666	68,569,541	346,041,973
四十四年	88,152,792	447,433,888	61,999,710	513,805,705
大正元年	114,823,727	526,981,842	54,807,116	618,992,277
二年	154,660,428	632,460,213	61,223,038	729,431,644
三年	162,370,924	591,101,461	58,305,783	595,735,725
四年	141,125,586	708,301,997	85,847,735	532,449,938
五年	192,712,626	1,127,468,118	108,638,636	746,427,911
六年	318,380,530	1,603,005,048	133,271,036	1,035,811,107
七年	369,150,814	1,961,100,668	281,707,333	1,668,143,833
八年	447,049,267	2,098,872,617	322,100,628	2,173,459,880
九年	410,270,499	1,948,394,611	218,090,911	3,336,147,781
十年	287,227,081	1,252,837,715	191,678,314	1,614,154,832
十一年	333,520,262	1,637,451,818	186,343,719	1,890,308,232
十二年	272,190,662	1,447,750,720	204,678,551	1,982,230,570
十三年	348,398,787	1,807,034,837	237,551,625	2,453,402,256
十四年	468,438,956	2,395,589,807	214,657,519	2,572,657,863
昭和元年	421,861,235	2,044,726,891	239,410,462	2,377,184,493
二年	334,188,063	1,992,317,165	226,034,359	2,179,153,858
三年	373,141,911	1,971,955,352	234,556,683	2,196,314,727
四年	346,652,450	2,148,618,652	209,974,056	2,216,240,015
五年	260,825,838	1,469,852,293	161,666,652	1,546,090,870
六年	155,750,668	1,146,981,326	145,697,197	1,235,675,266
七年	129,478,517	1,409,991,977	77,175,024	1,431,461,226
八年	108,253,039	1,861,045,713	113,357,334	1,917,219,858
九年	117,062,536	2,171,924,623	119,562,000	2,282,530,645

【註】 關東州及び香港を含まず、但し昭和六年以前は舊滿蒙を含む。

(12) 大阪港對支貿易累年表

年次	輸 出			輸 入		
	對支輸出額	總輸出額	總額に對する割合	對支輸入額	總輸入額	總額に對する割合
明治四十二年	26,256	35,969	73.0	4,439	19,723	22.5
四十三年	31,369	42,369	74.0	3,970	23,912	16.6
四十四年	29,770	43,512	68.4	4,521	20,082	22.5
大正元年	40,033	57,313	69.8	4,553	26,583	17.8
二年	53,821	73,452	73.3	5,343	41,766	13.8
三年	57,926	74,343	77.9	7,238	41,406	17.5
四年	56,259	93,823	60.0	16,831	50,611	33.3
五年	77,505	141,805	54.7	32,024	81,981	39.1
六年	154,890	225,317	68.7	35,178	83,642	37.6
七年	184,905	406,825	45.6	5,829	137,538	40.6
八年	259,305	438,837	59.1	52,409	167,671	31.3
九年	235,241	472,007	49.8	51,759	185,777	27.9
十年	172,760	292,058	59.2	41,492	118,873	34.9
十一年	175,584	322,775	54.4	36,679	128,794	28.5
十二年	166,902	296,770	56.2	45,511	177,275	25.7
十三年	226,200	402,378	56.2	55,959	292,754	20.5
十四年	289,320	500,673	57.1	46,349	305,368	15.1
昭和元年	241,105	418,250	57.6	50,461	280,991	18.0
二年	173,420	365,350	47.5	43,854	264,924	16.6
三年	218,736	409,894	53.4	49,441	297,418	16.6
四年	200,267	444,949	45.0	46,435	317,316	14.6
五年	131,246	299,319	43.8	33,759	231,345	14.6
六年	77,400	218,914	35.4	37,330	215,836	17.3
七年	75,461	334,212	22.4	20,670	267,987	7.5
八年	59,356	463,529	12.7	38,902	441,691	8.6
九年	58,653	586,180	9.9	36,654	523,290	6.8

(9) 支那金銀輸出表

民國二十三年(1934)

輸出國名	金	銀					合計
		塊	元	寶	中國銀元	其他	
印度	—	320,361	1,200,000	14,807,012	13,900,000	—	29,907,012
臺灣	—	770	2,851	—	—	—	2,851
佛領那	—	—	—	—	—	700	700
印度支那	—	—	—	—	—	—	—
英國	26,222,399	1,515,672	5,654,960	51,413,792	99,792,000	—	156,860,752
香港	—	421,881	1,627,620	259,055	20,288,080	1,563,340	23,738,095
日本	—	212,755	900,676	6,999,840	2,650,100	36	10,550
澳門	—	—	—	—	—	17,808	17,808
佛領那	—	27,694	116,000	—	—	—	116,000
東印度	—	—	—	—	—	—	—
比律賓	—	—	—	—	—	3,267	3,267
海峽殖民地	—	45,768	192,789	28,180	585,000	—	805,969
米國	—	400,379	1,643,305	6,363,600	37,535,010	—	45,541,915
廣州灣租借地	—	—	—	—	2,750	10,760	13,510
合計	26,222,399	2,945,280	11,338,201	79,871,479	174,752,940	1,595,911	267,558,531

(10) 船舶國籍別出入表

國籍別	民國二十一年(1932)		民國二十二年(1933)		民國二十三年(1934)	
	隻	噸	隻	噸	隻	噸
米國	5,966	5,376,352	5,298	5,350,526	5,026	5,406,637
白耳義	—	—	—	—	—	—
英國	49,517	59,430,602	47,574	58,215,213	48,738	58,866,763
智利	62	130,476	158	238,271	—	—
丁抹	432	1,063,092	518	1,327,832	541	1,439,401
ダシチ	—	—	2	7,844	—	—
芬蘭	2	7,084	—	—	—	—
佛蘭西	933	1,488,196	945	1,208,049	890	1,561,662
獨逸	756	2,393,906	535	2,354,425	537	2,342,949
希臘	1	9,344	10	31,392	8	23,748
伊太利	486	733,857	879	899,692	727	756,164
日本	13,441	19,775,917	12,863	20,168,140	13,045	20,139,115
和蘭	782	3,028,842	702	2,678,621	660	2,527,128
諾威	3,085	6,155,406	2,879	5,750,291	2,040	4,474,949
巴奈馬	27	97,704	25	89,459	16	59,426
葡荷牙	4,913	1,196,113	5,285	1,212,663	4,905	1,133,268
瑞典	154	634,421	128	512,817	138	517,284
蘇聯邦	2	16	46	79,096	38	68,598
支那	81,023	33,888,168	93,878	37,254,843	2	5,444
合計	161,592	135,409,436	171,725	137,379,174	173,083	140,473,933

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
其他物品			18,067,168		16,687,286
印度			168,805		132,817
加奈陀			—		57,080
佛蘭西			214,440		239,789
佛領印度支那			177,297		142,630
獨逸			103,900		51,579
英國			529,824		454,050
香港			5,471,424		5,219,509
伊太利			58,081		147,018
日本			630,419		628,058
朝鮮			172,449		91,028
澳門			219,042		204,654
蘭領東印度			1,130,326		992,274
諾威			15,733		3,778
比律賓			446,726		378,925
暹羅			565,755		521,174
海峽植民地			2,114,324		2,839,706
米國			2,623,881		1,487,734
關東州			2,877,301		2,719,612
其他			650,635		439,379

【註】 1. 括弧内の數字は金單位を示す。

2. 國別輸出額は再輸入を含む。

(8) 支那金銀輸入表

民國二十三年 (1934)

輸入國名	金	銀					合計
		塊	元寶	中國銀元	其他		
佛蘭西	—	—	—	—	—	110,480	110,480
佛領印度支那	—	2,066	8,264	—	—	—	8,264
香港	1,000	256,543	1,030,239	15,625	3,837,676	2,978,489	7,862,029
日本	—	—	—	—	—	30,000	30,000
澳門	—	—	—	—	—	452,382	452,382
海峽植民地	—	746	3,120	—	—	—	3,120
米國	—	571,248	2,354,105	—	—	—	2,354,105
關東州租借地	4,856	—	—	—	10,000	—	10,000
合計	5,856	830,603	3,395,728	15,625	3,847,676	3,571,351	10,830,380

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
化學品及同製品			6,267,829 (3,210,851)		5,866,089 (2,982,661)
糖	キントル	2,369,188	2,241,061	2,115,440	1,762,529
日本	"	1,393,983	1,321,882	1,774,360	1,485,764
朝鮮	"	975,202	919,139	341,079	276,745
其他	"	3	40	1	20
其他藥品及化學製品			4,026,768		4,103,560
臺灣			4,388		2,788
香港			1,274,418		1,219,076
日本			1,672,067		1,596,028
蘭領東印度			—		85,532
海峽植民地			397,741		630,424
關東州			369,005		397,388
其他			312,520		175,002
雜品			28,751,818 (14,724,613)		29,648,705 (15,107,250)
麥稈眞田	キントル	13,385	2,044,583	13,949	1,896,815
佛蘭西	"	2,331	592,455	2,036	441,794
獨逸	"	645	131,711	535	126,374
英國	"	1,050	350,339	1,341	659,122
伊太利	"	241	89,448	230	54,748
日本	"	6,497	382,164	7,344	293,947
瑞西	"	687	162,208	631	125,690
米國	"	589	179,696	552	110,339
其他	"	1,345	156,562	1,280	84,801
麥稈帽子其他	個	4,543,352	5,354,152	7,073,428	6,588,041
滋洲	"	—	—	78,675	61,872

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
佛蘭西	個	843,037	848,499	1,681,646	1,566,447
英國	"	1,323,548	1,903,553	1,143,224	1,258,227
米國	"	1,904,836	2,137,158	3,587,333	3,088,376
其他	"	471,931	464,942	586,582	616,775
爆竹及煙火	キントル	22,489	1,206,409	25,519	1,369,294
香港	"	18,490	1,009,011	21,439	1,174,916
米國	"	1,003	53,956	1,293	60,302
關東州	"	—	—	2,012	97,588
其他	"	3,004	143,960	782	36,991
ヘヤーネット	グロス	937,517	1,546,949	963,530	1,517,874
加奈陀	"	25,138	53,557	17,585	30,537
佛蘭西	"	101,146	124,757	99,411	112,242
獨逸	"	276,159	367,222	197,794	239,447
英國	"	32,441	57,614	61,318	96,021
日本	"	—	—	82,677	84,361
米國	"	408,652	835,057	412,902	834,817
其他	"	99,167	112,076	96,348	133,568
席及筵			4,849,248		5,634,295
埃及			112,073		211,548
英國			1,150,331		1,698,012
香港			1,595,937		1,264,087
澳門			195,629		247,256
和蘭			801,190		1,215,280
海峽植民地			161,977		129,429
關東州			—		304,751
其他			832,111		565,385

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
アンモニア	キントル	139,333	3,281,864	161,846	4,184,848
白耳義	"	5,792	138,116	5,386	112,694
佛蘭西	"	3,485	69,291	7,267	216,680
獨逸	"	13,452	301,760	23,968	581,098
英國	"	41,224	981,397	48,533	1,332,602
伊太利	"	4,165	101,158	1,068	24,703
日本	"	24,968	664,392	24,895	678,285
和蘭	"	9,428	220,061	14,689	384,600
米國	"	30,332	667,375	26,386	627,379
其他	"	6,497	138,314	9,654	227,377
其他	鑽	6,182,562	22,953,400	8,674,109	17,855,469
印度	"	48	1,843	12	1,159
臺灣	"	6	902	1	166
獨逸	"	117	25,226	18	4,843
香港	"	191,985	20,320,484	82,995	14,127,224
日本	"	5,927,939	2,501,703	8,563,048	3,584,025
朝鮮	"	13	17,871	19	10,017
關東州	"	—	—	7,549	12,388
其他	"	62,454	85,371	20,467	115,647
其他金屬及同製品			2,651,197		2,381,608
英國			85,101		93,135
香港			762,866		917,769
日本			237,740		127,022
比律賓			105,857		104,125
暹羅			93,482		69,859
海峽植民地			131,994		199,241
米國			323,559		253,240
蘇聯邦			—		—

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
關東州			—		218,800
其他			911,479		401,243
石泥土砂及同製品			3,500,819 (1,791,893)		3,160,329 (1,608,047)
セメント	キントル	11,345	18,660	4,081	6,837
臺灣	"	—	—	—	—
香港	"	11,329	18,611	—	—
日本	"	—	—	—	—
其他	"	16	49	4,081	6,837
磁器	"	140,392	1,578,501	150,393	1,523,941
香港	"	73,889	911,425	65,755	799,875
日本	"	1,963	16,234	1,695	16,724
澳門	"	6,953	57,252	7,374	54,625
暹羅	"	27,581	190,537	22,962	146,128
海峽植民地	"	16,035	126,975	25,332	208,481
米國	"	979	96,154	843	78,435
關東州	"	—	—	14,296	89,591
其他	"	14,087	184,474	12,380	131,930
其他泥土、砂石及同製品			1,903,658		1,629,551
香港			582,019		447,166
日本			251,648		255,531
澳門			201,357		55,594
比律賓			58,788		39,473
海峽植民地			118,283		79,833
米國			300,753		170,617
關東州			—		56,257
其他			394,005		525,320

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
海峽植民地	キントル	295	277,057	262	313,405
關東州	"	2,373	2,638,801	429	525,805
其他	"	120	170,991	218	292,635
絹	綃	5,423	5,141,812	6,181	5,185,921
印度	"	1,045	857,939	982	829,258
埃及	"	270	257,481	450	345,553
佛蘭西	"	894	860,032	684	559,615
獨逸	"	286	303,308	235	184,404
英國	"	725	694,557	765	677,316
香港	"	1,573	1,515,628	1,862	1,611,827
比律賓	"	20	29,942	66	66,436
海峽植民地	"	—	—	67	59,509
米國	"	18	20,112	174	95,030
其他	"	600	609,776	900	760,815
麻袋	"	91,320	1,791,452	45,386	905,842
臺灣	"	11,696	464,412	8,092	319,285
佛領印度支那	"	8,720	169,284	2,864	67,824
香港	"	59,271	842,691	29,079	332,362
日本	"	5,524	149,453	1,532	56,361
關東州	"	2,658	56,557	239	5,872
其他	"	3,460	109,199	3,580	124,138
カーベット	"	13,325	5,004,621	13,940	4,845,233
加奈陀	"	79	32,919	130	51,887
中米	"	354	154,220	443	179,623
英國	"	5,775	1,810,612	6,597	1,965,345
香港	"	400	133,832	416	129,061
日本	"	249	109,764	283	106,719
比律賓	"	68	29,213	118	52,124

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
南阿聯邦	キントル	236	75,513	739	226,434
米國	"	5,541	2,436,222	4,271	1,825,363
其他	"	625	223,499	944	309,544
其他織物及衣服類			10,389,984		10,022,812
印度			1,765,999		1,580,802
佛領印度支那			187,909		281,788
英國			21,503		59,311
香港			2,531,021		2,050,867
日本			737,754		145,539
澳門			94,097		64,048
蘭領東印度			916,990		970,043
比律賓			568,546		977,947
暹羅			323,946		293,520
海峽植民地			1,397,489		1,657,491
米國			295,450		342,218
關東州			1,260,092		383,678
其他			305,934		1,326,333
鐵、金屬及同製品			32,366,436 (16,558,170)		30,737,274 (15,647,098)
タングステン鐵	キントル	55,393	3,479,975	47,065	6,315,349
白耳義	"	—	—	4,902	727,894
佛蘭西	"	—	—	5,741	796,631
獨逸	"	12,529	815,112	14,855	1,975,836
英國	"	559	19,787	6,409	800,879
香港	"	27,591	1,759,874	2,013	242,518
伊太利	"	4,061	212,148	254	28,956
米國	"	—	—	11,854	1,560,089
其他	"	10,653	673,054	1,037	182,546

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
關東州			—		46,166
其他			568,418		754,873
織物			47,286,716 (24,178,100)		30,763,291 (15,613,070)
ドリル及ジーンズ	キントル	15,096	2,337,929	8,059	985,584
香港	"	9,129	1,309,732	5,780	689,269
日本	"	2,297	435,833	—	—
朝鮮	"	—	—	693	94,200
海峽植民地	"	644	76,725	665	79,178
關東州	"	8	1,532	68	6,801
其他	"	3,018	514,107	853	116,136
シャーチング及シ ーチング	"	87,545	11,603,847	27,536	3,127,731
アラビヤ	"	12,315	1,593,382	3,136	329,300
印度	"	1,166	131,168	957	122,465
東アフリカ	"	7,017	862,386	5,735	590,050
埃及	"	3,654	561,706	1,997	203,115
香港	"	6,859	1,034,810	4,179	549,246
朝鮮	"	—	—	5,063	516,400
蘭領東印度	"	3,661	489,715	3,541	416,460
暹羅	"	3,849	544,398	1,716	176,100
海峽植民地	"	2,783	324,702	694	83,847
關東州	"	2,987	633,043	201	60,387
其他	"	43,302	5,435,537	517	60,017
土布	"	31,192	3,791,147	20,392	3,074,769
香港	"	1,346	233,763	1,304	217,167
蘭領東印度	"	461	86,536	475	83,453
比律賓	"	572	93,372	405	65,405

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
海峽植民地	キントル	5,482	727,546	6,362	1,035,934
關東州	"	—	—	11,286	1,574,395
其他	"	23,331	2,649,930	560	98,415
夏布	"	4,371	1,225,498	6,453	1,702,178
香港	"	558	137,881	95	28,337
日本	"	—	—	224	57,410
朝鮮	"	3,538	1,031,563	5,589	1,492,785
其他	"	279	58,450	545	123,646
絹織物	"	6,720	15,647,326	5,597	11,273,346
印度	"	1,572	3,536,050	1,296	2,380,261
佛蘭西	"	33	78,951	—	3,677
佛領印度支那	"	62	177,524	44	117,875
英國	"	22	66,258	16	40,176
香港	"	2,852	6,622,859	2,463	4,846,915
澳門	"	50	170,124	34	75,405
蘭領東印度	"	—	—	35	68,375
比律賓	"	79	232,346	21	47,790
暹羅	"	156	375,596	236	462,766
海峽植民地	"	218	544,754	390	835,713
米國	"	56	159,390	60	138,990
關東州	"	1,457	3,262,882	622	1,397,163
其他	"	163	421,535	392	874,688
人絹織物同交織品	"	4,738	5,364,228	2,422	3,049,456
印度	"	578	563,249	525	555,795
佛領印度支那	"	97	139,015	49	82,175
香港	"	1,252	1,536,523	937	1,277,044
比律賓	"	24	39,857	3	3,833

604
184

(78)

(7) 支那輸出品々別表(續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
駱駝毛及山羊毛	キントル	18,801	3,426,342	14,491	2,101,483
白耳義	"	—	—	73	11,035
獨逸	"	325	45,724	667	84,085
英國	"	10,537	2,000,305	8,176	1,137,929
日本	"	6,133	1,045,778	4,188	660,336
米國	"	895	121,707	659	96,010
其他	"	952	222,151	728	112,088
羊毛	"	136,236	11,522,891	145,730	12,263,904
獨逸	"	1,094	108,905	4,336	342,471
日本	"	—	—	2,631	243,620
米國	"	132,948	11,210,801	132,300	11,198,857
其他	"	2,194	203,185	6,463	478,956
糸紐編製品			63,813,843 (32,619,000)		54,319,562 (27,574,970)
綿糸	キントル	327,288	40,006,825	270,326	31,293,901
印度	"	47,721	6,419,030	51,795	7,357,770
香港	"	38,404	4,704,889	30,977	3,593,148
日本	"	105,778	13,829,424	55,253	6,318,472
朝鮮	"	97,556	10,550,115	87,723	8,999,501
蘭領東印度	"	16,714	1,861,825	20,580	2,242,069
比律賓	"	7,700	862,480	8,780	996,190
暹羅	"	10,469	1,410,644	7,801	889,186
關東州	"	523	62,301	75	8,960
其他	"	2,599	321,151	8,642	985,116
糸拔製品類			11,238,461		11,499,505
濠洲			114,639		201,032
印度			163,243		117,777

(79)

(7) 支那輸出品々別表(續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
加奈陀			550,199		786,856
英國			357,656		472,228
香港			2,382,761		1,817,707
蘭領東印度			289,486		196,367
比律賓			31,878		24,861
海峽植民地			89,540		121,308
米國			6,765,317		7,099,537
其他			623,515		717,306
絹刺繡	キントル	1,625	5,136,233	1,926	4,887,392
印度	"	210	519,841	224	534,359
加奈陀	"	28	142,019	42	142,963
中米	"	182	584,508	252	655,071
錫蘭	"	42	147,467	56	143,596
英國	"	16	113,270	35	131,832
香港	"	687	2,014,692	801	1,890,940
蘭領東印度	"	53	137,331	23	44,700
比律賓	"	5	18,305	6	13,990
海峽植民地	"	61	215,537	94	206,551
米國	"	151	517,472	133	377,400
關東州	"	—	—	23	52,157
其他	"	194	731,149	238	695,939
ス			3,255,467		3,039,696
濠洲			56,090		84,834
加奈陀			161,199		115,310
獨逸			172,004		97,276
英國			363,144		175,076
香港			71,459		85,516
蘭領東印度			172,398		166,387
比律賓			32,158		52,162
米國			1,684,758		1,576,028

604
184

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
柞蠶糸	キントル	753	421,829	1,092	523,221
佛蘭西	"	612	319,213	898	426,084
伊太利	"	—	—	70	35,211
日本	"	103	76,891	88	44,773
其他	"	46	29,781	36	17,153
黃生糸	"	11,396	12,727,802	6,953	6,958,851
印度	"	5,563	5,921,852	3,827	3,739,933
錫蘭	"	65	53,619	3	2,075
埃及	"	864	682,142	675	520,168
佛蘭西	"	2,463	3,445,919	1,129	1,297,505
日本	"	436	551,540	395	400,585
米國	"	1,582	1,713,023	442	666,468
其他	"	424	360,646	482	332,117
其他生糸及繭	"	80,211	9,489,058	68,097	5,461,121
佛蘭西	"	9,620	1,266,714	8,706	973,142
英國	"	7,776	773,424	9,406	623,241
香港	"	21,194	3,381,082	7,502	569,962
伊太利	"	13,741	1,034,572	20,656	1,561,848
日本	"	15,709	1,635,775	14,126	1,068,829
米國	"	10,375	1,254,890	7,227	625,666
其他	"	1,811	144,835	474	38,433
棉花	"	437,645	30,228,958	209,409	15,200,879
佛蘭西	"	—	—	1,269	91,588
獨逸	"	4,498	322,643	6,186	450,415
日本	"	331,983	22,680,788	166,692	12,141,988
朝鮮	"	5,049	344,613	5,076	353,517
米國	"	80,346	5,753,986	22,296	1,600,816

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
關東州	キントル	5,726	411,803	2,459	185,397
其他	"	10,043	715,125	5,431	377,158
落棉及屑棉	"	223,178	3,669,839	261,004	4,769,247
白耳義	"	31,046	464,194	24,755	420,526
佛蘭西	"	24,788	364,820	23,366	390,624
獨逸	"	59,830	896,979	37,730	654,165
英國	"	21,324	451,966	28,556	582,933
日本	"	50,180	839,214	43,136	828,388
米國	"	—	—	73,772	1,311,701
其他	"	36,010	652,666	29,687	580,910
大藏及苧麻	"	128,900	5,391,736	207,532	9,338,986
白耳義	"	4,618	215,959	10,013	461,456
佛蘭西	"	6,767	291,430	10,969	502,685
獨逸	"	936	47,083	3,326	130,363
英國	"	3,188	132,155	8,033	344,833
香港	"	7,338	327,797	6,675	283,210
日本	"	100,721	4,120,242	161,843	7,309,806
關東州	"	—	—	583	25,517
其他	"	5,400	260,428	6,121	282,524
其他纖維			2,076,102		2,106,216
臺灣			59,941		24,082
獨逸			149,506		444,969
英國			106,279		220,053
香港			281,497		303,880
伊太利			—		43,588
日本			1,066,015		694,598
關東州			—		26,054
其他			413,518		348,992

604
184

(74)

(7) 支那輸出品々別表(續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數	金額(國幣元)	數	金額(國幣元)
暹羅			800,363		605,719
海峽殖民地			1,376,978		1,503,173
米國			536,760		491,358
關東州			—		611,727
其他			1,749,381		1,466,107
石炭	噸	582,529	5,077,925 (2,599,133)	811,996	6,287,415 (3,209,478)
台灣	"	—	—	289	1,943
獨逸	"	11,289	106,178	16,000	157,962
英國	"	5,809	54,315	52	382
香港	"	83,184	720,617	47,686	368,394
日本	"	392,256	3,370,446	569,270	4,441,854
朝鮮	"	48,192	406,713	138,880	960,690
比律賓	"	7,784	73,658	1,477	13,732
海峽殖民地	"	51	500	1,583	14,051
米國	"	2,769	29,718	1,261	11,767
其他	"	31,195	315,780	35,498	316,640
木材木其他同製品			5,824,961 (2,987,488)		5,791,000 (2,946,981)
台灣			148,948		75,848
英國			424,557		644,393
香港			3,014,375		2,834,627
日本			365,869		347,257
朝鮮			4,014		6,553
澳門			668,391		582,833
暹羅			236,629		198,123
米國			183,671		172,851
關東州			—		219,928

(75)

(7) 支那輸出品々別表(續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數	金額(國幣元)	數	金額(國幣元)
其他			779,323		708,697
紙			6,115,232 (3,131,022)		5,118,681 (2,608,031)
印度			65,816		78,593
佛領印度支那			499,211		383,997
香港			1,588,939		1,563,593
日本			120,417		81,541
澳門			93,786		93,693
蘭領東印度			189,341		169,182
暹羅			212,374		191,898
海峽殖民地			1,260,113		1,461,217
關東州			1,957,595		864,933
其他			138,598		151,178
織物纖維			114,051,700 (58,361,370)		74,760,986 (38,124,902)
白生糸	キントル	34,466	35,097,143	24,932	16,037,078
印度	"	6,701	6,019,396	5,144	2,688,919
加奈陀	"	223	248,289	18	13,350
埃及	"	271	209,150	416	262,361
佛蘭西	"	10,942	11,800,867	5,833	4,227,140
佛領印度支那	"	1,623	1,563,774	4,649	2,505,303
英國	"	1,309	1,403,808	1,123	944,804
香港	"	1,035	1,044,827	2,386	1,382,101
伊太利	"	—	—	113	80,448
日本	"	30	40,608	279	252,025
蘭領東印度	"	222	257,369	290	218,912
米國	"	11,802	12,237,551	4,333	3,245,871
其他	"	308	271,504	351	219,228

604
184

(72)

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
綠茶	キントル	174,480	20,332,962	151,789	18,501,929
アルゼリヤ	"	18,661	2,426,039	22,015	2,766,412
印度	"	14,495	1,074,661	5,623	578,936
埃及	"	—	—	466	64,251
佛蘭西	"	6,926	848,650	3,649	435,634
英國	"	1,137	185,385	4,847	656,881
香港	"	11,143	1,067,861	8,608	846,402
モロッコ	"	68,165	8,722,712	67,692	8,679,722
海峽植民地	"	2,803	283,627	3,482	343,142
トリポリ	"	10,714	1,249,504	8,740	998,504
チュニス	"	1,278	158,171	2,100	303,969
米國	"	22,039	2,285,826	14,260	1,517,195
蘇聯邦(極東)	"	10,174	1,164,629	3,117	407,937
其他	"	6,972	869,431	7,190	902,944
其他茶	"	146,913	4,460,326	168,973	5,432,394
埃及	"	—	—	171	4,259
英國	"	7,004	219,790	13,532	501,876
香港	"	5,723	144,499	7,629	200,971
蘇聯邦(極東)	"	118,475	3,378,264	134,417	4,023,043
關東州	"	6,578	318,877	3,920	206,406
其他	"	9,138	399,154	9,307	495,952
煙草			6,897,871 (3,536,086)		9,431,109 (4,824,959)
紙卷煙草	キントル	7,884	1,243,616	9,750	1,674,282
佛領印度支那	"	457	73,154	280	42,310
香港	"	1,004	247,807	838	202,626
日本	"	163	23,373	1,167	358,306
暹羅	"	3	623	—	—
海峽植民地	"	1,626	206,571	541	90,688

(73)

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
關東州	キントル	3,821	577,609	6,448	996,933
其他	"	777	115,678	483	84,481
葉煙草	"	94,822	5,063,508	148,552	7,266,112
埃及	"	4,933	345,402	5,910	496,682
獨逸	"	13,068	771,473	6,013	471,307
香港	"	20,172	928,894	10,541	510,483
日本	"	11,508	793,174	16,209	925,418
澳門	"	3,862	211,332	3,295	194,048
關東州	"	—	—	97,311	4,125,403
其他	"	41,291	2,013,856	9,356	546,906
其他煙草			590,747		490,715
香港			125,221		91,423
蘭領東印度			266,079		236,690
海峽植民地			167,492		124,168
關東州			—		28,135
其他			34,976		10,669
素麵及マカロニ	キントル	124,119	4,435,990 (2,270,429)	121,649	3,166,060 (1,596,617)
香港	"	108,027	3,978,182	105,699	2,768,445
蘭領東印度	"	—	—	2,166	54,895
比律賓	"	3,903	109,992	2,545	60,281
海峽植民地	"	7,798	219,873	9,005	220,961
其他	"	4,392	127,948	2,245	61,670
其他植物製品			12,680,787 (6,941,164)		12,547,865 (6,383,286)
香港			7,675,743		7,220,761
日本			170,719		245,491
比律賓			374,082		409,178

604
184

(7) 支那輸出品々別表(續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
獨逸	キントル	62,866	681,252	35,912	274,028
英國	"	32,367	364,497	32,766	277,653
香港	"	3,513	37,885	8,031	77,786
伊太利	"	72,805	793,214	65,735	584,537
日本	"	20,312	215,741	21,984	158,727
和蘭	"	96,136	1,082,943	100,585	807,391
葡萄牙	"	4,369	347,935	1,019	7,385
米國	"	3,118	33,545	796	6,663
關東州	"	—	—	72	538
其他	"	12,555	150,032	18,943	157,551
殼付落花生	"	891,173	12,661,227	1,012,228	9,384,007
加奈陀	"	—	—	31,198	269,974
丁抹	"	9,602	140,806	22,055	202,032
埃及	"	26,513	390,639	39,976	382,650
佛蘭西	"	140,143	2,084,823	37,416	355,449
獨逸	"	184,134	2,676,487	109,073	995,755
英國	"	16,690	248,140	19,867	190,67
香港	"	70,195	1,061,512	112,582	1,160,872
伊太利	"	30,299	427,968	23,033	243,863
日本	"	68,570	906,877	85,060	788,752
和蘭	"	270,553	3,689,496	430,108	3,822,607
諾威	"	—	—	12,192	109,728
比律賓	"	13,420	195,105	8,413	84,761
米國	"	4,106	58,035	22,941	202,128
其他	"	56,948	781,339	58,339	574,952
胡麻	"	334,569	5,192,468	435,215	4,993,750
丁抹	"	13,720	193,691	23,065	225,448
埃及	"	—	—	29,411	321,092
香港	"	7,698	139,167	20,167	238,739
伊太利	"	44,848	596,054	57,908	615,850

(7) 支那輸出品々別表(續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
日本	キントル	59,993	1,053,832	39,510	441,955
朝鮮	"	2,666	48,919	1,846	21,266
米國	"	146,221	2,258,593	178,062	2,150,547
關東州	"	1,380	41,072	27	363
其他	"	60,041	861,140	85,219	948,440
其他種子	"	983,054	9,344,291	1,220,296	10,569,402
佛蘭西	"	1,343	80,765	745	37,607
獨逸	"	32,468	1,513,125	14,164	694,117
香港	"	19,837	924,656	22,853	1,071,406
日本	"	884,967	5,984,708	1,047,268	6,838,311
和蘭	"	1,713	68,872	1,855	89,938
米國	"	13,027	195,029	114,150	1,217,453
關東州	"	—	—	1,718	50,256
其他	"	29,727	577,601	17,610	571,365
茶			34,210,037 (17,572,120)		36,098,549 (18,372,750)
紅茶	キントル	98,185	9,416,749	149,730	12,164,226
印度	"	165	13,312	236	16,252
佛蘭西	"	4,019	435,380	9,823	823,880
獨逸	"	6,385	698,014	3,896	415,243
英國	"	27,507	3,443,209	62,340	5,689,767
香港	"	13,513	655,922	12,763	634,276
モロツコ	"	1,856	276,640	196	13,080
和蘭	"	3,659	406,642	9,793	952,569
米國	"	16,375	1,375,142	18,320	1,441,905
蘇聯邦(極東)	"	—	—	18,184	1,177,976
"(歐洲)	"	—	—	—	—
其他	"	24,706	2,112,488	14,382	1,021,363

604
184

(68)

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
藥材及香料			10,449,134 (5,353,996)		10,093,743 (5,130,830)
印度			528,033		518,748
香港			7,040,024		6,749,756
日本			774,254		677,699
海峽植民地			198,547		204,589
米國			373,459		449,966
關東州			—		253,400
其他			1,537,303		1,246,071
油脂及臘			37,048,115 (19,000,149)		31,664,689 (16,095,288)
豆油	キントル	1	23	56	1,686
英國	"	—	—	3	104
香港	"	—	—	51	1,541
其他	"	—	—	2	41
落花生油	"	184,771	5,581,015	194,706	4,190,634
加奈陀	"	—	—	18,554	349,371
英國	"	—	—	—	—
香港	"	89,040	2,712,924	118,979	2,583,145
和蘭	"	—	—	—	—
比律賓	"	4,683	159,800	3,845	118,027
海峽植民地	"	22,106	826,402	7,314	294,591
米國	"	—	—	42,704	757,881
其他	"	68,942	1,881,889	3,327	88,125

(69)

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
桐油	キントル	754,081	30,261,269	652,836	26,216,683
漆	洲	2,236	97,507	2,479	110,364
白耳義	"	4,075	168,774	3,817	157,561
丁抹	"	6,544	258,550	7,551	308,246
佛蘭西	"	22,453	975,137	31,849	1,341,143
獨逸	"	14,375	603,294	22,495	999,733
英國	"	45,881	1,850,368	31,309	1,323,477
香港	"	67,818	2,639,193	86,545	3,466,737
伊太利	"	2,645	107,817	3,338	146,425
日本	"	5,392	235,508	9,287	325,261
和蘭	"	41,140	1,587,027	31,061	1,308,311
諾威	"	3,606	141,082	5,527	224,039
米國	"	531,671	21,356,160	410,390	16,203,956
關東州	"	—	—	1,606	59,889
其他	"	5,705	240,852	5,582	241,541
其他油脂及蠟	"	22,210	1,205,808	31,622	1,255,686
香港	"	12,381	798,573	18,509	873,209
日本	"	1,672	69,401	2,162	71,969
米國	"	4,239	181,385	9,317	235,613
關東州	"	—	—	285	12,958
其他	"	3,918	156,449	1,349	61,937
種子			32,014,206 (16,323,127)		27,934,725 (14,119,072)
落花生仁	キントル	434,194	4,816,220	362,430	2,987,566
アルゼリヤ	"	23,221	262,427	19,294	166,782
加奈陀	"	6,682	69,324	2,698	21,080
埃及	"	9,971	109,751	10,960	90,759
佛蘭西	"	86,279	967,674	43,635	356,686

604
184

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
其他穀類及穀粉	キントル	490,199	4,984,133	380,339	2,415,363
獨逸	"	299	3,358	5	60
香港	"	10,507	133,565	20,958	210,782
日本	"	25,073	96,923	234,937	1,015,336
朝鮮	"	300	3,164	974	6,593
海峽植民地	"	—	—	2,672	44,868
蘇聯邦(極東)	"	942	9,544	257	2,806
關東州	"	440,069	4,568,241	105,328	976,364
其他	"	13,016	169,469	15,208	158,554
豆粕	"	37,576	253,608	23,852	172,999
日本	"	559	3,234	562	2,250
海峽植民地	"	—	—	17,295	133,735
其他	"	37,017	250,374	5,995	37,014
其他種子粕	"	1,098,182	5,263,778	1,312,145	5,201,257
台灣	"	10,654	52,186	55,240	65,132
日本	"	1,025,166	4,793,473	1,159,470	4,432,323
海峽植民地	"	6,017	55,079	16,029	95,578
米國	"	19,096	110,303	10,470	49,995
其他	"	37,249	252,737	110,937	558,238

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
植物性染料			1,886,319 (968,010)		2,290,499 (1,162,641)
白耳義			144,441		216,587
佛蘭西			280,762		226,345
獨逸			291,271		290,152
英國			175,655		230,706
香港			—		195,566
日本			282,618		475,953
米國			404,997		453,821
其他			306,575		201,436
鮮果、乾果、其他			8,679,557 (4,433,900)		8,953,514 (4,566,875)
胡桃	キントル		2,177,864	50,706	2,637,693
濠洲	"	35,012	222,828	5,582	229,973
加奈陀	"	4,448	896,753	16,198	897,861
香港	"	12,904	71,820	4,434	106,124
新西蘭	"	2,825	147,213	3,088	158,269
米國	"	2,361	751,810	18,686	1,187,329
其他	"	2,633	87,440	2,781	60,073
其他果實			6,501,693		6,315,821
香港			3,615,657		3,550,459
日本			258,384		191,638
澳門			195,952		242,897
暹羅			380,090		293,255
海峽植民地			713,212		890,517
關東州			739,760		458,648
其他			598,802		688,919

604
184

(64)

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
英國			565,945		553,920
香港			524,329		546,989
日本			838,072		878,341
米國			1,252,456		993,866
關東州			—		171,451
其他			457,510		294,594
魚介及海產物			3,063,981 (1,565,234)		3,074,541 (1,565,411)
白耳義			—		500
香港			1,290,180		1,792,945
日本			410,293		460,251
澳門			228,871		232,884
暹羅			44,903		35,206
海峽植民地			89,663		64,557
米國			52,060		6,841
關東州			—		351,215
其他			319,885		132,286
豆類			4,790,555 (2,453,125)		6,953,770 (3,549,924)
黃豆	キントル	57,805	551,012	17,141	119,033
台灣	"	548	4,291	7,053	41,143
獨逸	"	1	9	8	61
香港	"	35,739	339,453	6,398	50,032

(65)

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
朝鮮	キントル	108	712	—	—
和蘭	"	5	25	2	20
蘭領東印度	"	1,325	12,758	701	5,562
比律賓	"	10,888	101,856	1,425	11,247
海峽植民地	"	7,451	73,616	550	4,456
其他	"	1,740	18,292	1,004	6,512
其他豆類	"	491,225	4,239,543	1,080,566	6,834,737
印度	"	34,005	339,347	18,151	159,754
錫蘭	"	60,979	425,518	54,643	389,023
台灣	"	4,624	37,491	5,553	38,624
獨逸	"	6,026	30,081	51,356	337,871
英國	"	3,564	26,972	205,913	959,621
香港	"	81,017	842,604	86,928	792,996
日本	"	171,002	1,408,354	143,762	1,050,298
朝鮮	"	3,804	34,033	3,639	25,243
和蘭	"	32,857	195,399	169,273	965,059
蘭領東印度	"	25,734	228,117	17,563	148,509
比律賓	"	23,712	241,249	27,979	251,974
海峽植民地	"	32,092	332,999	24,287	218,077
其他	"	10,999	97,439	271,541	1,497,624
穀類及同製品			18,236,265 (9,294,268)		1,572,299 (7,977,069)
穀	キントル	1,868,498	7,734,746	2,276,962	7,932,680
台灣	"	419,780	1,673,002	459,181	1,644,458
日本	"	1,416,584	5,907,282	1,768,835	6,106,245
關東州	"	—	—	30,512	104,126
其他	"	32,134	154,462	18,435	77,853

604
184

(62)

(7) 支那輸出品々別表(續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數	金額(國幣元)	數	金額(國幣元)
埃及	キントル	679	44,764	717	45,628
佛蘭西	"	2,961	195,336	1,196	79,330
獨逸	"	4,603	284,312	6,071	411,586
英國	"	6,593	407,969	2,814	189,597
香港	"	7,216	444,324	6,841	479,433
伊太利	"	207	13,827	890	53,648
日本	"	265	20,789	36	2,173
和蘭	"	381	18,839	385	18,963
西班牙	"	2,070	112,710	1,610	83,444
土耳其	"	461	31,438	834	54,910
米國	"	—	—	1,556	115,311
其他	"	2,410	158,961	898	60,803
牛皮	"	57,429	4,239,970	51,625	3,981,119
獨逸	"	6,100	485,039	6,025	483,431
香港	"	7,440	596,188	7,893	625,526
伊太利	"	4,741	366,169	1,595	129,362
日本	"	32,864	2,350,602	32,987	2,499,114
西班牙	"	56	3,487	—	—
米國	"	—	—	—	—
其他	"	6,228	438,485	3,125	243,686
犬皮	枚	364,868	622,160	75,038	187,401
英國	"	10,000	11,038	—	—
日本	"	1,774	1,082	8,071	4,314
米國	"	353,050	609,952	66,813	182,731
其他	"	24	88	154	356
山羊皮	"	8,140,655	7,329,232	7,296,679	6,608,878
白耳蘭	"	—	—	132,417	150,914
佛蘭西	"	179,915	190,569	208,683	217,606
獨逸	"	98,261	114,386	71,740	86,013
和蘭	"	129,309	176,012	310,035	417,457

(63)

(7) 支那輸出品々別表(續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數	金額(國幣元)	數	金額(國幣元)
米	國 枚	7,138,113	6,416,314	6,013,276	5,351,401
其他	"	595,057	491,951	560,028	385,487
仔山羊皮	"	1,287,404	5,561,232	1,516,523	6,985,060
獨逸	"	—	—	2,605	20,575
英國	"	14,834	31,138	22,306	94,950
米國	"	1,228,986	5,404,008	1,479,699	6,797,976
其他	"	61,372	151,533	81,376	84,458
鼯鼠皮	"	1,365,393	2,934,499	1,553,865	2,636,675
加奈陀	"	50,436	100,125	—	—
米國	"	1,309,074	2,814,800	1,553,584	2,634,504
其他	"	5,883	19,574	1,331	2,171
毯及敷物	"	899,275	4,208,370	604,483	2,653,637
佛蘭西	"	154,981	473,679	123,120	368,342
獨逸	"	50,152	177,829	24,982	77,380
英國	"	134,073	483,467	75,559	267,057
米國	"	541,864	3,003,152	336,164	1,822,075
其他	"	19,616	78,709	40,820	120,802
其他皮	"	—	4,452,727	—	3,672,547
佛蘭西	"	—	206,978	—	122,877
獨逸	"	—	197,274	—	221,577
英國	"	—	1,062,053	—	835,944
香港	"	—	133,028	—	128,129
日本	"	—	80,311	—	92,627
米國	"	—	2,584,111	—	2,130,557
關東州	"	—	—	—	35,893
其他	"	—	219,819	—	105,443
其他動物製品	"	—	4,682,195	—	4,939,364
丁蘭	抹	—	14,265	—	69,124
佛蘭西	"	—	324,286	—	422,778
獨逸	"	—	719,007	—	1,011,180

604
184

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
鮮卵	千個	339,267	5,616,476	304,903	4,233,770
獨逸	"	26,095	422,288	2,799	35,285
英國	"	154,217	2,698,526	149,851	2,176,347
香港	"	117,374	1,796,161	119,174	1,488,968
日本	"	842	12,196	201	3,506
澳門	"	3,453	63,004	2,981	55,089
比律賓	"	27,181	457,675	18,479	273,475
海峽植民地	"	5,891	89,838	8,068	142,334
關東州	"	—	—	1,922	26,731
其他	"	4,214	76,788	1,562	35,618
其他卵及卵製品			965,757		751,434
獨逸			76,725		91,241
英國			481,648		218,585
香港			238,169		193,742
海峽植民地			86,205		96,356
關東州			—		18,301
其他			83,139		133,209
鴨毛	キントル	42,303	3,453,021	47,948	4,272,287
丁抹	"	10,425	822,891	13,076	1,262,869
佛蘭西	"	—	—	1,699	214,048
獨逸	"	8,916	841,353	4,897	532,797
英國	"	4,364	373,223	4,053	510,272
香港	"	11,139	550,698	15,124	953,846
米國	"	4,925	518,190	4,749	547,460
其他	"	2,534	246,666	4,350	250,995
獸腸	"	19,326	5,589,303	26,167	8,272,399
白耳義	"	—	—	1,183	316,055
佛蘭西	"	4,780	1,306,184	7,290	2,179,689

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品名	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
獨逸	キントル	5,534	1,621,852	6,098	1,800,371
香港	"	93	55,126	214	107,246
和蘭	"	3,657	947,895	3,899	1,073,411
西班牙	"	1,954	499,770	2,879	877,519
米國	"	2,266	906,407	3,370	1,571,042
其他	"	1,047	253,045	1,234	347,066
鮮凍肉	"	71,327	2,880,174	82,606	3,276,888
英國	"	2,761	137,839	2,312	115,663
日本	"	66,696	2,620,793	79,537	3,121,052
比律賓	"	61	3,887	10	832
其他	"	1,809	117,655	752	39,587
加工肉			1,534,466		1,392,583
香港			929,148		741,282
比律賓			347,787		348,921
海峽植民地			47,953		83,852
米國			122,642		146,482
其他			87,852		72,125
獸骨及骨粉	キントル	322,314	1,854,781	395,223	1,682,074
日本	"	307,550	1,731,303	384,191	1,636,696
關東州	"	—	—	9,616	36,868
其他	"	14,764	123,478	1,416	8,510
ラ - F(散荷)	"	14,759	763,063	11,949	533,814
香港	"	9,285	464,433	7,478	286,440
比律賓	"	1,607	79,414	1,886	91,116
海峽植民地	"	3,530	203,051	2,399	148,007
其他	"	337	16,165	186	8,251
皮類			31,920,324 (16,368,787)		29,107,646 (14,823,577)
水牛皮	キントル	27,846	1,733,269	23,848	1,594,826

604
184

(7) 支那輸出品々別表

品別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
動物及同製品			77,306,608 (39,736,528)		77,866,525 (39,522,822)
動物			9,221,584		8,913,938
香港			7,961,440		7,553,849
澳門			786,482		952,481
關東州			—		165,635
其他			476,342		249,910
豚毛	キントル	41,276	11,687,262	42,063	15,127,155
白耳義	"	1,361	312,345	2,181	590,713
佛蘭西	"	2,766	611,644	3,060	759,035
獨逸	"	4,492	953,351	4,756	1,108,919
英國	"	10,151	2,516,742	12,036	3,428,968
伊太利	"	—	—	693	135,540
日本	"	4,306	2,287,107	4,808	3,626,333
米國	"	15,591	4,561,221	13,240	5,126,377
其他	"	2,612	445,472	1,292	352,166
乾卵白	"	23,398	8,320,141	25,682	7,519,131
白耳義	"	1,618	557,402	1,839	551,048
丁抹	"	478	171,958	80	20,171
佛蘭西	"	2,574	893,275	1,686	501,487
獨逸	"	3,302	1,128,374	4,236	1,268,938
英國	"	9,154	3,310,943	9,401	2,810,739
和蘭	"	2,837	1,041,537	2,740	822,641
米國	"	1,877	713,370	3,526	1,000,390
其他	"	1,558	503,282	2,174	643,717
乾卵黃	"	34,013	1,974,921	35,744	1,617,789
白耳義	"	6,334	368,918	5,499	297,906
佛蘭西	"	3,214	212,454	1,877	90,799

(7) 支那輸出品々別表 (續)

品別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(國幣元)	數量	金額(國幣元)
獨逸	キントル	7,674	444,164	10,576	451,031
英國	"	2,085	117,362	1,669	78,874
和蘭	"	4,715	257,556	4,753	220,265
米國	"	9,207	531,764	10,462	429,578
其他	"	784	42,703	907	49,336
卵白(濕凍)	"	38,043	1,898,501	22,940	862,293
佛蘭西	"	4,900	266,569	2,071	81,396
獨逸	"	4,177	196,249	1,023	43,711
英國	"	28,348	1,404,171	18,924	705,570
其他	"	618	31,512	922	31,556
卵黃(濕凍)	"	88,731	3,517,535	77,305	2,286,932
白耳義	"	8,483	275,274	7,270	196,222
佛蘭西	"	14,086	612,212	5,934	173,240
獨逸	"	24,610	772,575	22,024	564,487
英國	"	20,720	1,094,095	19,345	734,349
伊太利	"	8,552	308,868	9,163	239,742
和蘭	"	8,765	292,407	10,927	308,123
米國	"	1,786	89,296	1,064	37,247
其他	"	1,729	72,808	1,308	33,522
濕凍卵	"	292,516	14,186,293	338,303	12,872,231
佛蘭西	"	2,230	116,244	470	22,630
獨逸	"	12,166	556,697	4,025	148,938
英國	"	262,460	12,797,282	320,017	12,221,923
伊太利	"	—	—	1,497	63,811
日本	"	12,839	577,342	11,518	383,348
和蘭	"	943	45,427	716	29,452
其他	"	1,878	93,301	60	2,129

604
184

(56)

(6) 支那輸入品々別表(續)

品別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)		
		數量	金額(金單位)	數量	金額(金單位)	
香港	}		49,544		62,476	
日本			99,701		140,920	
米國			327,087		260,664	
其他			7,230		9,577	
寫真材料			3,153,651		3,372,366	
白耳義		}		156,507		98,865
佛蘭西				114,473		117,596
獨逸				855,210		1,022,997
英國				313,668		367,334
香港				822,822		236,778
日本			112,531		84,807	
米國			2,636,387		3,912,542	
其他			34,893		32,276	
其他小包郵便			968,728		836,281	
加奈陀	}			8,198		5,130
佛蘭西			44,431		22,708	
獨逸			61,809		52,350	
英國			54,961		40,347	
香港			35,360		25,115	
日本			574,072		537,060	
朝鮮			485		1,092	
瑞西			15,209		23,072	
米國			126,356		80,984	
關東州			—		26,514	
其他		48,472		21,909		
其他雜品		17,646,000		19,751,914		
濠洲	}		—		91,537	
澳太利			—		47,137	

(57)

(6) 支那輸入品々別表(續)

品別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(金單位)	數量	金額(金單位)
白耳義	}		196,028		167,236
印度			214,296		218,256
加奈陀			107,781		104,813
チエツコスロバキヤ			—		163,829
台灣			212,035		257,361
佛蘭西			379,451		210,628
佛領印度支那			174,338		52,913
獨逸			2,746,208		3,842,159
英國			3,370,847		2,501,329
香港			2,338,687		1,749,693
伊太利	}		560,409		465,508
日本			3,920,813		3,917,273
朝鮮			20,531		55,636
澳門			79,319		53,977
和蘭			42,376		84,592
蘭領東印度			—		68,565
比律賓			407,678		443,552
海峽植民地			137,913		128,842
瑞典			—		59,753
米國			3,087,558		4,261,057
關東州		772,134		547,589	
其他		789,045		365,503	

【註】 1. 括弧内の數字は國幣元を示す。
2. 國別輸入は再輸出を含む。

604
184

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(金單位)	數量	金額(金單位)
英國			33,615		26,356
香港			15,940		4,010
日本			94,724		100,252
瑞西			10,380		13,734
米國			110,649		67,818
其他			4,040		2,919
護謨靴	足	7,952,184	1,598,041	7,318,008	965,064
英國	"	43,815	15,585	9,023	2,130
香港	"	1,388,864	366,152	361,731	78,556
日本	"	5,458,908	876,020	6,717,467	831,617
朝鮮	"	3,726	731	—	—
海峽植民地	"	824,406	288,853	99,299	26,705
米國	"	56,852	13,707	80,962	10,517
關東州	"	—	—	26,411	5,819
其他	"	196,870	48,619	27,595	10,606
護謨タイヤ及チューブ			3,163,392		2,654,581
加奈陀			—		394,349
佛蘭西			45,782		31,763
獨逸			—		9,320
英國			518,113		406,079
香港			9,005		2,004
伊太利			—		25,583
日本			1,543,258		1,294,384
海峽植民地			80,879		9,861
米國			717,845		489,682
其他			297,284		13,001

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數量	金額(金單位)	數量	金額(金單位)
其他護謨製品			2,151,272		2,788,634
佛領印度支那			33,540		14,830
獨逸			47,908		30,765
英國			—		69,364
香港			97,111		24,193
日本			441,005		351,428
蘭領東印度			—		564,047
海峽植民地			997,981		1,436,290
米國			229,068		266,484
其他			312,216		38,650
マツチ	グロス	72,975	47,541	109,756	48,952
印度	"	—	—	22,060	17,613
香港	"	16,375	7,748	11,934	4,261
日本	"	9,554	2,955	36,254	11,579
瑞典	"	5,424	2,669	7,973	2,501
蘇聯邦(極東)	"	9,277	2,853	—	—
其他	"	32,346	31,318	31,535	13,001
其他事務所用品			1,216,702		1,135,962
獨逸			488,752		386,176
英國			137,750		112,551
香港			48,735		31,550
日本			221,80		328,983
米國			302,601		259,603
其他			23,976		19,753
香水及コスメチツク			855,528		855,534
佛蘭西			208,180		204,855
獨逸			62,398		56,441
英國			108,697		127,665

604
184

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品 別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數 量	金額(金單位)	數 量	金額(金單位)
石炭(煉炭を含む)	噸	1,978,658	11,417,259	1,038,436	5,657,722
印 度	"	167,292	1,481,924	63,310	533,166
台 灣	"	61,118	261,886	36,740	182,410
佛領印度支那	"	481,848	3,154,890	269,359	1,547,393
香 港	"	18,926	124,894	3,602	25,939
日 本	"	520,583	2,396,199	284,862	1,364,158
蘭領東印度	"	117,559	955,775	71,685	512,477
蘇聯邦(極東)	"	—	—	—	—
關 東 州	"	—	—	230,529	1,120,637
其 他	"	612,445	3,049,241	78,407	372,085
アスファルト	"	94,098	394,739	132,929	398,940
印 度	"	—	—	5,182	25,817
埃 及	"	—	—	50,204	112,659
日 本	"	28,821	68,168	30,810	68,308
蘭領東印度	"	503	3,585	5	77
米 國	"	55,551	276,690	46,576	191,532
其 他	"	9,384	47,575	1,044	4,119
磁器、瑛瑯鐵器、 硝子等			4,322,737 (8,439,957)		3,518,814 (6,934,069)
磁 器			503,518		566,523
獨 逸			40,717		23,991
英 國			89,911		55,92
香 港			4,112		53,443
日 本			354,999		473,236
其 他			14,255		10,264
硝 子(薄板及板)			2,142,950		1,491,403
白 耳 義			848,745		500,507
チエツコスロバ キヤ			202,196		330,405
獨 逸			231,170		199,296

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品 別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數 量	金額(金單位)	數 量	金額(金單位)
英 國			213,090		164,580
香 港			16,412		2,756
日 本			30,351		29,868
蘇聯邦(極東)			118,247		1,526
" (歐洲)			—		55,342
關 東 州			108,223		178,337
其 他			376,146		29,636
セメント	キントル	1,378,136	2,050,084 (4,002,845)	788,064	1,036,958 (2,043,007)
佛領印度支那	"	355,993	683,374	321,542	539,458
香 港	"	308,532	567,779	103,901	163,187
日 本	"	273,583	207,651	263,331	203,801
朝 鮮	"	—	—	5	4
澳 門	"	127,986	220,182	13,924	23,964
蘇聯邦(歐洲)	"	—	—	27	21
關 東 州	"	102,255	78,900	49,240	39,034
其 他	"	209,815	292,250	36,203	67,720
雜 貨	"		26,703,191 (52,098,742)		28,307,309 (55,670,665)
膠	"	23,977	597,312	12,850	357,168
獨 逸	"	6,678	178,873	2,041	65,624
英 國	"	3,514	101,547	3,016	80,497
香 港	"	761	20,530	377	10,725
日 本	"	6,026	156,515	4,707	111,851
關 東 州	"	—	—	175	4,465
其 他	"	7,027	140,957	2,551	84,637
蓄音機及及附屬品			382,092		290,915
佛 蘭 西			9,654		1,448
獨 逸			111,363		84,780

604
184

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品 別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數 量	金額(金單位)	數 量	金額(金單位)
蘇聯邦(極東)	立方米	197,229	1,500,092	27,050	309,678
關 東 州	"	—	—	34,141	405,619
其 他	"	90,680	1,145,249	79,656	983,269
鐵 道 枕 木	本	1,953,176	2,379,788	2,451,154	2,869,615
濠 洲	"	100,546	246,733	256,356	603,869
加 奈 陀	"	293,047	227,936	159,085	102,554
暹 羅	"	92,837	195,725	108,081	213,184
海峽植民地	"	—	—	6,647	19,992
米 國	"	1,350,261	1,509,113	1,851,423	1,863,446
蘇聯邦(極東)	"	57,628	57,854	44,178	47,679
其 他	"	58,857	142,427	25,384	18,891
チ - ク 材	"	16,878	1,143,547	11,856	772,660
英領北ボルネオ	"	—	—	60	5,109
佛領印度支那	"	161	12,216	52	3,145
暹 羅	"	14,075	909,458	9,674	599,661
海峽植民地	"	1,165	95,726	2,010	161,530
其 他	"	1,487	126,372	60	3,215
其他木材及木			2,619,061		2,813,298
香 港			105,832		91,104
日 本			846,007		964,924
朝 鮮			11,514		2,687
暹 羅			894,436		681,407
海峽植民地			40,495		43,901
米 國			143,553		251,114
蘇聯邦(極東)			148,913		46,840
關 東 州			—		56,159
其 他			443,359		678,733

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品 別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數 量	金額(金單位)	數 量	金額(金單位)
木、竹、籐、椰子、草及同製品			5,922,694 (11,564,643)		5,175,547 (10,158,719)
白 檀	キンタル	34,904	1,422,350	33,699	1,284,317
濠 洲	"	14,687	435,624	23,958	869,842
印 度	"	1,181	120,109	712	61,604
香 港	"	15,426	715,581	4,671	198,400
蘭領東印度	"	1,543	60,265	853	29,759
海峽植民地	"	1,568	71,709	2,920	104,936
其 他	"	507	19,419	592	19,955
籐、丸籐、割籐、籐皮及肉籐	"	67,081	1,277,818	67,806	885,441
佛領印度支那	"	—	—	129	3,576
香 港	"	7,713	173,222	5,443	110,949
蘭領東印度	"	4,036	77,535	3,266	56,903
海峽植民地	"	54,082	1,001,406	58,752	710,971
其 他	"	1,335	28,228	240	3,627
其他木、竹、籐及同製品			1,424,113		1,322,120
印 度			58,243		45,558
英 國			91,486		36,016
香 港			320,599		75,715
日 本			135,353		146,102
朝 鮮			14,306		4,259
比 律 賓			434,404		544,919
葡 萄 牙			—		74,640
西 班 牙			29,737		70,295
米 國			62,498		66,128
其 他			288,175		268,854
石炭燃料、ピツチタール			11,999,904 (23,417,404)		6,176,688 (12,119,763)

604
184

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品 別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數 量	金額(金單位)	數 量	金額(金單位)
米 國			1,309,068		992,452
其 他			413,823		243,789
生皮、鞣皮其他			3,723,424 (7,267,500)		3,104,574 (6,099,431)
靴 底 皮	キシルタ	6,569	544,948	2,730	187,103
濠 洲	"	936	70,404	401	29,124
印 度	"	905	50,467	295	12,187
加 奈 陀	"	597	65,868	86	8,002
佛領印度支那	"	—	—	46	5,209
獨 逸	"	17	1,659	7	1,323
英 國	"	360	32,746	116	7,959
香 港	"	1,364	83,865	607	28,465
日 本	"	65	5,545	315	23,481
海峽植民地	"	886	93,866	497	41,482
米 國	"	1,108	109,198	324	27,641
其 他	"	350	32,669	37	2,364
其 他 皮 革			968,293		1,034,922
濠 洲			—		33,227
獨 逸			371,103		401,023
英 國			39,572		40,141
香 港			19,465		5,740
日 本			25,303		31,513
米 國			424,936		432,689
其 他			93,390		98,622
其他生皮、皮革等			2,210,183		1,882,549
亞 爾 然 丁			57,595		80,030
印 度			79,584		114,317
佛領印度支那			97,418		50,691
獨 逸			145,102		162,494

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品 別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數 量	金額(金單位)	數 量	金額(金單位)
英 國			190,185		164,323
香 港			344,453		264,099
日 本			185,146		155,337
朝 鮮			1,071		321
暹 羅			74,590		75,866
米 國			515,041		331,353
關 東 州			—		131,501
其 他			548,863		404,617
木 材			19,142,310 (37,313,785)		17,383,062 (34,245,067)
硬 材(普通)	立方米	207,883	3,635,797	180,176	2,864,396
英領北ボルネオ	"	45,382	916,095	31,893	594,264
加 奈 陀	"	18,669	241,607	7,593	87,146
香 港	"	146	5,198	538	6,740
日 本	"	28,382	329,323	28,313	389,266
蘭領東印度	"	14,475	236,816	16,592	254,507
比 律 賓	"	16,084	317,687	15,959	251,847
暹 羅	"	2,692	54,887	1,762	47,761
海峽植民地	"	21,228	562,231	17,659	444,393
米 國	"	27,433	372,956	14,204	163,907
蘇 聯 邦(極東)	"	15,768	312,085	2,017	19,744
關 東 州	"	—	—	4,687	71,562
其 他	"	17,700	288,663	38,991	533,620
軟 材(普通)	"	948,207	11,162,530	830,779	9,746,762
加 奈 陀	"	247,529	3,304,904	305,439	3,557,542
日 本	"	59,566	719,977	56,084	634,228
朝 鮮	"	11,156	118,619	10,841	105,994
海峽植民地	"	164	2,877	220	6,360
米 國	"	341,980	4,372,538	317,848	3,749,907

604
184

(46)

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數	金額(金單位)	數	金額(金單位)
獨逸	キントル	28,830	404,240	4,313	56,075
香港	"	2,333	37,519	29	510
日本	"	38,157	409,005	10,397	113,696
和蘭	"	7,108	105,385	1,896	23,763
諾威	"	42,842	632,425	29,123	404,428
瑞典	"	36,613	573,255	23,762	344,947
其他	"	5,921	82,828	7,710	93,527
包裝用紙	"	137,537	1,762,026	161,062	1,956,599
奧地利	"	—	—	11,047	141,847
芬蘭	"	8,459	129,329	16,568	200,759
獨逸	"	19,218	248,871	8,423	99,443
英國	"	2,314	33,371	1,827	24,055
香港	"	1,298	24,634	20	296
日本	"	14,294	160,783	21,613	257,783
和蘭	"	15,380	186,040	3,280	39,969
諾威	"	11,283	135,942	16,279	182,476
瑞典	"	48,601	626,446	72,314	901,042
其他	"	16,968	222,015	9,840	111,442
其他印刷紙	"	202,154	3,362,977	159,730	2,218,453
奧地利	"	—	—	8,750	131,131
獨逸	"	12,399	208,866	9,827	164,037
英國	"	5,112	110,619	1,772	36,630
香港	"	1,240	27,374	305	5,083
伊太利	"	2,328	43,477	19	503
日本	"	31,673	429,162	56,119	671,528
和蘭	"	19,931	339,617	8,143	130,939
諾威	"	64,684	1,087,566	34,733	511,066
瑞典	"	21,693	388,281	5,254	86,812

(47)

(6) 支那輸入品々別表 (續)

品別	數量單位	民國二十二年 (1933)		民國二十三年 (1934)	
		數	金額(金單位)	數	金額(金單位)
米	キントル	22,236	381,301	12,517	199,179
關東州	"	—	—	8,118	99,186
其他	"	21,110	351,619	14,211	183,011
筆記及書用紙			1,071,381		1,504,629
奧地利			91,780		80,448
芬蘭			—		68,256
獨逸			310,047		290,661
英國			122,427		110,245
香港			29,725		5,927
伊太利			59,761		62,301
日本			48,787		154,330
和蘭			333,418		153,575
諾威			113,294		126,719
瑞典			147,981		91,797
米			260,578		291,286
其他			107,057		70,850
其他紙及紙器			5,747,503		5,180,569
奧地利			360,699		333,285
白耳義			148,383		146,774
加奈陀			183,715		273,857
芬蘭			—		122,045
獨逸			966,506		738,175
英國			1,096,342		746,705
香港			171,880		125,683
日本			530,911		739,683
和蘭			123,362		45,739
諾威			—		366,939
瑞典			478,803		311,539